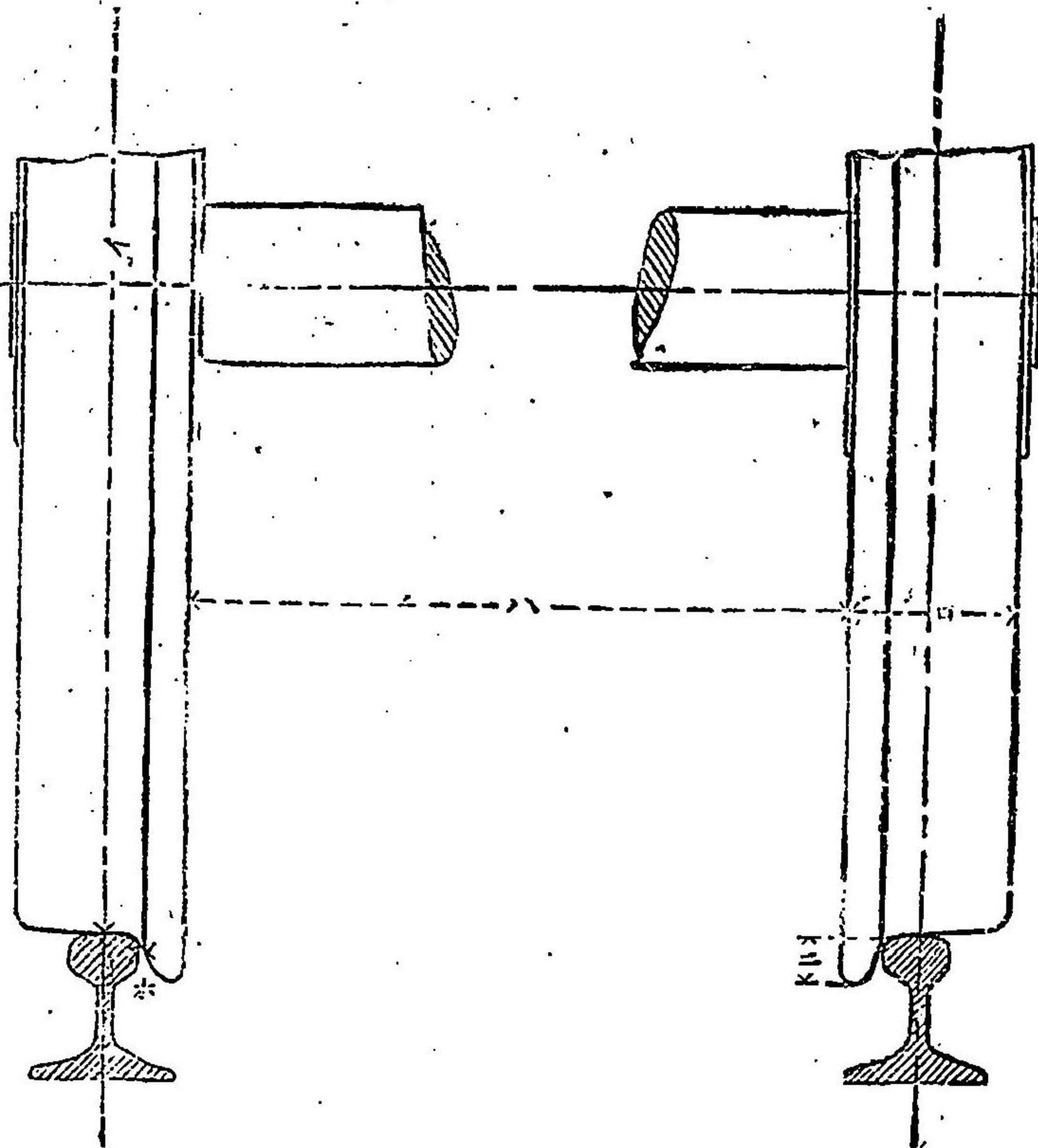


丙號圖面
車輪各部之度方



- ハ車輪ノ直徑
- ハ輪鐵ノ幅
- ハ輪鐵一對ノ中間距離
- ハ輪緣ノ高
- ハ軌條頭中位ノ内側ト輪緣トノ遊間

○逓信省令第三十四號
鐵道運轉規程左ノ通定ム

明治三十三年八月十日

逓信大臣子爵芳川顯正

鐵道運轉規程

第一章 線路

第一條 線路ノ狀態

線路ハ常ニ第二十二條第一項ノ最大速度ヲ以テ危險ナク列車ヲ運轉スルコトヲ得ヘキ狀態ヲ備フルコトヲ要ス但シ修繕又ハ改良工事施行等ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 線路ノ監視

線路ハ列車運轉上危險ノ虞ナキ樣常ニ工夫ヲシテ之ヲ監視セシムヘシ
線路ハ毎日少クとも一回保線係員ヲシテ其ノ狀態ヲ監視セシムヘシ
列車運轉上特ニ注意ヲ要スル場所ニハ番人ヲ置キ常ニ之ヲ看守セシムヘシ

第三條 對向轉轍器

本線路ニ在ル對向轉轍器ハ列車又ハ車輛通過ノ際ハ之ヲ鎖錠シ置クカ又ハ其ノ取柄ヲ支持スヘシ但シ常置信號機ト聯動ノ裝置ヲ施シタル轉轍器ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 踏切道ノ監視

交通頻繁ナル道路ノ踏切及停車場内ノ踏切ハ列車運轉中番人ヲ置キ常ニ之ヲ看守セシムヘシ前項ノ踏切ハ列車ノ通過前之ヲ閉テ通過後速ニ之ヲ開クヘシ

第五條 建築定規内ノ障礙物

建築定規ノ限界内ニ障碍物ヲ置クコトヲ得ス又其ノ以外ニ在リテモ其ノ限界内ニ崩壞シ來ルノ虞アル物ハ之ヲ置クコトヲ得ス

第六條 停車場

停車場内待合所、便所、乗降場等ハ常ニ之ヲ清潔ニ保持スヘシ
停車場入口跨線橋、地下道及乗降場等ハ旅客ノ通行ニ不便ナキ様常ニ之ヲ保持スヘシ
乗降場擁壁面ヨリ四呎以内其ノ他旅客ノ通行ニ妨害トナルヘキ場所ニ物品ヲ積置クコトヲ得ス
停車場及乗降場ハ日没後少クトモ旅客列車發着三十分前ニ點燈スヘシ

第二章 車輛

第七條 車輛ノ狀態

車輛ハ常ニ安全ニ運轉スルコトヲ得ヘキ狀態ヲ備フルコトヲ要ス
車輛ハ各部ヲ検査シ試運轉ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第八條 機關車ノ検査

機關車ハ使用前及使用開始後少クトモ三箇年毎ニ一回又三箇年以内ト雖汽罐ノ取換ヲ爲シ若ハ汽罐ニ重要ナル修繕ヲ施シタル際ニハ其ノ各部ヲ検査シ同時ニ汽罐ノ試験ヲ爲スヘシ
汽罐ノ試験ニハ水力ヲ用ヒ其ノ試験壓力ハ汽罐ノ最高實用壓力ニ三割五分以上ヲ増シタルモノタルヘシ
前項ノ試験ニ際シ汽罐カ其ノ原形ヲ變シ復舊セサルトキハ其ノ儘使用スルコトヲ得ス
汽罐ノ試験ヲ爲スニハ正確ナル標準驗壓器ヲ以テスヘシ且同時ニ驗壓器及安全弁ノ正否ヲ検査スヘシ

汽罐ハ其ノ使用ノ狀況ニ依リ少クトモ使用後八箇年以内ニ一回熔管ヲ撤去シ其ノ内部ヲ検査スヘシ爾後少クトモ六箇年毎ニ一回検査ヲ復行スヘシ
汽筒ノ内部摺動弁、注射器及之ニ屬スル活嘴、放汽管ハ少クトモ六箇月毎ニ検査ヲ爲スヘシ
可銲栓、制動機、火室焰管、管板等ハ少クトモ一箇月毎ニ一回検査ヲ爲スヘシ
汽罐ノ試験及機關車各部ノ検査ノ成績ハ帳簿ニ詳記シ置クヘシ

第九條 客貨車ノ検査

客貨車各部ノ検査ハ使用ノ狀況ニ依リ時々之ヲ施行シ客車ニ在リテハ少クトモ一箇年毎ニ貨車ニ在リテハ少クトモ三箇年毎ニ一回車輪(車軸附著ノ儘)聯結具及彈機ヲ取外シ之ヲ施行スヘシ
検査ノ成績ハ帳簿ニ詳記シ置クヘシ
列車ノ始發及終著停車場並中間所要ノ停車場ニ於テ各車ノ要部ヲ検査スヘシ

第十條 車輛ノ標記

機關車ニハ左ノ事項ヲ標記スヘシ
一 所屬鐵道ノ記號
二 番號
三 製造所ノ名稱及製造ノ年
四 第八條第一項最終検査ノ年月
客貨車ニハ左ノ事項ヲ標記スヘシ
一 所屬鐵道ノ記號
二 番號

- 三 製造所ノ名稱及製造ノ年
- 四 客車ニハ等級及旅客定員
- 五 手荷物車ニハ積載重量及自己重量
- 六 貨車ニハ積載容量、重量及自己重量
- 七 第九條第一項最終検査ノ年月

第十一條 修理ノ器具

機關車ニハ列車運轉中ニ生シタル毀損ヲ一時修繕スル爲ニ要スル器具ヲ備フヘシ

第三章 運轉ノ方法

第十二條 列車ノ進路

複線ニ於テ列車ハ其ノ左方ノ線路ヲ進行スヘシ
左ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

- 一 一線カ閉鎖セラレタルトキ
 - 二 工事及監視用列車ノ運轉
 - 三 停車場ト停車場外支線又ハ側線ノ分岐點トノ間ノ運轉
 - 四 停車場内ノ運轉
 - 五 救援列車ノ運轉
 - 六 後部補助機關車カ途中ヨリ退行スルトキ
 - 七 危急ノ場合ニ於テ列車カ中途ヨリ退行スルトキ
- 單線ニ於テ列車ノ行進ヲ爲ス停車場ニ於テハ列車ハ常ニ其ノ左方ノ線路ヲ進行スヘシ但シ特別ノ

事由アリテ例外ノ運轉ヲ爲ストキハ豫メ監督官廳ニ届出ツヘシ

第十三條 列車ノ推進

列車ハ左ノ場合ニ限り推進スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ前部ノ車ニ適當ナル職員ヲ乗込マシムヘシ

- 一 停車場内ノ運轉
- 二 故障若ハ線路破損等アリタルトキ
- 三 工事及監視用列車ヲ運轉スルトキ又ハ近傍ノ鑛山若ハ工場等へ列車ヲ出入セシムルトキ
- 四 停車場間ニ於テ最急勾配四十分ノ一ヲ超ユル線路ヲ上ルトキ但シ該區間ニ下リ勾配アルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十四條 後部補助機關車

列車ハ左ノ場合ニ限り後部ニ補助機關車ヲ使用スルコトヲ得

- 一 勾配急ナル線路ヲ上ルトキ
- 二 列車ヲ出發セシムルトキ若ハ故障アリタルトキ
- 三 避クヘカラサル場合ニ於テ勾配アル線路ヲ下ルトキ

第十五條 列車ノ軸數

列車ノ軸數ハ聯結具ノ強度ニ應シ之ヲ定ムヘシ如何ナル場合ト雖旅客列車ニ在リテハ機關車ヲ除キ七十軸ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條 列車ノ制動機數

各列車ニハ少クトモ左表ニ掲クル區別ニ依リ該列車カ有スル車軸ノ數ニ比例シタル制動機(車側

制動機ヲ除クノヲ備ヘシムヘシ

線路ノ勾配	四十パーセント	五十パーセント	六十パーセント	七十パーセント	八十パーセント	九十パーセント	百パーセント	百五十パーセント	二百パーセント
列車ノ平均速度	二五	二〇	一七	一五	一三	一一	八	七	七
一時間十五哩上	二八	二三	二〇	一八	一七	一五	一三	一一	一〇
一時間二十哩上	三三	二八	二五	二三	二二	一九	一六	一四	一三
一時間二十五哩上	三八	三三	三〇	二八	二六	二四	二二	二〇	一九
一時間三十哩上	四三	三八	三五	三三	三二	二九	二六	二四	二三
一時間三十五哩上	四八	四三	四〇	三八	三六	三三	三〇	二八	二七
一時間四十哩上	五三	四七	四四	四二	四〇	三八	三五	三三	三二

- 前表ニ依リ制動機ヲ附スヘキ車軸ノ數ヲ算出スルニ方リ左ノ事項ニ注意スヘシ
- 一 表中ニ掲クル勾配若ハ速度ノ中間ニ位スルモノハ制動機數ノ大ナルモノヲ取ルヘシ
 - 二 一區間ニ於テ最急勾配五十鎖以上續クトキハ其ノ勾配ヲ以テ標準ト爲スヘシ若シ最急勾配カ何レノ箇所ニ於テモ其ノ長五十鎖ニ達セサルトキハ五十鎖間ノ距離ニ於テ最大ノ高低ヲ示ス二點ヲ直線ヲ以テ連接シ其ノ勾配ヲ以テ標準ト爲スヘシ
 - 三 機關車ノ働輪軸ハ一軸ヲ以テ二軸ニ換算シ炭水車ニ在リテハ一軸ヲ以テ一軸半ニ換算スヘシ
 - 四 貨車ノ空虛ナルモノニ在リテハ其ノ一軸ヲ以テ半軸ニ換算スヘシ
 - 五 計算上軸數ニ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ一位ニ切り上クヘシ
- 前部機關車及炭水車ノ車軸ヲ計算外トシ列車カ備フル制動機ノ數カ前表十五哩ノ速度ニ應スル割

合ニ達セサルトキハ之ヲ該割合以上ニ増加スヘシ
旅客列車ノ制動機ヲ要スル軸數ハ其ノ機關車及炭水車ニ備フルモノヲ除キ四箇ヨリ少カルヘカラス

四十分ノ一ヨリ急ナル勾配ヲ有スル線路ニ於テ運轉スル列車及車輪ニ直働セサル制動機ヲ備フル機關車ヲ使用スル場合ニ要スル制動機數ハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 貫通制動機
鄰接停車場間ニ於テ列車カ一時間三十哩以上ノ平均速度ヲ以テ運轉スルトキ及同速度以下ト雖特ニ監督官廳ヨリ命シタル場合ニハ該列車ノ制動機ハ貫通裝置ト爲スヘシ

貫通制動機ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス
一 機關手及車掌ニ於テ雙方ヨリ制動機ヲ用ヒ得ヘキコト
二 制動機管ノ接續カ破斷スルトキハ制動機カ自働シ得ヘキコト

第十八條 客貨車ノ裝備
客車及貨車ハ時時掃除ヲ爲シ之ヲ清潔ニ保持スヘシ
夜間及隧道通過ニ二分時以上ヲ要スルトキハ客車ノ内部ニ點燈スヘシ
車窓ノ破損シ其人他毀損シタル客車ハ旅客用ニ供スルコトヲ得ス

第十九條 列車ノ組成
列車ヲ組成スルニ當リ成ルヘク制動機ヲ平等ニ分配スヘシ
旅客列車ニ在リテハ機關車ニ接スル一車若ハ相當ノ大サヲ有スル車室ニ旅客ヲ乗込マシムルコトヲ得ス

運轉ニ堪フヘキ毀損セル空車又ハ機關車ハ貨物列車ニ聯結運送スルコトヲ得各列車ノ後部ニハ緩急車ヲ聯結スヘシ

列車ヲ推進スルトキハ其ノ前部ニ緩急車ヲ附スヘシ

二車以上ニ跨ル貨物ヲ積載シタル貨車ハ旅客列車ニ聯結スルコトヲ得ス但シ貨物又ハ貨車ニ充分ナル發火シ易キ貨物ヲ積載シタル貨車ハ旅客列車ニ聯結スルコトヲ得ス但シ貨物又ハ貨車ニ充分ナル防火ノ施設ヲ爲シタル場合ニ於テ該貨車ヲ客車ヨリ二輛以上隔ツルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 列車中ノ警報

旅客列車ニハ機關車ノ警鈴ニ聯結シタル挽索又ハ他ノ適當ナル警報裝置ヲ施設スヘシ但シ混合列車ニ在リテハ警報裝置ノ聯結ヲ車掌室ニ止ムルコトヲ得車掌及旅客カ列車ヲ停止セシムルコトヲ得ヘキ貫通制動機ヲ備フルモノ及全列車ヲ通シテ通行シ得ルモノニ在リテハ前項ノ裝置ヲ施設サルコトヲ得

第二十一條 列車ノ運轉

鄰接セル停車場聯絡所及信號所間ニ於テ同一軌道ニ同時ニ一列車ノ外運轉スルコトヲ得ス單線ニ於テハ左ノ場合ニ限り鄰接セル停車場聯絡所及信號所間ニ於テ續行列車ヲ運轉スルコトヲ得

- 一 最急勾配カ五十分ノ一ヨリ緩ナルトキ
- 二 最急勾配五十分ノ一ニシテ其ノ延長五十鎖ニ達セザルトキ
- 三 最急勾配カ五十分ノ一ヨリ急ナルモ其ノ附近五十鎖間ノ距離ニ於テ最大ノ高低ヲ示ス二點ヲ連接スル直線ノ勾配カ五十分ノ一ヨリ緩ナルトキ

前項ノ場合ニ於テ先發列車ノ速度カ後發列車ノ速度ニ比シ小ナルカ又ハ同一ナルトキハ後發列車ハ少クトモ十五分間ヲ經タル後又先發列車ノ速度カ後發列車ノ速度ヨリ大ナルトキハ後發列車ハ少クトモ十分間ヲ經タル後ニ非サレハ出發セシムルコトヲ得ス

第二十二條 運轉速度

各停車場間ニ於ケル列車運轉ノ最大速度ハ監督官廳ノ認可ヲ得テ之ヲ定ムルコトヲ要ス列車ヲ推進スルトキハ鄰接停車場間ニ於ケル平均速度ハ如何ナル場合ト雖一時間十二哩ヲ超ユルコトヲ得ス

炭水車ヲ有スル機關車ヲ逆向シテ運轉スルトキハ鄰接停車場間ニ於ケル平均速度ハ如何ナル場合ト雖一時間十五哩ヲ超ユルコトヲ得ス

列車カ轉轍器ニ附帶スル曲線ヲ通過スルトキハ如何ナル場合ト雖其ノ速度一時間十哩ヲ超ユルコトヲ得ス

停車場内ニ於テ車輛ノ入レ換ヲ爲ストキハ特別ノ場合ノ外其ノ速度一時間八哩ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十三條 混合列車

混合列車ニ在リテハ左ノ條件ヲ遵守スヘシ

- 一 貨物積卸又ハ貨車解結ノ爲停止時間ヲ延長スルコトヲ得ス
- 二 規定ノ運轉時間ヲ延長スヘキ適當ナル貨車ノ聯結ヲ爲スコトヲ得ス

第二十四條 排雪車

排雪車ハ別ニ機關車ヲ附シ列車ニ先チ進行セシムヘシ但シ一時間十二哩以下ノ平均速度ヲ以テ運轉スル貨物列車ニ在リテハ其ノ機關車ノ前部ニ之ヲ聯結スルコトヲ得

第二十五條 車輛入レ換

停車場ニ於ケル車輛入レ換ハ列車カ鄰接停車場、聯絡所若ハ信號所ヨリ該停車場ニ向ヒ出發ノ後ハ相當ノ防護ヲ爲スニ非サレハ場内信號ノ防護區域外ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス
左ノ條件ヲ具備スルニ非サレハ機關車ノ前後ニ聯結シ又ハ機關車ニテ突放シ車輛ノ入レ換ヲ爲スコトヲ得ス、

一 車輛ニ適當ノ制動機ヲ備フルコト

二 經驗アル係員ヲ附スルコト

旅客ノ乗込ミタル列車ニ二輛以上ノ車輛ヲ聯結スルトキ又ハ動物若ハ危險品ヲ積載シタル車輛ヲ入レ換スルトキハ解放ノ儘之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條 停止機關車及車輛

機關車カ蒸氣ヲ有シ停止スル間ハ節汽弁ヲ閉チ轉向機ヲ中央ニ置キ制動機ヲ緊締シテ看守スヘシ
機關車ト聯結セサル停止車輛ニハ制動ノ手段ヲ施スヘシ

第二十七條 運轉報告

列車ノ運轉ニ關シテハ驛長車掌及機關手ヲシテ報告表ヲ調製セシムヘシ

驛長報告ハ毎日各停車場毎ニ上リ列車及下リ列車ノ二表トシ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 停車場名
- 二 年月日

三 當務者氏名

四 各列車番號

五 規定發着ノ時刻

六 實際發着ノ時刻

七 事故發生ノ場合ニ於テハ其ノ記事

車掌報告ハ毎日各列車毎ニ一表トシ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 列車番號

二 年月日

三 主任車掌、助務車掌及制動手氏名

四 運轉區間

五 停車場名

六 實際發着ノ時刻

七 聯結客貨車空實ノ區別及解結數

八 事故發生ノ場合ニ於テハ其ノ記事

機關手報告ハ毎日一機關車ノ仕業ヲ區別シテ上リ及下リノ二表トシ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 機關車番號

二 年月日

三 機關手及火夫氏名

四 運轉區間

- 五 列車番號
 - 六 停車場名
 - 七 實際發著ノ時刻
 - 八 聯結客貨車空實ノ區別及解結數
 - 九 燃料及油脂等ノ消費高
 - 十 事故發生ノ場合ニ於テハ其ノ記事
- 前項驛長車掌及機關手ノ報告ハ少クトモ六箇月間保存スヘシ但シ特ニ六箇月以上保存ノ必要アルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 運轉ノ狀況ニ依リ本條ニ依リ難キモノハ特許ヲ得テ本條ノ適用ヲ省略スルコトヲ得

附則

第二十八條 本規程ニ於テ旅客列車トハ特ニ明文アル場合ノ外混合列車亦同シ

單行機關車ノ運轉ニ關シテハ列車ニ準ス

第二十九條

本規程ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

從來施行セル運轉上ノ規定ニシテ本規程ニ抵觸スルモノハ本規程施行ノ日ヨリ其ノ效ヲ失フ

第三十條

特殊ノ設計ヲ必要トスル鐵道ニシテ本規程ニ依リ難キモノ及局部運送ノ用ニ供スル鐵道ニ在リテハ必要ニ應ジ監督官廳ノ認可ヲ得テ本規程ノ適用ヲ省略スルコトヲ得

(別記)

鐵道列車保安規程

第一章 總則

- 第一條 列車ノ運轉ハ閉塞式ニ依ルヘシ
- 第二條 續行列車ヲ運轉スルコトヲ得ヘキ線路ニ於ケル列車ノ運轉ハ票券式ニ依ルコトヲ得
- 第三條 左ノ場合ニ於ケル列車ノ運轉ハ指導法ニ依ルコトヲ得
 - 一 複線ニ於テ一線ヲ閉鎖セラレタルトキ
 - 二 單線又ハ複線ニ於テ一區間ヲ一時二區以上ニ分チタルトキ
 - 三 通票カ破損又ハ喪失セシトキ
- 第四條 鐵道運轉規程第十二條第二項第一號第五號及第六號ノ場合ニ於ケル列車ノ運轉ニハ閉塞式ニ票券式若ハ指導法ヲ併用スヘシ
- 第五條 本規程ニ規定シタルモノト異ナリタル保安法ヲ用ヒムトスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二章 閉塞式

- 第六條 閉塞區間ノ兩端停車場、聯絡所及信號所ニハ閉塞器ヲ備フヘシ
- 第七條 閉塞器ハ線路上列車ノ有無ヲ表示スル電氣指針若ハ標識ヲ裝置シ之ニ電鈴若ハ電話器等ヲ添裝シ列車運轉上必要ナル信號ヲ授受スルコトヲ得ヘキモノタルヘシ
- 第八條 閉塞器ハ前條ノ信號ヲ授受スルノ外他ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス
- 第九條 閉塞式ヲ施行スル線路ニ於テハ「列車區間ニ入ル」ノ信號ヲ前方ノ停車場、聯絡所若ハ信號

所へ送示シ先方ヨリ電氣指針若ハ標識ニ依リ之カ承認ノ信號ヲ受クルニ非サレハ該區間ニ向ヒ
列車ヲ出發セシムルコトヲ得ス

第十條 停車場、聯絡所若ハ信號所ニ於テハ後方ノ停車場、聯絡所若ハ信號所ヨリ前條ニ依リ、列車
區間ニ入ルノ信號ヲ受ケ之ニ承認ヲ與ヘムトスルトキハ電氣指針若ハ標識ヲ以テ承認ノ信號
ヲ該停車場、聯絡所若ハ信號所ニ送示シ左ノ條件ヲ具備スルニ至ル迄ハ次ニ受領スル「列車區間
ニ入ル」ノ信號ニ對シ承認ヲ與フルコトヲ得ス但シ線路ノ狀況ニ依リ第二號ノ條件ヲ省略スル
コトヲ得

- 一 列車ノ全部無事ニ到着ス
- 二 列車他線若ハ次ノ區間ニ入ル

第十一條 總テ閉塞信號ヲ送示スルトキハ之ヲ受領スル停車場、聯絡所若ハ信號所ヨリ該信號ヲ
承認シタル證トシテ所定ノ信號ヲ返示セラルルニ非サレハ之ヲ完了セシモノト認ムルコトヲ得
ス

第十二條 單線ニ閉塞式ヲ施行スル場合ニ於テハ單線用トシテ特ニ造ラレタル閉塞器ヲ用フルコ
トヲ要ス但シ其ノ他ノ閉塞器ヲ用フルトキハ票券式ヲ併用スルコトヲ要ス

第三章 票券式

第十三條 通票ハ各區間一箇ニ限ル

通票ニハ當該區間ノ兩端停車場、聯絡所若ハ信號所ノ名ヲ明記スヘシ又鄰接區間ノ通票ハ其ノ
形狀ヲ異ニスヘシ
通票ハ其ノ使用區間ヲ明示シ當該區間ノ通票ヲ以テスルニ非サレハ開ク能ハサル函中ニ保管セ

ラルルカ若ハ通票ニ錠鎖セラルルコトヲ要ス又鄰接區間ノ通票ハ其ノ形狀若ハ著色ヲ異ニスヘ
シ
第十四條 票券式ヲ施行スル線路ニ於テハ如何ナル列車ト雖其ノ機關車カ當該區間ノ通票若ハ通
券ヲ攜帶スルニ非サレハ其ノ區間ヲ運轉スルコトヲ得ス

第十五條 閉塞式ヲ併用スル場合ノ外通票ヲ攜帶セサル列車ハ途中ニ於テ停車若ハ逆行スルコト
ヲ得ス

第十六條 通票ハ當該區間ノ兩端停車場、聯絡所若ハ信號所ニ於テ之ヲ列車ニ授與スルトキニ非
サレハ函ヨリ取出シ又ハ通票ヨリ錠鎖スルコトヲ得ス又通票ノ效用ハ一回ノ片道運轉ニ限ルモ
ノトス

第十七條 列車乗務員ハ發車ノ際停車場、聯絡所若ハ信號所ニ於テ當該區間ノ通票ノ現在スルヲ
實視スルニ非サレハ通票ヲ受領スルコトヲ得ス

第四章 指導法

第十八條 指導者ハ各區間一人ニ限ル

指導者ハ赤色ノ帽若ハ腕章ヲ著クヘシ又其ノ氏名及擔當區間ハ豫メ關係鐵道係員へ告知スヘシ
第十九條 指導券ニハ其ノ使用區間ヲ明記シ指導者之ヲ發行ス又指導券ノ效用ハ一回ノ片道運轉
ニ限ルモノトス

第二十條 指導法ヲ施行スル線路ニ於テハ如何ナル列車ト雖其ノ機關車ニ指導者乗込ムカ又ハ機
關車カ指導券ヲ攜帶スルニ非サレハ當該區間ヲ運轉スルコトヲ得ス

第二十一條 閉塞式ヲ併用スル場合ノ外指導者ノ乗込マサル列車ハ途中ニ於テ停車若ハ逆行スル

コトヲ得ス

第二十二條 列車乗務員ハ發車ノ際指導者ヨリ直接授與セララルルニ非サレハ指導券ヲ受領スルコトヲ得ス

第二十三條 指導法ヲ施行スル區間ニ於テハ票券式ノ施行ヲ停止スヘシ

○逕信省令第三十五號
鐵道信號規程左ノ通定ム

明治三十三年八月十日

逕信大臣子爵芳川顯正

鐵道信號規程

第一章 總則

第一條 本規程ニ於テ夜間トハ日没ヨリ日出迄ヲ謂フ但シ煙霧風雪等暗黒ノ時ニ在リテハ晝間ト雖信號ハ夜間ノ法式ニ依ル

第二條 隧道内ニ於テ列車ニ向ヒ現示スル信號ハ夜間ノ法式ニ依ル

第三條 信號ヲ現示スル定例ノ場所ニ何等信號ヲ現示セス又ハ之ヲ現示スルモ平常ト異ナル状態ヲ呈スルトキハ危害信號ト見做スヘシ

第四條 信號ハ二箇以上ノ線路ニ兼用スルコトヲ得ス

第五條 本規程ニ於テ列車トハ特ニ明文アル場合ノ外單行機關車亦同シ

第二章 常置信號

第六條 常置信號機ハ柱上高ク腕立燈ヲ裝置シ危害信號ヲ現示スルヲ其ノ定位トシ必要ノ場合ニ於テ無難信號ヲ現示スルヲ得ヘキモノタルヘシ

第七條 常置信號ノ主要ナル種類左ノ如シ

一 場内信號 停車場内へ進入シ又ハ聯絡所若ハ信號所ヲ通過セムトスル列車ニ對スル信號ニシテ其ノ防護區域内へ進入ノ可否ヲ表示ス

二 遠方信號 列車カ該信號下場内信號ノ防護區域トノ間ニ於テ必要ニ應シ停止シ得ヘキ速度ヲ以テ除行スヘキカ又ハ相當速度ヲ以テ進行スヘキカヲ表示スルモノニシテ場内信號ノ防護區域外相當ノ距離ニ設置スヘキモノトス

三 出發信號 停車場ヨリ出發セムトスル列車及通過列車ニ對スル信號ニシテ該信號ヨリ外方へ進行ノ可否ヲ表示ス

四 側線信號 側線ニ關スル信號ニシテ其ノ所屬線ニ出入セムトスル列車ニ對シ進行ノ可否ヲ表示ス

前項第三號及第四號ノ信號機ハ第一號及第二號ノ信號機ヨリ其ノ高ヲ低クシ彼是區別シ易カラシムヘシ

第八條 二箇以上同種類ノ常置信號ヲ同一ノ柱ニ裝置スルトキハ最上位ニ在ルモノハ最左側ノ線路ニ屬シ以下順次右方ノ線路ニ屬スルモノトス

第九條 常置信號ハ晝間ハ之ニ向テ視ルトキ左腕ノ位置又夜間ハ燈色ヲ以テ左ノ法式ニ依リ之ヲ現示スヘシ

一 場内信號

危害信號(列車停止スヘシ)

晝間 腕ノ位置水平

夜間 赤色燈

無難信號(列車進行スヘシ)

晝間 腕ノ位置下向四十五度

夜間 綠色燈

二 遠方信號

危害信號(列車徐行シ必要ニ應シ停止スヘシ)

晝間 腕ノ位置水平

夜間 赤色燈

無難信號(列車進行スヘシ)

晝間 腕ノ位置下向四十五度

夜間 綠色燈

三 出發信號及側線信號

場内信號ノ法式ニ同シ

第十條 常置信號機ノ腕ハ長方形トシ其ノ表面ヲ赤色、背面ヲ白色トシ腕端ニ近ク表面ニハ白色

線、背面ニハ黒色線ヲ豎ニ畫スヘシ但シ遠方信號機ニ限リ腕端ヲ矢筈形ニ切ルヘシ

第十一條 常置信號機ノ燈カ何色ヲ示スヤヲ後方ヨリ判別スル必要アルトキハ左ノ背面光ヲ現示

スヘシ

赤色燈ノ背面 大ナル白光

綠色燈ノ背面 小ナル白光

第十二條 出發信號機及側線信號機ハ圓板信號機ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル

信號ハ左ノ法式ニ依ルヘシ

危害信號(列車停止スヘシ)

晝間 圓板正面ニ向フ

夜間 赤色燈

無難信號(列車進行スヘシ)

晝間 圓板側面ニ向フ

夜間 綠色燈

前項ノ圓板ハ其ノ表面ヲ赤色、背面ヲ白色トスヘシ

第三章 停車場外線路ノ信號

第十三條 列車ノ停止若ハ徐行ヲ要スル區域ノ兩端ニハ左ノ法式ニ依リ信號ヲ現示スヘシ

危害信號(列車停止スヘシ)

晝間 赤色圓板正面ニ向フ

夜間 赤色燈

注意信號(列車徐行スヘシ)

晝間 綠色圓板正面ニ向フ

夜間 表面綠色、背面白色燈

前項ノ圓板ハ其ノ背面ヲ白色トスヘシ

第四章 轉轍標識

第十四條 轉轍標識ハ尖端軌條ト聯動シ之ヲ前方又ハ後方ヨリ見ルモ晝間ハ標夜間ハ燈ノ表示ニ依リ轉轍器カ何レノ方向ニ開キ又如何ナル状態ニ在ルヤヲ容易ニ了解シ得ル裝置タルコトヲ要ス但シ標及燈ニハ赤色及綠色ヲ用フヘカラス

第五章 手合圖

第十五條 信號機ヲ設ケサル場所若ハ之ヲ用フルコト能ハサル場合ニ於テ列車ニ向ヒ危害又ハ注意信號ヲ現示セムトズルトキハ左ノ法式ニ依リ手合圖ヲ爲スヘシ

危害信號(列車停止スヘシ)

晝間 赤色旗ヲ現示スルヲ定則トシ已ムヲ得サル場合ニハ兩腕ヲ高ク舉ケ之ニ代フ

夜間 赤色燈

注意信號(列車徐行スヘシ)

晝間 綠色旗ヲ現示スルヲ定則トシ已ムヲ得サル場合ニハ片腕ヲ高ク舉ケ之ニ代フ

夜間 綠色燈

第十六條 何色ノ燈ニテモ又如何ナル物體ニテモ之ヲ急激ニ振り回ハストキハ危害信號ヲ示スモノトス

第十七條 故障ノ爲列車途中ニ停止シ又ハ事故若ハ必要ニ因リ一時線路ヲ閉鎖スル場合ニ於テハ其ノ場所ヨリ單線ニ在リテハ前後各四分ノ三哩以上、複線ニ在リテハ後方同距離以上ニ於テ第十九條ニ規定スル發雷信號ニ伴ヒ第十五條ノ危害信號ヲ現示スヘシ但シ四分ノ三哩以內ニ停車場聯絡所若ハ信號所アリテ之ニ通知シタルトキハ該方面ニ對シ本條信號ノ現示ヲ要セス

第六章 發雷信號

第十八條 發雷信號ハ他ノ信號ノ現示シアルコトヲ警告スルノ用ニ供スルモノトス

發雷信號ハ相互約四十呎ヲ隔テ雷管二箇以上ヲ軌條上ニ附著スヘシ

第十九條 第十七條ノ場合ニ於テハ晴雨晝夜ヲ論セス同條ニ規定セル危害信號現示ノ場所ニ發雷信號ヲ裝置スヘシ

第二十條 發雷信號アリシトキ之ニ伴ヒ他ニ何等信號ノ現示ナキハ危害信號ト見做スヘキモノトス

第七章 車輛入レ換合圖

第二十二條 停車場ニ於テ機關車ヲ以テ車輛ノ入レ換ヲ爲ストキハ左ノ法式ニ依リ合圖ヲ爲スヘシ

一 牽引セヨ

晝間 綠色旗ヲ上下ニ振ルヲ定則トシ已ムヲ得サル場合ニハ片腕ヲ上下ニ動カシ之ニ代フ

夜間 綠色燈ヲ上下ニ動カス

二 推進セヨ

晝間 綠色旗ヲ左右ニ振ルヲ定則トシ已ムヲ得サル場合ニハ片腕ヲ左右ニ動カシ之ニ代フ

夜間 綠色燈ヲ左右ニ動カス

三 停止セヨ

晝間 赤色旗ヲ現示スルヲ定則トシ已ムヲ得サル場合ニハ兩腕ヲ高ク舉ケ之ニ代フ

夜間 赤色燈ヲ現示ス
 第二十二條 車輛ヲ聯結セサル機關車ニ對シテハ左ノ法式ニ依リ合圖ヲ爲スヘシ但シ前進ト退却トハ機關車前後部ノ別ニ依リ之ヲ定ム
 前進セヨ 前條牽引ノ法式ニ同シ
 退却セヨ 前條推進ノ法式ニ同シ
 停止セヨ 前條停止ノ法式ニ同シ

第八章 列車乗務員ノ合圖

第二十三條 列車出發ノ際車掌ハ機關手ニ向ヒ左ノ法式ニ依リ合圖ヲ爲スヘシ
 晝間 片腕ヲ水平ニ伸ヘ手笛ヲ長聲ニ吹ク
 夜間 綠色燈ヲ高ク圓形ニ動カシツツ手笛ヲ長聲ニ吹ク
 第二十四條 列車乗務員カ保線係員又ハ踏切番等ヘ直ニ線路ヲ檢查スヘキ旨ヲ通告スル必要アルトキハ左ノ法式ニ依リ合圖ヲ爲スヘシ
 晝間 帽又ハ或ル物體ヲ緩ニ振ル
 夜間 燈ヲ緩ニ振ル
 第二十五條 機關手ハ左ノ法式ニ依リ汽笛合圖ヲ爲スヘシ
 一 機關車運轉ヲ始ムルトキ其ノ他注意ヲ促ストキ 適度ノ汽笛 一聲
 二 制動機ノ緊縮ヲ車掌ヘ促ストキ 短急汽笛 三聲
 三 制動機ノ緩解ヲ車掌ヘ促ストキ 適度ノ汽笛 二聲
 四 列車ノ近ケルヲ停車場聯絡所信號所又ハ往來頻繁ナル踏切ヘ告クル必要アルトキ

長緩汽笛 一聲
 同 上 數聲

五 保線係員ヲ招集スル必要アルトキ

第九章 列車信號

第二十六條 列車ノ前部ニハ左ノ法式ニ依リ信號ヲ掲クヘシ

單線

- 一 通常列車
 - 晝間 別ニ信號ヲ掲ケス
 - 夜間 機關車前部緩衝梁ノ右側ニ赤色燈一箇
- 二 臨時列車
 - 晝間 機關車煙箱ノ上ニ赤色圓板一箇
 - 夜間 機關車前部緩衝梁ノ兩側ニ赤色燈各一箇
- 複線
 - 一 通常列車
 - 晝間 別ニ信號ヲ掲ケス
 - 夜間 機關車前部緩衝梁ノ右側ニ綠色燈一箇
 - 二 臨時列車
 - 晝間 機關車煙箱ノ上ニ綠色圓板一箇
 - 夜間 機關車前部緩衝梁ノ兩側ニ綠色燈各一箇
 - 三 反對ノ方向ニ運轉スル列車

單線ニ於ケル臨時列車ノ法式ニ同シ

前項信號ノ外總テ機關車燈箱ノ上ニハ夜間白色燈ヲ點スヘシ

第二十七條 機關車ヲ逆向シ列車ヲ牽引スルトキ及推進列車ノ場合ニ於テハ前條ニ規定スル信號及點燈ハ總テ列車前部ノ相當位置ニ掲クヘキモノトス

第二十八條 列車ノ後部ニハ左ノ法式ニ依リ信號ヲ掲クヘシ

一 通常及臨時列車

晝間 後部緩急車ノ兩側ニ前方ヘ白色後方ヘ赤色ヲ示ス圓板各一箇ト後部緩衝梁ノ左側ニ赤色圓板一箇

夜間 後部緩急車ノ兩側ニ前方ヘ白色後方ヘ赤色ヲ示ス燈各一箇ト後部緩衝梁ノ左側ニ赤色燈一箇

二 同上列車ノ後部ニ補助機關車ヲ附スルトキ

晝間 後部緩急車ノ兩側ニ前方ヘ白色後方ヘ赤色ヲ示ス圓板各一箇ト補助機關車後部緩衝梁ノ左側ニ赤色圓板一箇

夜間 後部緩急車ノ兩側ニ前方ヘ白色後方ヘ赤色ヲ示ス燈各一箇ト補助機關車後部緩衝梁ノ左側ニ赤色燈一箇

三 同上列車推進ノトキ

晝間 機關車後部緩衝梁ノ左側ニ赤色圓板一箇ト別ニ前部緩急車ノ兩側ニ後方ヘ白色ヲ示ス圓板各一箇

夜間 機關車後部緩衝梁ノ左側ニ赤色燈一箇ト別ニ前部緩急車ノ兩側ニ後方ヘ白色ヲ

示ス燈各一箇

四 同上列車ノ後部ニ無蓋緩急車ヲ附スルトキ及單行機關車ノ場合

晝間 後部緩急車若ハ機關車ノ後部緩衝梁ノ左側ニ赤色圓板一箇

夜間 後部緩急車若ハ機關車ノ後部緩衝梁ノ左側ニ赤色燈一箇

第二十九條 臨時列車ノ出發アルトキハ之ニ先シ同方向ニ運轉スル列車ノ後部ニハ前條ニ規定スル信號ノ外左ノ信號ヲ掲クヘシ

晝間 緩衝梁ノ右側ニ赤色圓板二箇

夜間 緩衝梁ノ右側ニ赤色燈一箇

第三十條 第二十八條及第二十九條ノ場合ニ於テ晝間ハ白色ノ燈ヲ以テ圓板ニ代用スルコトヲ得

前項代用燈ニハ夜間信號ノ法式ニ依ルヘキ場合ノ外晝間點火ヲ要セス

第三十一條 停車場ニ於ケル車輛入レ換用機關車ハ夜間前部緩衝梁ノ右側及後部緩衝梁ノ左側ニ赤色燈各一箇ヲ掲クヘシ

第三十二條 列車カ長半哩以上ノ隧道ヲ通過スルトキハ晝間ト雖夜間信號ヲ用フヘシ

第三十三條 夜間列車ノ一部ヲ停車場外線路ニ留置スルトキハ其ノ所在ヲ示ス爲少クトモ前部及後部緩衝梁ニ赤色燈各一箇ヲ掲クヘシ

附則

第三十四條 本規程ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
從來使用セル信號ニシテ本規程ニ抵觸スルモノハ本規程施行ノ日ヨリ其ノ效ヲ失フ

第三十五條 局部運送ノ用ニ供スル鐵道ニ在リテハ必要ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ得テ本規程ノ適用ヲ省略スルコトヲ得

○逓信省令第三十六號

鐵道運輸規程左ノ通定ム

明治三十三年八月十日

逓信大臣子爵芳川顯正

鐵道運輸規程

第一章 總則

第一條 鐵道係員ハ運輸上ノ安全便益ヲ旨トシ旅客及公衆ニ對シ懇切ニ其ノ職務ヲ行フヘシ

第二條 旅客及公衆ハ鐵道係員ノ職務上ノ指圖ニ從フヘシ

第三條 鐵道ハ主要ナル停車場ニ申告簿ヲ備置クコトヲ要ス

第四條 旅客貨物ノ取扱ニ關シ鐵道ノ處置ニ不當ノ廉アリト認ムル者ハ前條ノ申告簿ニ記載シ抗告ヲ爲スコトヲ得

申告簿ニ依リ抗告ヲ爲ス者ハ事實ヲ詳記シ其ノ住所ヲ記シ署名スルコトヲ要ス

鐵道ハ氏名住所ヲ明示シタル抗告ニ付テハ遲滞ナク辯明ヲ與フヘシ

第五條 停車場ニハ見易キ場所ニ驛名ヲ明示シ其ノ他旅客ノ指導タルヘキ標示ヲ爲スヘシ

第六條 停車場ニハ旅客及貨物ノ運賃表、列車時刻表其ノ他運輸上必要ナル諸表規則等ヲ備置クヘシ

第七條 停車場ニハ旅客及貨物ノ運送ニ必要ナル事項及鐵道ノ取締ニ關スル法令其ノ他ノ條項ヲ摘要シテ之ヲ揭示スヘシ

第八條 效用ヲ失ヒタル諸揭示類ハ即時ニ之ヲ撤去スヘシ

第九條 停車場ニハ時計ヲ備付ケ正確ニ時刻ヲ齊正スヘシ

第二章 旅客運送

第十條 停車場ニハ見易キ場所ニ當該停車場ヨリノ列車出發時刻及終著驛名並適宜連絡列車ノ終著驛名ヲ揭示スヘシ

第十一條 停車場ニハ當該線路ニ於ケル列車時刻表、運賃表及必要ニ應シ他ノ關係線路ニ於ケル時刻表及運賃表ノ摘要ヲ揭示スヘシ

第十二條 前項ノ時刻表ニハ列車ニ聯結スル客車ノ等級及種類ヲ表示スヘシ

第十三條 停車場ニハ見易キ場所ニ當該停車場ヨリノ旅客運賃表ヲ揭示スヘシ

第十四條 四年未滿ノ小兒ハ無賃、滿四年以上十二年未滿ノ小兒ハ半賃金ヲ以テ運送スヘシ

第十五條 乘車券ニハ通用區間及期限、客車ノ等級、運賃額並發行ノ日附ヲ記載スヘシ

特種及臨時發行ノ乘車券ニ在リテハ前項ノ記載事項ヲ省略スルコトヲ得

第十六條 停車場ニ於テハ少クとも一時間前ニ之ヲ開始スヘシ

繁ナル停車場ニ於テハ少クとも一時間前ニ之ヲ開始スヘシ

出札ハ列車出發時刻五分前迄ハ之ヲ停止スルコトヲ得ス

改札口ハ同一分前迄ハ之ヲ閉鎖スルコトヲ得ス

第十七條 鐵道ハ旅客ニ對シ運賃金額正算拂渡ヲ請求スルコトヲ得

第十八條 旅客ハ改札前ニ在リテハ其ノ買受ケタル乘車券ヲ他級ノ乘車券ト交換シ又ハ之ヲ返還シテ運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得但シ運賃拂戻ノ請求ハ乘車券發行ノ當日ニ限ル

乗車券相當ノ坐席ナキ場合ニ於テ鐵道係員カ優等車ニ一時便乘ノ取扱ヲ爲ササルトキハ旅客ハ選擇ニ依リ旅行ヲ止メ又ハ劣等車ニ移乘シテ運賃ノ全額又ハ差額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ直ニ鐵道係員ニ申告スルコトヲ要ス

前二項ノ場合ノ外旅客ハ乗車券ヲ返還シ運賃ノ拂戻ヲ受ケ又ハ劣等車ニ乘換ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

改札後ト雖坐席ノ餘裕アルトキハ旅客ハ何時ニテモ運賃差額ヲ支拂ヒ優等車へ乘換ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第十八條 乗車券ハ其ノ適用區間中何レノ部分ニ付テモ之ヲ使用スルコトヲ得但シ特種ノ列車ニ付監督官廳ノ認可ヲ得テ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ乘繼限定ノ效ヲ妨ケス

第十九條 天災事變其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ列車ノ運轉ヲ中斷シタルトキハ旅客ニ對シ相當ノ便宜ヲ與ヘ及保護ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ旅客ノ請求アルトキハ既ニ通過セル線路ニ對スル運賃ヲ控除シ殘額ノ拂戻ヲ爲シ且出發停車場へ無賃送還スヘシ

第二十條 列車運延ノ爲相當ノ時間中ニ接續スル列車ニ乘車スルコトヲ得サルトキハ連絡乗車券ヲ有スル旅客ニ限リ其ノ請求ニ因リ無賃ニテ出發停車場(途中下車セルトキハ其ノ最近下車停車場)ニ送還シ出發停車場ヨリノ運賃(途中下車セルトキハ其ノ最近下車停車場)出發停車場トノ間ニ對スル運賃ヲ控除シ殘額)ヲ拂戻スヘシ但シ旅客カ次回ノ返リ列車ヲ以テ中斷ナク復歸スルトキニ限ル

第二十一條 旅客カ任意ニ劣等車ニ便乘シタルトキハ運賃差額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十二條 事故ノ爲列車發着ノ遅延、運轉ノ中斷等アリタルトキハ關係停車場ニ遲滞ナク之カ揭示ヲ爲スヘシ

第二十三條 乗車券ヲ所持セス又ハ無効ノ乗車券ヲ以テ乘車シ若ハ検査ノ際乗車券ノ呈示ヲ拒ミ又ハ取集ノ際之ヲ渡ササル旅客ニ對シ鐵道ハ普通運賃二倍以内ノ割増運賃ヲ請求スルコトヲ得一乗車券ヲ買受クルノ暇ナク鐵道係員ノ許諾ヲ得テ乘車シタル旅客ニ對シ鐵道ハ二十錢以内ノ割増運賃又ハ増拂ノ支拂ヲ受ケタルトキハ之ニ對スル證券ヲ交付スヘシ

第二十四條 列車出發時刻五分前ニ至ルトキハ鐵道係員ハ鳴鈴其ノ他便宜ノ方法ニテ發車ノ注意ヲ與フヘシ

第二十五條 列車ハ揭示時刻表ニ示サレタル時刻前ニ出發セシムルコトヲ得ス

揭示時刻表ニ掲ゲタル列車ノ運轉ハ天災事變其ノ他已ムヲ得サル事由ニ基因シタル運送上ノ支障アルトキ若ハ之ヲ豫知シタルトキハ外休止スルコトヲ得ス

第二十六條 鐵道係員ハ旅客ノ請求アルトキハ坐席ヲ指定スヘシ

必要ト認ムルトキハ旅客ノ請求ナキ場合ト雖坐席ノ指定ヲ爲スコトヲ得

旅客乘車中坐席ヲ離レ特ニ之ヲ占置カサルトキハ他人之ヲ占取スルモ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第二十七條 囚徒ヲ乘車セシムルトキハ普通旅客ト之ヲ區別スヘシ

第二十八條 列車出發ノ合圖アリタル後ハ旅客ハ乗車スルコトヲ得ス

出發時刻ニ後レタル爲發行當日限り通用ノ乗車券ノ效用ヲ失フニ至リタルトキハ其ノ翌日內ニ

限リ該乗車券ヲ以テ目的地ニ向ヒ發スル列車ニ乗車スルコトヲ得但シ乗後レノ際遲滞ナク其ノ乗車券ヲ鐵道係員ニ提出シ有效ノ證明ヲ受ケタルトキニ限ル

第二十九條 旅客ハ同乗者ニ迷惑ヲ及ボス風體行爲ヲ爲スヘカラス

車内ノ器具、裝飾物ヲ汚損セサル様注意ヲ爲スヘシ

線路係員通行人等ニ危險ヲ與フルノ虞アル物品ハ限ニ之ヲ投棄スヘカラス

第二十條 途中客車ニ不足ヲ生シタルトキハ遲滞ナク之ヲ補充ノ準備ヲ爲スヘシ

第二十一條 列車カ停車場ニ到着シタルトキハ鐵道係員ハ停車場ノ名稱、乗換アルトキハ其ノ旨

列車カ停車場外ニ於テ停止スルトキハ縱令長時間ニ涉ルト雖鐵道係員ノ許諾ヲ得ルニ非サレハ

第三十二條 三時間ニ少クトモ一回五分以上停車セサル列車ニハ各客車ニ便所ノ備アルコトヲ要ス

第三十三條 旅客自ラ攜帶シ得ル物品ニシテ坐席ヲ塞カス且不潔、臭氣等ノ爲同乗者ニ迷惑ヲ及

前項ノ物品ニ對シテハ旅客自ラ保管ノ責ニ任スルモノトス

第三十四條 犬其ノ他ノ動物ハ客車内ニ携伴スルコトヲ得ス

第三十五條 攜帶制限ヲ超ユル火藥類及危害ヲ他ニ及ボスヘキ虞アル物品ハ客車内ニ持込ムコトヲ得ス

第三章 託送手荷物 第三十六條 旅客カ其ノ旅行ニ必要ナル物品ハ手荷物トシテ之ヲ託送スルコトヲ得但シ貨幣、有

價證券其ノ他ノ高價品及動物ハ此ノ限ニ在ラス 特種ノ列車ニ付テハ監督官廳ノ認可ヲ得テ手荷物ノ運送ヲ取扱ハサルコトヲ得

第二十七條 火藥類及危害ヲ他ニ及ボスヘキ虞アル物品、臭氣ヲ發シ若ハ不潔ナル物品及容積重

量過大ナル物品ハ手荷物トシテ託送スルコトヲ得ス

第二十八條 鐵道ハ旅客一人ニ付少クトモ三十斤迄ノ手荷物ヲ無賃ニテ運送スルノ便ヲ與フヘシ

半賃金ニテ運送スル小兒ノ無賃手荷物斤量ハ前記斤量ノ半ヲ以テ制限トス

第二十九條 斤量ニ依リ運賃ヲ定メサル特定物品ハ小荷物トシテ託送ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十條 託送手荷物ハ物品ノ散逸セサル様錠鎖緊束シ紛ラハシキ他ノ運送標記等ヲ附著スヘ

第四十一條 手荷物ヲ託送スル者ハ第十五條ニ規定スル乗車券賣出時間内ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

但シ列車出發時刻ヨリ少クトモ五分前ニ之カ手續ヲ爲ササルトキハ次回ノ列車ヲ以テ運送セラ
ルルモ故障ヲ述フルコトヲ得ス

第四十二條 手荷物ヲ託送スル者ハ其ノ乗車券ヲ鐵道係員ニ呈示スヘシ

第四十三條 手荷物ノ託送ヲ受ケタルトキハ引換ノ符票ヲ交付シ之ト引換ニ引渡ヲ爲スモノトス

第四十四條 手荷物受取ノ際前條引換ノ符票ヲ所持セサルトキハ其ノ受取ルヘキ權利アルコトヲ
證明シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ之カ引渡ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十五條 託送手荷物ハ其ノ到達停車場ニ於テ之カ引渡ヲ爲スヘキモノトス但シ時間其ノ他取
扱ニ差支ナキトキハ旅客ノ請求ニ應ジ中間停車場ニ於テモ之カ引渡ヲ爲スヘシ

前項但書ノ場合ニ於テハ旅客ハ豫メ鐵道係員ニ乗車券ヲ呈示シ引渡ノ請求ヲ爲スヘシ

第二項但書ノ場合ニ於テハ手荷物運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十六條 第十九條及第二十條ノ場合ニ於テ旅客ヲ送還スルトキハ該旅客ノ託送セル手荷物ハ
旅客ト共ニ之ヲ無償送還スヘシ此ノ場合ニ於テ手荷物運賃ノ償還ハ旅客運賃ノ例ニ依ル

第四十七條 手荷物到達後二十四時間内ニ引取ラサルトキハ保管料ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ保管料ハ監督官廳ノ認可ヲ得且運賃表ニ附記シテ停車場ニ掲示スルコトヲ要ス

第四十八條 鐵道ハ惡意又ハ重大ナル過失ニ因ラサル手荷物ノ滅失又ハ毀損ニ付テハ旅客一人ニ
對シ價格百圓以内ニ限り損害賠償ノ責ニ任スルモノトス

第四十九條 紛失手荷物ニ對シ賠償ヲ爲シタル後豫メ請求アリタル場合ニ於テハ其ノ手荷物ヲ發
見シタルトキ速ニ旅客ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ三十日以内ニ賠償金ヲ還付シ手荷物到達地又ハ託送地迄無料ニテ

該手荷物ノ送付返還ヲ請求スルコトヲ得
旅客カ本條ノ請求ヲ爲サントスルトキハ賠償金額收ノ際書面ヲ以テ之カ豫告ヲ爲スコトヲ要ス

第四章 小荷物(小貨物)運送

第五十條 手荷物車ヲ以テ運送スルニ適スル貨物ハ小荷物トシテ旅客列車(混合列車亦同シ)ヲ
以テ運送ノ便ヲ開クヘシ

第三十六條第二項ノ規定ハ小荷物ニ之ヲ準用ス

第五十一條 第三十九條ノ物品ハ旅客ノ請求ニ因リ旅客ト同一列車ヲ以テ運送スヘシ

第五十二條 行商人及呼賣商人ノ攜帶スル商品ハ其ノ請求ニ因リ小荷物トシテ旅客ト同一列車ヲ
以テ運送スヘシ

第五十三條 小荷物ヲ託送セムトスル者ハ列車出發時刻ヨリ少クトモ二十分前迄ニ其ノ手續ヲ爲
スヘシ但シ第五十一條及第五十二條ノ小荷物ニ付テハ第四十一條ノ規定ヲ準用ス

第五十四條 第三十七條、第四十條、第四十三條及第四十四條ノ規定ハ小荷物ノ運送ニ之ヲ準用ス

第五十五條 第四十二條、第四十五條乃至第四十七條ノ規定ハ第五十一條及第五十二條ノ小荷物
ニ之ヲ準用ス

第五十六條 小荷物ノ運送ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外第八章ノ規定ヲ準用ス

第五章 死體運送

第五十七條 死體ヲ託送セムトスル者ハ列車始發停車場ニ於テハ其ノ出發時刻ヨリ少クトモ六時
間前迄ニ、中間停車場ニ於テハ同時刻ヨリ少クトモ十二時間前迄ニ其ノ申込ヲ爲スヘシ

第五十八條 死體ハ堅固ナル棺槨ニ納メ密塞スヘシ

第五十九條 死體ヲ託送セムトスル者ハ死亡證書ヲ呈示シ且運送狀ニ其ノ寫ヲ添ヘ差出スヘシ

第六十條 死體ノ運送ニハ託送人ニ於テ附添人ヲ附スヘシ

第六十一條 死體ハ手荷物車又ハ有蓋貨車ヲ以テ運送スルモノトス但シ特約ニ因リ特別車ヲ用フル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十二條 死體ハ他ノ荷物ト離隔搭載スヘシ

第六十三條 死體搭載ノ車輛ハ託送人ノ請求アル場合ノ外旅客列車(混合列車亦同シ)ニ聯結スヘシ

死體ハ成ルヘク到達停車場迄直通スル列車ヲ以テ運送スヘシ又已ムヲ得サル場合ノ外運送中ニヲ轉載スルコトヲ得ス

第六十四條 死體ハ到達後速ニ之ヲ引取ルヘシ若シ六時間内ニ引取ラサルトキハ鐵道ハ所轄警察官署ニ之ヲ届出ツヘシ

第六章 貴重品運送

第六十五條 金銀貨並貴金屬紙幣郵便切手同葉書印紙有價證券寶玉石等貴重品ノ運送ニ付請

求スル増賃金ハ左ノ割合ヲ超過スヘカラス

一二十五哩未満

價格金百圓ニ付(金百圓未)

金十錢

一二十五哩以上五十哩未満

同

金十五錢

一五十哩以上百哩未満

同

金二十錢

一百哩以上二百哩未満

同

金二十五錢

一二百哩以上ハ二百哩ヲ増ス毎ニ 同

金五錢

前項ノ規定ニ準據シ増賃金ノ割合ヲ定ムルトキハ監督官廳ニ届出ツヘシ

増賃金ハ停車場中見易キ場所ニ揭示スルコトヲ要ス

第六十六條 前條ニ明記シタル品目ノ外貴重品ノ品目ヲ定ムトスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

貴重品ノ品目ハ停車場中見易キ場所ニ揭示スヘシ

第六十七條 貴重品ハ嚴重ニ包裝封印シ列車出發時刻ヨリ少クトモ三十分前迄ニ託送ノ手續ヲ爲スヘシ

貴重品託送者ハ運送狀ヲ差出スヘシ

増賃金ノ支拂ニ對シテハ受領書ヲ交付スヘシ

第六十八條 貴重品ノ運送ハ特ニ定メタル列車ニ限ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ其ノ旨ヲ停車場ニ揭示スルコトヲ要ス

第六十九條 貴重品ノ運送ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外第八章ノ規定ヲ準用ス

第七章 動物運送

第七十條 手荷物車ヲ以テ運送スルニ適スル小動物ハ旅客列車(混合列車亦同シ)ヲ以テ運送ノ便ヲ開クヘシ

第七十一條 旅客ノ攜帶スル小動物ハ旅客ノ請求ニ因リ旅客ト同一列車ヲ以テ運送スヘシ

第七十二條 小動物ハ其ノ到達停車場ニ於テ即時ニ之ヲ引取ヲ爲スヘシ之ヲ引取ヲ爲ササルトキハ鐵道ハ之ヲ飼養スルノ義務ナシ

第七十三條 旅客ノ携帶スル犬ヲ除ク外小動物ハ逸出ノ虞ナキ様籠、網若クハ箱等ニ納レ託送ス

第七十四條 旅客列車(混合列車亦同シ)ニ依ル小動物ノ運送ニ付テハ前各條ニ定アル場合ヲ除ク外小荷物運送ニ關スル規定ヲ準用ス

第七十五條 鐵道ハ動物ノ運送ニ付附添人ヲ請求スルコトヲ得

附添人ノ乗車賃ハ下等旅客運賃ノ定額ヲ超過スルコトヲ得ス

附添人ハ動物ヲ監視シ釋長ノ認諾ヲ受クルニ非サレハ他車ニ轉乘スルコトヲ得ス

附添人ハ藁、枯草等燃ニ易キ物品アルトキハ喫煙具及發火シ易キ物品ヲ車中ニ携帶スルコトヲ得ス

第七十六條 猛獸ヲ託送セムトスル者ハ逸走其ノ他危害防止ノ爲充分ナル羈絆ヲ施スヘシ

第七十七條 動物ヲ託送セムトスル者ハ豫メ其ノ申込ヲ爲シ列車出發時刻ヨリ少クトモ一時間前迄ニ之ヲ停車場ニ送致スヘシ

鐵道カ動物運送列車ヲ定メテ公告シタルトキハ託送人ハ前項ノ申込ヲ爲スコトヲ要セス

第七十八條 動物ノ積卸ハ鐵道ノ請求アルトキハ託送人、受取人ニ於テ之ヲ擔當シ且之ニ要スル材料ヲ準備スヘシ

第七十九條 小動物ノ外動物ハ到達ノ通知ヲ受ケタル後速ニ之カ引取ヲ爲スヘシ之カ引取ヲ爲ササルトキハ鐵道ハ之ヲ飼養スルノ義務ナシ

第八十條 託送ノ際價格ヲ明告シ鐵道ノ請求ニ因リ増賃金ヲ支拂ヒタル場合ノ外鐵道ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因ラサル獸類ノ紛失損傷ニ付テハ左ニ掲クル金額以内ニ限リ賠償ヲ請求スル

コトヲ得	一頭ニ付	金七十圓
一馬	同	金百圓
一乳牛	同	金三十圓
一牛	同	金十圓
一犢	同	金十圓
一羊	同	金五圓
一豚	同	金十圓
一山羊	同	金五圓
一其ノ他ノ獸類	同	金五圓

第八十一條 託送ノ際明告セツレタル價格前條制限額ヲ超ニルトキハ鐵道ハ其ノ超過額ニ對シ左ニ掲クル割合以内ニ於テ増賃金ヲ請求スルコトヲ得

一五十哩未滿	價格金十圓ニ付(金十四圓未)	金十錢
一五十哩以上百哩未滿	同	金十五錢
一一百哩以上二百哩未滿	同	金二十錢
一二百哩以上ハ二百哩ヲ増ス毎ニ	同	金五錢

前項ノ規定ニ準據シ増賃金ヲ定ムルトキハ監督官廳ニ届出ツヘシ

増賃金ハ停車場中見易キ場所ニ掲示スルコトヲ要ス

第八十二條 動物ノ運送ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外第八章ノ規定ヲ準用ス

第八章 大荷物(大貨物)運送

- 第八十三條 鐵道カ直ニ運送ヲ爲スコトヲ得サル場合ニ於テ特約ヲ以テ發送迄保管ノ爲貨物ノ引渡ヲ受ケタルトキハ運送狀ニ特約ノ條件ヲ明記スルコトヲ要ス
- 荷送人ハ鐵道ノ承諾ヲ得テ停車場其ノ他ノ鐵道地内ニ自己ノ責任ヲ以テ發送迄一時貨物ヲ留置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ鐵道ハ相當ノ留置料ヲ請求スルコトヲ得
- 第八十四條 貨物ヲ託送セムトスル者ハ貨物取扱時間内ニ運送狀ヲ添ヘ其ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第八十五條 運送狀ニハ左ノ事項ヲ掲グルコトヲ要ス
 - 一 運送狀作成ノ地及年月日
 - 二 發送停車場ノ名稱
 - 三 到達停車場及所屬鐵道名
 - 四 居先荷受人ノ氏名又ハ商號及住所
 - 五 貨物ノ品名重量又ハ容積及其ノ荷造ノ種類箇數並記號
 - 六 價格ヲ明告スヘキトキハ其ノ價格
 - 七 運送便ノ種類
 - 八 運賃ノ支拂方法
 - 九 貨物引換證請求ノ有無
 - 十 特約ノ條件アルトキハ其ノ事項
 - 十一 荷送人ノ氏名又ハ商號及住所
- 第八十六條 鐵道ハ運送狀ノ式紙ヲ停車場ニ備置キ荷送人ノ使用ニ供スヘシ
- 第八十七條 託送ノ際荷送人ノ請求アルトキハ鐵道ハ運送狀ノ原本ヲ交付スヘシ此ノ場合ニ於テ

- ハ金五錢以内ノ手数料ヲ請求スルコトヲ得
- 第八十八條 鐵道ハ貨物ノ運送ヲ引受ケタルトキハ運送狀ニ其ノ受付番號ヲ記入スヘシ
- 第八十九條 貨物引換證ニハ左ノ事項ヲ掲グルコトヲ要ス
 - 一 貨物引換證作成ノ地及年月日
 - 二 第八十五條第二號乃至第八號第十號及第十一號ニ掲ケタル事項
 - 三 第八十八條ノ受付番號
 - 四 運賃増價金料金ノ額及其ノ受否
- 第九十條 荷送人ハ貨物ノ性質ニ依リ運送中ノ減量又ハ毀損ヲ防クニ必要ナル荷造ヲ爲スヘシ
- 貨物ニハ各箇ニ箇數、記號、宛名等ヲ明瞭ニ其ノ外面ニ標記シ他物ト取違ハサル様注意ヲ爲スヘシ且成ルヘク到達停車場名ヲ附記スヘシ
- 第九十一條 貨主カ貨物ノ積卸ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ貨物取扱時間内ニ之ヲ爲スヘシ
- 貨切貨車ニ付テハ鐵道ハ之カ準備ヲ爲シ積卸時間ヲ定メ貨主ニ通知スヘシ
- 貨主カ前項ノ期間内ニ積卸ヲ爲ササルトキハ其ノ遲滞ニ對シ鐵道ハ監督官廳ノ認可ヲ得タル車輛留置料ヲ請求スルコトヲ得
- 第九十二條 一箇ノ重量五百斤以上若ハ其ノ才積三十才以上ノ貨物及二車以上ニ跨ル長大ナル貨物ノ積卸ハ貨主ノ負擔トス
- 第九十三條 貨主カ積卸ヲ負擔スル場合ニ於テ鐵道所屬ノ器具ヲ使用スルトキハ鐵道ハ監督官廳ノ認可ヲ得タル料金ヲ請求スルコトヲ得
- 第九十四條 貨物ノ運賃其ノ他運送ノ爲受クル料金ハ鐵道ノ認諾アルトキノ外貨物託送ノ際ニ之

ヲ支拂フヘシ

運賃金額ヲ確定スルコトヲ得サルトキハ鐵道ハ概算拂ヲ請求スルコトヲ得

第九十五條 錠鎖保護ヲ要シ又ハ雨浸ヲ避クルノ必要アルモノ若ハ火氣ニ感シ易キ物品ハ有蓋貨車ニ搭載スヘシ但シ特約アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九十六條 鐵道ハ無蓋貨車用ノ覆布及綱ヲ準備スヘキモノトス其ノ使用ニ對シ料金ヲ請求スルコトヲ得ス但シ貨車貸切ノ場合ニ於テ特約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九十七條 貨物カ到達停車場ニ到達シタルトキハ鐵道ハ直ニ到達ノ通知ヲ爲シ之カ引渡ノ準備ヲ爲スヘシ

貨物カ停車場外ニ送達セララルヘキモノナルトキハ直ニ之カ配送ノ手續ヲ爲スヘシ
貨物引取期間ノ懈怠ニ對シ保管料、留置料ヲ請求セムトスルトキハ鐵道ハ第一項ノ通知ニ其ノ旨ヲ明記シテ告知ヲ爲スコトヲ要ス

第九十八條 貨物ハ其ノ到達ノ通知ヲ受ケタル後二十四時間内ニ引取ノ手續ヲ爲スヘキモノトス前項ノ期間内ニ引取ヲ爲ササルトキハ鐵道ハ保管料ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ保管料ハ監督官廳ノ認可ヲ得且運賃表ニ附記シテ停車場ニ揭示スルコトヲ要ス
荷受人カ荷卸ヲ爲スヘキ場合ニ於テ第一項ノ期間内ニ引取ヲ爲ササルトキハ鐵道ハ荷受人ノ費用ヲ以テ貨物ノ引渡前荷卸ヲ爲スコトヲ得

第九十九條 貨物ノ滅失又ハ毀損アリタルトキハ鐵道ハ速ニ調査ヲ遂ケ之ヲ書面ニ具シ荷受人及荷受人ニ通知スヘシ

第一百條 貨物引換證ヲ交付シタル場合ニ於テ該證ノ紛失等ニ因リ之ヲ引換ニ貨物ノ引渡ヲ請求

スルコトヲ得サルトキハ鐵道ハ引渡請求人ニ於テ其ノ權利ヲ證明シ又ハ相當ノ擔保ヲ供シタルトキニ限り貨物引渡ノ義務アルモノトス

第一百條 貨物引渡ノ際重量ノ検査若ハ貨物ノ状態ニ付證明ヲ請求セラレタルトキハ鐵道ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第一百條 第十九條ノ規定ハ貨物ノ運送ニ之ヲ準用ス

附則

第一百二條 本規程ハ鐵道營業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○逓信省令第三十七號 鐵道係員職制左ノ通定ム

明治三十三年八月十日 逓信大臣子爵芳川顯正

鐵道係員職制

- 第一條 鐵道ニハ左ノ係員ヲ置ク
- 運輸長
- 車輛長
- 保線長
- 驛長
- 車掌
- 出札掛
- 改札掛

貨物掛
小荷物掛
電信掛
操車掛
信號手
轉轍手
驛夫
機關庫主任
機關手
火夫
車輛検査番
注油夫
保線手
線路工夫
隧道番
橋梁番
踏切番

第二條 運輸長ハ鐵道ノ運輸及鐵道用電氣通信並信號ニ關スル事務ヲ掌理シ所部ノ係員ヲ監督ス

第三條 車輛長ハ車輛ノ修理、保管及運轉ニ關スル事務ヲ掌理シ所部ノ係員ヲ監督ス

第四條 保線長ハ線路並諸建造物ノ修理及保存ニ關スル事務ヲ掌理シ所部ノ係員ヲ監督ス

第五條 驛長ハ運輸長ノ指揮ヲ承ケ驛務ヲ處理シ驛員ヲ監督ス

第六條 車掌ハ運輸長ノ指揮ヲ承ケ列車ノ運轉及輸送ノ事務ニ從事ス
車掌ハ列車カ停車場内ニ在ルトキハ驛長ノ指示ヲ承ケテ其ノ事務ヲ執行ス

第七條 車掌ハ車内ノ秩序ヲ保持ス

第八條 車掌ハ車内ノ秩序ヲ保持スル爲必要アルトキハ旅客ニ對シ相當ノ指圖及處分ヲ爲スコトヲ得

第九條 出札掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ乘車券發賣ノ事務ニ從事ス

第十條 改札掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ乘車券ノ検査及集收ノ事務ニ從事ス

第十一條 貨物掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ運送貨物ノ受授、保管ノ事務ニ從事ス

第十二條 小荷物掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ小荷物及手荷物ノ受授、保管ノ事務ニ從事ス

第十三條 電信掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ停車場ニ於ケル電氣通信ノ事務ニ從事ス

第十四條 操車掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ停車場ニ於ケル車輛ノ入レ換及操配ニ從事ス

第十五條 信號手ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ信號ノ取扱ニ從事ス

第十六條 轉轍手ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ轉轍器ノ取扱ニ從事ス

第十七條 驛夫ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ停車場ニ於ケル雜務ニ從事ス

第十八條 機關庫主任ハ車輛長ノ指揮ヲ承ケ機關庫ニ關スル事務ヲ處理シ所屬ノ係員ヲ監督ス

第十九條 機關手ハ機關庫主任ノ指示ヲ承ケ機關車運轉ノ事務ニ從事ス
機關手ハ列車運轉中ニ在リテハ車掌又列車カ停車場内ニ在ルトキハ驛長ノ指示ヲ承ケテ其ノ事

務ヲ執行ス

- 第二十條 火夫ハ機關庫主任ノ指示ヲ承ケ其ノ職務ニ從事ス
- 火夫ハ機關車運轉中ニ在リテハ機關手ノ指示ヲ承ケテ其ノ職務ニ從事ス
- 第二十一條 注油夫ハ機關庫主任ノ指示ヲ承ケ其ノ職務ニ從事ス
- 第二十二條 車輛検査番ハ機關庫主任ノ指示ヲ承ケ其ノ職務ニ從事ス
- 第二十三條 保線手ハ保線長ノ指揮ヲ承ケ線路ノ修理保存ノ事務ニ從事シ所屬係員ヲ監督ス
- 第二十四條 線路工夫ハ保線手ノ指示ヲ承ケ其ノ職務ニ從事ス
- 第二十五條 隧道番、橋梁番及踏切番ハ保線手ノ指示ヲ承ケ隧道、橋梁及踏切ノ看守ニ從事ス
- 停車場内及其ノ附近ニ於ケル看守ニ付テハ驛長ノ指示ヲ承ケ其ノ職務ニ從事ス
- 第二十六條 鐵道ハ其ノ狀況ニ依リ本職制ニ定メタル係員ノ職務ヲ分チ若ハ之ヲ合シテ別ニ係員ヲ設クルコトヲ得
- 前項ノ場合ニ於テ私設鐵道ハ其ノ職制ヲ定メ認可ヲ受クヘシ
- 本職制ニ定メタル係員以外ニ現業従事員ヲ置クトキハ私設鐵道ハ其ノ職掌ヲ定メ届出ツヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ
- 第二十七條 私設鐵道ノ狀況ニ依リ本職制ニ定ムル係員ノ職務ヲ分テ特ニ主務ノ係員ヲ置キ又ハ特種ノ現業従事員ヲ置カシムルコトアルヘシ
- 第二十八條 私設鐵道ハ鐵道係員ノ定員表ヲ調製シテ届出ツヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ
- 附則
- 第二十九條 本職制ハ鐵道營業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○逓信省令第三十八號 傳染病患者鐵道乘車規程左ノ通定ス

明治三十三年八月十日

逓信大臣子爵芳川顯正

- 第一條 傳染病患者鐵道乘車規程
- 第一條 傳染病患者ヲ乘車セシムルトキハ豫メ之カ申込ヲ爲シ鐵道ノ承諾ヲ受クルコトヲ要ス
- 第二條 前條ノ申込ヲ受ケタルトキハ鐵道ハ列車ヲ指定シ其ノ他運送上旅客及公衆ノ安全ヲ保スルニ必要ナル事項ヲ指定スルコトヲ得
- 第三條 傳染病患者ハ傳染病豫防法第九條ニ依リ當該吏員ヨリ移送認可ヲ得タルコトヲ證明スルニ非サレハ乘車セシムルコトヲ得ス
- 第四條 傳染病患者ニハ少クトモ一人ノ附添人ヲ附スルコトヲ要ス
- 鐵道ノ請求アルトキハ前項附添人ノ外醫師ヲ附スルコトヲ要ス
- 第五條 傳染病患者ハ貨切車ヲ以テ運送シ普通旅客ト其ノ車輛ヲ區別シ當該掛員ノ外一切之カ交通ヲ遮斷スヘシ
- 第六條 傳染病患者ハ傳染病豫防法第九條ニ依リ移送ノ認可ヲ受ケタル地ノ外猥リニ下車セシムルコトヲ得ス
- 第七條 傳染病患者ヲ搭載セル車輛ハ其ノ入口ニ「傳染病者」ノ四字ヲ掲示スヘシ
- 第八條 傳染病患者車中ニ於テ死亡シタルトキハ警察官又ハ其ノ他ノ當該吏員ニ之ヲ申報スヘシ
- 第九條 乘車中傳染病ニ罹リタルモノアルトキハ速ニ警察官又ハ其ノ他ノ當該吏員ニ之ヲ申報ス

第十條 車輛器具ノ消毒其ノ他傳染病豫防ニ關スル取締ハ一般法令ノ規定ニ依ル

附則

第十一條 本規程ハ鐵道營業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○逓信省令第二十九號

明治三十年^{十二} 逓信省令第三十二號加入登記料及電話使用料ノ項中熊本ノ次ニ左ノ通追加ス

明治三十三年八月二十二日

逓信大臣子爵芳川顯正

仙 壹一金 五 圓一金 四 十 八 圓

○逓信省令第四十號

電話呼出規程左ノ通相定メ明治三十三年九月十一日ヨリ施行ス

明治三十三年八月二十三日

逓信大臣子爵芳川顯正

電話呼出規程

第一條 電話加入者ハ別ニ指定スル地域内ニ居住スル者ヲ電話所ニ呼出シ通話スル爲所屬電話交換局又ハ電話交換支局ニ其ノ請求ヲ爲スコトヲ得

電話所ニ來ル者モ亦前項ノ請求ヲ其ノ電話所ニ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ請求ヲ爲ス者ハ電話呼出料及一通話時ノ電話料ヲ納ムヘシ

電話所ニ來ル者ハ郵便切手ヲ以テ前項ノ料金ヲ其ノ電話所ニ前納シ電話加入者ハ一箇月分取返メ翌月二十日マテニ通貨ヲ以テ之ヲ所屬電話交換局又ハ電話交換支局ニ納付スヘシ

第三條 電話呼出料及電話料ノ金額ハ別ニ之ヲ定ム

第四條 電話呼出ノ請求アルトキハ其ノ呼出地域内ニ在ル電話所ニ於テ呼出通話券ニ左ノ事項ヲ記入シ電話料前納證書トシテ之ヲ被呼者ニ交付スヘシ

一 電話料前納ノ金額

二 被呼者ノ居所及氏名

三 請求者ノ氏名及請求ヲ爲シタル加入者又ハ請求ヲ受ケタル電話所ノ所屬電話交換局若ハ電話交換支局名並電話番號

四 被呼者ノ電話所ニ來ルヘキ時間ノ指定アルトキハ其ノ時間

五 證書ノ發行所名及發行年月日

第五條 電話料前納證書ヲ受領シタル者ハ其ノ證書記載ノ金額ニ相當スル電話料納付済ノモノトシ何レノ電話所ニ於テモ呼出通話券ヲ以テ通話スルコトヲ得

第六條 呼出通話券ヲ以テ通話スル者ハ其ノ一通話時ノ電話料ニシテ證書記載ノ金額ニ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル郵便切手ヲ呼出通話券ニ貼付シ差出スヘシ若シ一通話時以上ニ涉リ

電話料ニ不足ヲ生シタルトキハ通話ヲ終リタル後其ノ不足額ニ相當スル郵便切手ヲ納ムヘシ

第七條 電話料前納證書ノ使用期限ハ發行ノ日ヨリ七日以内トス此ノ期限ヲ過クルトキハ使用ノ效ヲ失フ

第八條 第二條ニ依リ電話所ニ來ル者ノ前納シタル電話呼出料ニシテ既ニ郵便切手ニ消印シタルモノハ之ヲ還付セス

第九條 第二條ニ依リ電話加入者ノ納ムヘキ電話呼出料及電話料ハ其ノ請求ヲ取消シ又ハ其ノ請求ニ對シ發行シタル呼出通話券不用ニ屬シタルトキト雖之ヲ納付スヘシ

第十條 居所不明其ノ他ノ事故ニ依リ電話料前納證書ヲ被呼者ニ交付スルコト能ハサルトキハ其ノ居所氏名ヲ記載シテ三日ヨリ少カラサル間之ヲ著信電話所前ニ揭示スヘシ

第十一條 被呼者ニ交付スルコト能ハサル電話料前納證書ハ發行ノ日ヨリ七日間之ヲ著信電話所ニ留置クヘシ此ノ期限内ハ被呼者ヨリ其ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第十二條 呼出請求者ハ被呼者ノ居所氏名又ハ呼出時間ニ改正ヲ要スルトキハ呼出請求ノ時ヨリ二十四時間以内ニ之ヲ其ノ請求局所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ改正ヲ請求スル者ハ第二條第二項ノ例ニ依リ電話呼出料ヲ納ムヘシ

第十三條 電話取扱上ノ過誤ニ起因シ電話料前納證書ヲ被呼者ニ交付セサルカ又ハ居所不明其ノ他ノ事故ニ依リ之ヲ被呼者ニ交付スルコト能ハサルカ又ハ被呼者ニ於テ其ノ受取ヲ拒ミ若ハ交付シタル證書ヲ其ノ使用期限内ニ使用セサルトキハ呼出請求者ハ證書使用期限後料金納付ノ日ヨリ三十日以内ニ電話料ノ還付ヲ發信加入者又ハ電話所所屬ノ電話交換局若ハ電話交換支局ニ請求スルコトヲ得但シ被呼者ノ受領シタル證書ハ之ヲ請求書ニ添附スヘシ

電話所ニ來リ呼出ノ請求ヲ爲シタル者ノ請求ニ依リ電話料ヲ還付スルトキハ郵便切手ヲ以テスヘシ

第十四條 明治三十年八月十二日 逓信省令第三十一號電話交換規則第四十條乃至第四十二條ノ規定ハ本規程ニ依リ加入者ノ納ムヘキ料金滯納ノ場合ニモ之ヲ準用ス

○逓信省令第四十一號

明治三十年八月十二日 逓信省令第三十二號前文中第二十九條ノ次ニ及電話呼出規程第三條ノ十字ヲ加ヘ電話料ノ部ヲ左ノ通改正ス

三 電話料及電話呼出料

逓信大臣子爵芳川顯正

東京	大阪	名古屋	京都	神戶	福岡	札幌	仙台	青森	岩手	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	大阪	名古屋	京都	神戶	福岡	札幌	仙台	青森	岩手	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉					
間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間					
金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金					
九	六	五	四	三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二				
一	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十				
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五			
圓	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢		
金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金		
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	
錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢

明治三十三年八月 省令 逓信省第四十一號

三 戰闘ニ依ル負傷ノ爲癡疾不具トナリタル者

四 戰地ニ於テ公務ニ基因シ傷癡疾病ニ依リ癡疾不具トナリタル者

五 第三號第四號ヨリ輕症ニシテ軍人恩給法ノ賑恤金ヲ受クル者ニ準スヘキ者

第二條 前條第一號第二號ニ該當スル者ニハ死亡通報兵籍寫若ハ交官名簿及戶籍謄本ニ依リテ賜金證書ヲ交付ス但シ戶籍謄本ハ死亡公報ヲ受ケタル遺族ヨリ直接ニ陸軍省ニ差出スヘシ

前條第三號乃至第五號ニ該當スル者ニシテ軍人恩給法官吏恩給法ニ依リ恩給請求書ヲ差出シタル者ニ在テハ陸軍省醫務局長ノ症候策定ヲ經タル者ニ明治二十七年勅令第六十四號ニ依リ手當金願書ヲ差出シタル者ニ在テハ其ノ手當金支給ヲ受クヘキ者ニ賜金證書ヲ交付ス但シ官等身分及服役在官年數ハ傷癡疾病ニ罹リタル當時ニ依ル

第三條 前條ノ書類ヲ差出スヘキ期限ハ死亡者ノ遺族ハ死亡ノ日ヨリ戰闘ニ依ル負傷ノ爲若ハ傷癡疾病ニ依リ職役ヲ免セラレタル者ハ其ノ日ヨリ二箇年以内トス但シ生死不明者ニ在テハ死亡推定ノ宣告日ヨリ二箇年以内トス

第四條 賜金證書ハ其ノ之ヲ受クヘキ者ノ居住地ノ地方廳ヲ經テ之ヲ交付ス

第五條 賜金證書ヲ受ケタル者ハ其ノ交付ヲ受ケタル官廳ヲ經テ其ノ金額ニ對スル請求書ヲ陸軍省經理局ニ差出スヘシ

第六條 賜金證書金額ハ陸軍省ヨリ直ニ請求者ニ交付スヘシ

第七條 特別賜金ヲ給シタル後ハ傷癡疾病再發若ハ増進ノ故ヲ以テ再ヒ之ヲ給スルコトナシ

第八條 本令ニ於テ雇員備人ト稱スルハ明治二十七年勅令第六十四號ニ依ル

第九條 本令ニ於テ遺族ト稱スルハ軍人軍屬及雇員備人等ノ死亡當時同一戶籍内ニ在ル寡婦孤兒

父母祖父母兄弟姉妹トス
特別賜金ハ寡婦ニ給シ寡婦ナキトキハ孤兒ニ以下前項ノ順次ニ依ル

本省令發布以前ニ扶助料又ハ手當金願書ヲ差出シタル者ニ在テハ更ニ第二條ノ戶籍謄本ヲ差出スニ及ハス

○海軍省令第二十一號
今回ノ清國事變ニ從事シ公務ノ爲死亡シ又ハ傷癡ヲ受ケ疾病ニ罹リタル者ニ對シテ特別賜金取扱ノ方法左ノ通定ス

明治三十三年九月十八日

海軍大臣 山本權兵衛

第一條 海軍軍人及軍屬雇員備人等ニシテ今回ノ事變ニ從事シ死亡シタル者ノ遺族及傷癡ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ癡疾不具トナリタル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ一時限リ給スヘキ特別賜金支給ノ方法ハ此ノ規定ニ依ル

一 戰死シ又ハ戰闘ニ依ル負傷ノ爲戰地ニ於テ死亡シ若ハ陸海軍病院其ノ他ニ於テ引續キ治療中死亡シタル者ノ遺族

二 戰地ニ於テ公務ニ基因シ傷癡疾病ニ罹リ戰地ニ於テ死亡シ若ハ陸海軍病院其ノ他ニ於テ引續キ治療中死亡シタル者ノ遺族

三 戰闘ニ依ル負傷ノ爲癡疾不具トナリタル者

四 戰地ニ於テ公務ニ基因シ傷癡疾病ニ依リ癡疾不具トナリタル者

五 第三號第四號ヨリ輕症ニシテ軍人恩給法ノ賑恤金ヲ受ケタル者ニ準スヘキ者
 第二條 前條第一號第二號ニ該當スル者ニハ死亡通報兵籍寫文官名簿及戶籍謄本ニ依リテ賜金證
 書ヲ交付ス但シ戶籍謄本ハ死亡公報ヲ受ケタル遺族ヨリ直接ニ海軍省ニ差出スヘシ
 前條第三號乃至第五號ニ該當スル者ニシテ軍人恩給法官吏恩給法ニ依リ恩給請求書ヲ差出シタ
 ル者ニ在テハ海軍省醫務局長ノ症候策定ヲ經タル者ニ明治二十七年勅令第六十四號ニ依リ手
 當金請求書ヲ差出シタル者ニ在テハ其ノ手當金支給ヲ受ケヘキ者ニ賜金證書ヲ交付ス但シ官等
 身分及服役在官年數ハ傷痕疾病ニ罹リタル當時ニ依ル
 第三條 前條ノ書類ヲ差出スヘキ期限ハ死亡者ノ遺族ハ死亡ノ日ヨリ戰闘ニ依ル負傷ノ爲若ハ傷
 痕疾病ニ依リ職役ヲ免セラレタル者ハ其ノ日ヨリ二箇年以内トス但シ生死不明者ニ在テハ死亡
 推定ノ宣告日ヨリ二箇年以内トス
 第四條 賜金證書ハ其ノ之ヲ受ケヘキ者ノ居住地ノ地方廳ヲ經テ之ヲ交付ス
 第五條 賜金證書ヲ受ケタル者ハ其ノ交付ヲ受ケタル官廳ヲ經テ其ノ金額ニ對スル請求書ヲ海軍
 省經理局ニ差出スヘシ
 第六條 賜金證書金額ハ海軍省ヨリ直ニ請求者ニ交付スヘシ
 第七條 特別賜金ヲ給シタル後ハ傷痕疾病再發若ハ増進ノ故ヲ以テ再ヒ之ヲ給スルコトナシ
 第八條 本令ニ於テ雇員傭人ト稱スルハ明治二十七年勅令第六十四號ニ依ル
 第九條 本令ニ於テ遺族ト稱スルハ軍人軍屬及雇員傭人等ノ死亡當時同一戶籍内ニ在ル寡婦孤兒
 父母祖父母兄弟姊妹トス
 特別賜金ハ寡婦ニ給シ寡婦ナキトキハ孤兒ニ以下前項ノ順次ニ依ル

附則

本省令發布以前ニ扶助料又ハ手當金請求書ヲ差出シタル者ニ在テハ更ニ第二條ノ戶籍謄本ヲ差出
 スニ及ハス

○司法省令第三十四號

明治三十三年十月 內務省令第五號ハ本年九月三十日限り廢止ス

明治三十三年九月十七日

司法大臣清浦奎吾

〔參照〕

內務省令第五號(明治三十三年十月三十一日)
 重罪刑罰ノ公訴ノ判決ニ對シ控訴アリタル場合又ハ上告ニ由リ他ノ裁判所ニ移スノ旨渡アリタル場合ニ於テ被告人拘禁中
 ノ費用並ニ裁判確定ノ後囚人ニ係ル費用ハ總テ最前裁判官渡アリタル地方ノ監獄費ヲ以テ支辨シ其費額ハ一人一日金二十
 錢トス
 但裁判確定後ノ囚人ハ汽車又ハ汽船ニ依リ最モ押送ニ便ナル地方ニ在テハ原地方廳ノ請求ニ依リ送還スルコトヲ得此場
 合ニ於テハ護送官並ノ旅費及囚人ニ關スル費用ハ請求地方ノ負擔トス

○司法省令第三十五號

明治三十三年司法省令第十八號相互保險會社登記取扱手續中左ノ通改正ス

明治三十三年九月二十七日

司法大臣清浦奎吾

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ
 外國相互保險會社登記簿ハ附錄第一號雜形ニ準シ之ヲ調製スヘシ

第二條ニ左ノ一項ヲ加フ
 外國相互保險會社登記見出帳ハ附錄第二號雜形ニ準シ之ヲ調製スヘシ

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

外國相互保險會社社員登記簿ハ附錄第三號雛形ニ準シ之ヲ調製スヘシ

第四條第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ以下順次繰下ク

三 外國相互保險會社登記申請書附屬書類送込帳

第五條ニ左ノ一項ヲ加フ

外國相互保險會社ノ登記ノ申請書ニ添附スヘキ書類カ外國語ヲ以テ記載シタルモノナルトキハ申請人ハ之ニ其譯文ヲ添附スヘシ

第十五條中「第四十四條乃至第四十五條」ノ下ニ「第四十七條第二項、第四十八條」ノ十三字ヲ加フ

○司法省令第三十六號

外國相互保險會社登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ノ請求等ニ關スル手数料ニ付テハ明治三十二年司法省令第十四號第一條及ヒ第三條乃至第六條ノ規定ヲ準用ス

明治三十三年九月二十七日

司法大臣清浦奎吾

○文部省令第十五號

明治三十三年勅令第三百三十四號教員免許令第二條但書ニ依リ教員免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得ルノ件左ノ通相定ム

明治三十三年九月六日

文部大臣伯耆權山資紀

第一條 師範學校中學校ニ於テ教員免許狀ヲ有スル者ヲ得難キ場合及高等女學校ニ於テ教員免許狀又ハ第二條ノ資格ヲ有スル者ヲ得難キ場合ニハ教員免許狀ヲ有セサル者ヲ教員ニ採用スルコトヲ得

第二條 高等女學校ニ於テ第二學年以下ノ教授ヲ擔任セシムル爲小學校本科正教員免許狀ヲ有スル者ヲ採用スルコトヲ得

第三條 第一條ニ依リ採用シタル教員ハ公立學校ニ在リテハ教諭助教諭又ハ訓導ト稱スルコトヲ得ス

第四條 中學校高等女學校ニ於テ新ニ採用セントスル者ヲ加算シ教員免許狀ヲ有セサル者ノ數教員免許狀ヲ有スル者ノ二倍ヲ超過スル場合ニハ文部大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケントスルトキハ公立學校ニ在リテハ管理者、私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ本人ノ氏名、履歷及分擔學科並當該學校現在教員ノ氏名及資格ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

第五條 第一條ニ掲ケタル學校及特別ノ規定アル學校ヲ除ク外公立學校ニ於テハ教員免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

附 則

第六條 本令ハ明治三十三年九月十日ヨリ施行ス

第七條 本令施行ノ際教員免許狀ヲ有セシテ第一條ノ學校ノ教授ニ從事スル者ハ本令ノ規定ニ依リ採用セラレタル者ト看做ス

第八條 明治二十年文部省令第十九號第七條明治三十二年文部省令第二十二號同第四十三號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

〔參照〕

明治三十年十月十 文部省令第十九號第七條ハ師範學校教員ニ關スル件同三十二年十一月三日同第二十二號ハ高等女學校教員ニ關スル件同二十一年四月十三號ハ中學校教員ニ關スル件ナリ

○文部省令第十六號

明治二十九年文部省令第二號中央氣象臺氣象通報規程中左ノ通改正シ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

明治三十三年九月二十八日

文部大臣伯爵樺山資紀

第三條中手数料金額ヲ左ノ通改ム

種 別	普通電報ヲ以テ 通報スル料金		至急電報ヲ以テ 通報スル料金	
	東京地方 及 東京地方 外	全 國	東京地方 及 東京地方 外	全 國
氣象區天氣豫報	金貳拾八錢	金貳拾八錢	金五拾八錢	金五拾八錢
同上高低氣壓ノ 位置及氣壓度付	金參拾八錢	金參拾八錢	金六拾八錢	金六拾八錢
東京地方天氣豫報	金貳拾八錢	金貳拾八錢	金四拾八錢	金四拾八錢
全國天氣實況	金六拾八錢	金六拾八錢	金壹圓參拾八錢	金壹圓參拾八錢
暴風警報	金五拾壹錢	金五拾壹錢	金九拾壹錢	金九拾壹錢

〔參照〕

文部省令第二號中央氣象臺氣象通報規程(明治二十九年三月七日抄録)第三條 氣象通報一回ノ手数料金額ハ左ノ種別ニ從ヒ之ヲ定ム
但暴風警報ハ警戒及解除ノ通報ヲ併セテ一回トス

種 別	普通電報ヲ以テ 通報スル料金		至急電報ヲ以テ 通報スル料金	
	東京地方 及 東京地方 外	全 國	東京地方 及 東京地方 外	全 國
氣象區天氣豫報	金貳拾五錢	金貳拾五錢	金五拾五錢	金五拾五錢
同上高低氣壓ノ 位置及氣壓度付	金參拾五錢	金參拾五錢	金六拾五錢	金六拾五錢

種 別	普通電報ヲ以テ 通報スル料金		至急電報ヲ以テ 通報スル料金	
	東京地方 及 東京地方 外	全 國	東京地方 及 東京地方 外	全 國
東京地方天氣豫報	金貳拾五錢	金貳拾五錢	金五	金五
全國天氣實況	金六拾五錢	金六拾五錢	金壹圓參拾五錢	金壹圓參拾五錢
暴風警報	金四拾五錢	金四拾五錢	金八拾五錢	金八拾五錢

○逓信省令第四十二號
郵便規則左ノ通相定ム

明治三十三年九月一日

逓信大臣子爵芳川顯正

郵便規則

- 第一章 郵便物ノ種別
- 第一節 總則
- 第二節 通常郵便物
- 第三節 小包郵便物
- 第二章 郵便物ノ特殊取扱
- 第一節 總則
- 第二節 別配達
- 第三節 留置
- 第四節 配達證明
- 第五節 書留
- 第六節 價格表記
- 第七節 代金引換

第八節 現金取立

第九節 約束郵便

第十節 郵便私書函

第三章 郵便物ノ差出

第四章 郵便物ノ配達

第五章 郵便物ノ轉送及還付

第六章 損害賠償及報酬

郵便規則

第一章 郵便物ノ種別

第一節 總則

第一條 左記ノ物件ヲ郵便禁制品トス

一 公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スヘキ文書、圖畫其ノ他ノ物件

二 爆發性、發火性又ハ危險性ノ物件其ノ他郵便吏員ニ危害ヲ加ヘ又ハ郵便物ニ損害ヲ與フヘキ物件

第二條 通貨、金銀、寶石、珠玉其ノ他高價ノ物件ハ價格表記ト爲スニ在ラサレハ郵便物トシテ之ヲ差出スコトヲ得ス

第三條 通常郵便物ノ容積ハ其ノ長一尺三寸幅八寸五分厚五寸ヲ限トシ其ノ重量ハ第三種乃至第五種郵便物ニ在リテハ三百匁商品見本及雛形ニ在リテハ百匁ヲ超過スヘカラス

小包郵便物ノ容積ハ其ノ長幅及厚各二尺ヲ限トシ其ノ幅及厚各五寸以內ノモノハ長三尺ヲ限トシ其ノ重量ハ一貫五百匁ヲ超過スヘカラス

第四條 郵便物ノ容積及重量ノ制限ヲ超過シ其ノ他成規ニ違反シテ差出シタル郵便物ハ特ニ規定シタル場合ノ外之ヲ差出人ニ還付ス若其ノ郵便料未納又ハ不足ナルトキハ其ノ不納額ノ二倍ヲ徴收ス

第五條 無料郵便物ハ郵便法第二十八條ニ掲クル區別ニ從ヒ其ノ關係事務ノ名稱ヲ表面ニ記載スヘシ

無料郵便物ノ差出人又ハ受取人カ官署若ハ官吏ナルトキハ其ノ官署名若ハ官職氏名私人ナルトキハ其ノ住所氏名ヲ外部ニ明記スヘシ

前二項ノ規定ニ反スル郵便物ハ有料郵便物トシテ取扱フ

第六條 無料ノ性質ヲ有セサルモノヲ無料郵便物トシテ差出シタルトキハ差出人ニ還付シ未納額ノ二倍ヲ徴收ス

無料郵便物ニ無料ノ性質ヲ有セサル音信文ヲ記載シ又ハ有料郵便物ヲ添附シタルモノ亦同シ

第七條 郵便ニ關スル料金ノ未納又ハ不足カ郵便局所ノ過失ニ依リタルトキハ其ノ不納額ハ之ヲ徴收セス

第八條 郵便ニ關スル料金ニシテ左ニ記載シタルモノハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付ス

一 郵便局所ノ過失ニ因リ徴收シタル郵便料過徵額及誤納額

二 特殊取扱ノ請求アリタル郵便物ニシテ郵便局所ノ過失ニ依リ其ノ取扱ヲ爲ササリシ場合ニ於ケル特殊取扱ノ料金

- 三 郵便局所ノ過失ニ依リ普通郵便ニ依リテ到達シ得ヘキ時刻ヨリ遅レテ受取人ニ到達シタル別配達取扱ノ料金
- 四 亡失又ハ失効ニ依リ損害賠償ヲ爲シタル場合ノ書留郵便物、小包郵便物、價格表記郵便物現金取立郵便物ノ郵便ニ關スル料金
- 第九條 前條ノ料金還付ノ請求ハ其ノ料金ヲ納付シタル郵便局所ニ之ヲ爲スヘシ其ノ期間ハ料金納付ノ日ヨリ六十日トス
- 第十條 第三種乃至第五種郵便物及小包郵便物ハ其ノ外部ニ左記ノ事項ニ限り之ヲ記入シ又ハ別ニ記載シテ添附スルコトヲ得
 - 一 差出人及受取人ノ宿所氏名
 - 二 差出人及受取人ノ身分、職業、商標等
 - 三 日附及要用、至急、貴酬等ノ慣用語
 - 四 贈呈、納本等ノ慣用語
 - 五 定期刊行物ニ前金切レ又ハ何月何日限リ前金満了等ノ慣用語
 - 六 送達上必要ナル注意ヲ示ス語辭
- 前項郵便物ニハ其ノ内部ニ前項各號ノ外尙左ノ事項ニ限り之ヲ記入シ又ハ別ニ記載シテ添附スルコトヲ得
 - 一 名稱、番號、數量、金額、寸尺、重量
 - 二 定期刊行物書籍、印刷物、書畫、圖、業務用書類ニ正誤、注意點、線、批評ノ類
 - 三 圖畫及寫真ニ説明又ハ著色

- 四 商品見本及雛形、農産物種子及博物學上ノ標本ニ生産地及種類ヲ確知スル爲メ必要ノ事項
- 五 農産物種子ニ播種ノ時季及説明
- 前二項以外ノ事項ヲ記入シ又ハ別ニ記載シテ添附シタル郵便物ハ第三種乃至第五種郵便物ノ場合ニ在リテハ第一種郵便物トシテ取扱ヒ小包郵便物ノ場合ニ在リテハ之ヲ差出人ニ還付ス
- 第十一條 郵便ニ關スル料金納付ノ爲メニ用井タル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ハ郵便局所ニ於テ之ヲ消印ス
- 第十二條 郵便物ハ其ノ品質、形狀ニ應シ危險、損害若ハ惡臭ヲ防止スルニ足ルヘキ適當ノ包裝ヲ爲スコトヲ要ス
- 第十三條 特種ノ包裝ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム
- 第二節 通常郵便物
- 第十四條 書狀トハ全部或ハ幾部ヲ筆記シタルト印刷シタルトニ關セス特定ノ人ニ對スル通信文ニシテ郵便葉書ニ依ラサルモノヲ云フ
- 第十五條 郵便葉書ハ其ノ表面ニ左記ノ事項ニ限り之ヲ記載スルコトヲ得
 - 一 差出人及受取人ノ宿所氏名、身分、職業及商標等
 - 二 日附及要用、至急、貴酬等ノ慣用語
- 郵便葉書ハ原形ノ儘使用シ契約書委任狀若ハ受領證等ト爲サムカ爲メ收入印紙ヲ裏面ニ貼附スル場合ヲ除クノ外何等ノ物品ト雖添附スルヲ得ス
- 前二項ノ規定ニ違反シタル郵便葉書ハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス
- 第十六條 往復葉書ニ依ル返信ノ際發信ニ使用シタル部分ヲ除去セサルトキハ郵便局所ニ於テ之

ヲ除去ス

第十七條 郵便葉書ノ料額印面ヲ汚斑シタルモノハ之ト同額ノ郵便切手ヲ貼付スルニ依リ郵便葉書ノ效力ヲ有ス

第十八條 政府ノ發行スル通常葉書ト同一ノ寸法及紙質ニシテ之ト同一ノ位置ニ「郵便葉書」ノ文字ヲ印刷シ且之ト同額ノ郵便切手ヲ貼付シタル私製葉書ハ通常葉書ト看做ス

第十九條 第三種郵便物ト爲スヘキ定期刊行物ノ認可ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第二十條 定期刊行物ハ其ノ刊行物初頁上部ニ其ノ名稱發行期日同數、逐號番號、發行年月日及何年何月何日第三種郵便物認可ノ文字、次頁以下ハ上部ニ其ノ名稱又ハ略記號、發行年月日及第三種郵便物認可ノ文字ヲ印刷スヘシ但シ冊子トナシタル刊行物ハ最初及最終ノ頁面ノミニ印刷スルコトヲ得

第二十一條 定期刊行物ハ本紙ノ重量ニ超過セス本紙ト同性質ノ記事、廣告又ハ書、畫、圖ヲ印刷シ之ニ本紙ノ名稱、番號並ニ發行ノ年月日及附録ノ文字ヲ記入シ且冊子ト爲ササルモノニ限り附録トシテ之ヲ其ノ本紙ニ添付スルコトヲ得

第二十二條 緊急時事ヲ報道スル爲メ臨時ニ刊行スル定期刊行物ノ號外ハ定期刊行物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

定期刊行物ノ號外ハ之ニ本紙ノ名稱、發行ノ年月日、何年何月何日第三種郵便物認可及號外ノ文字ヲ記入スヘシ

第二十三條 定期刊行物ニハ其ノ發行者ニ於テ其ノ記事ニ關スル物品ニシテ本紙ノ重量ヲ超過セ

サルモノニ限り之ヲ綴込又ハ貼付スルコトヲ得

第二十四條 印刷物ニハ其ノ發行者ニ於テ其ノ記事ニ關スル物品ニシテ其ノ印刷物ノ重量ヲ超過セサルモノニ限り綴込又ハ貼付スルコトヲ得

第二十五條 業務用書類トハ全部若ハ一部ヲ筆書シタル各種ノ文書ニシテ特定ノ人ニ對スル通信文ノ性質ヲ有セサルモノヲ云フ

第二十六條 寫眞、書畫、圖及博物學上ノ標本ハ掛軸扁額トナス等裝飾又ハ作爲ヲ加ヘサルモノヲ云フ

第二十七條 商品見本及雛形ハ見本又ハ雛形トシテ其ノ性質又ハ形狀ヲ示スニ足ルヘキ箇數又ハ分量ヲ限リ其ノ營業者ト往復スルモノヲ云フ

前項ノ郵便物ニハ其ノ外部ニ差出人又ハ受取人ノ營業名及其ノ表面ニ商品見本又ハ雛形ノ文字ヲ記載スヘシ

第三節 小包郵便物

第二十八條 小包郵便物ノ料金ハ左ノ如シ

内地小包郵便料

二百々マテ	四百々マテ	六百々マテ	八百々マテ	一貫々マテ	一貫二百五十々マテ	一貫五百々マテ
十里マテ	五 錢	七 錢	九 錢	十一 錢	十三 錢	十五 錢
百里マテ	八 錢	十二 錢	十六 錢	二十 錢	二十四 錢	二十八 錢
百里以外	十六 錢	二十四 錢	三十二 錢	四十 錢	四十八 錢	五十六 錢
内地臺灣間小包郵便料	二百々マテ	四百々マテ	六百々マテ	八百々マテ	一貫々マテ	一貫二百五十々マテ
百里マテ	十六 錢	二十四 錢	三十二 錢	四十 錢	四十八 錢	五十六 錢
百里以外	三十二 錢	四十八 錢	六十四 錢	八十 錢	九十六 錢	一百一十二 錢

第二十九條 小包郵便物ハ引受ノ際差出人ニ該郵便物ノ受領證ヲ交付シ該郵便物ノ配達又ハ還付ノ際受取人又ハ差出人ヨリ該郵便物ノ受領證ヲ差出サシム

第三十條 小包郵便物ヲ還付シ又ハ同一郵便區外へ轉送スルトキハ其ノ還付又ハ轉送ノ里程ニ從ヒ更ニ郵便料ヲ徴收ス

第三十一條 小包郵便物ノ郵便料ハ前納ニ限ル但シ該郵便物ヲ還付シ又ハ同一郵便區外へ轉送スル場合ハ後納トス此ノ場合ニ於テ還付料及差出人ノ請求ニ依ル轉送料ハ差出人ヨリ徴收シ受取人ノ請求ニ依ル轉送料ハ受取人ヨリ徴收ス

第三十二條 小包郵便物ノ差出人ハ其ノ郵便物差出ノ際名宛地ノ郵便局所ニ於テ配達ヲ遂クル能ハサル場合ニ於ケル該郵便物ノ轉送又ハ棄却ノ處分ニ付豫メ請求ヲ爲スコトヲ得

第二章 郵便物ノ特殊取扱

第三十四條 特殊ノ取扱ヲ要スル郵便ニ關スル料金ハ特別ノ規定アル場合ノ外凡テ前納トス

第三十五條 郵便物ノ特殊ノ取扱ニ要スル料金ハ左ノ如シ

- 一 別配達料 一箇ニ付
 - 市外ハ金三十錢
 - 市内ハ金十錢
 - 他ノ郵便區内ニ配達スルトキハ差出人指定ノ配達局ト名宛地所轄ノ郵便局トノ里程ニ應シ別ニ一里迄毎ニ金十五錢ヲ加徴ス
 - 幹線料ハ市内ハ金五錢ニ拘ラス別ニ其ノ實價額ヲ受取人ヨリ徴收ス受取人之ヲ納付セサルトキハ差出人ヨリ追徴ス
- 二 留置通知料 一箇ニ付 金三錢

- 三 配達證明料 一箇ニ付 金三錢
- 四 書留料 一箇ニ付 金七錢

五 價格表記料
表記金額十圓迄ハ金七錢十圓以上百圓迄ハ其ノ超過シタル額ニ對シ十圓迄毎ニ金五錢百圓以上千圓迄ハ其ノ超過シタル額ニ對シ十圓迄毎ニ金四錢

- 六 代金引換料 一口ニ付 金五錢

外ニ取立金送達料トシテ其ノ引換金額十圓迄ハ金五錢十圓以上百圓迄ハ其ノ超過シタル額ニ對シ十圓迄毎ニ金四錢百圓以上三百圓迄ハ其ノ超過シタル額ニ對シ十圓迄毎ニ金三錢

- 七 現金取立料 一口ニ付 金五錢

外ニ取立金送達料トシテ代金引換ト同一ノ割合ニ依ル料額

第三十六條 左記ノ郵便物ハ各其ノ下ニ記載セル文字ヲ表面看易キ場所ニ記入スヘシ

- 一 別配達郵便物 別配達又ハ何局別配達
- 二 留置郵便物 留置若ハ何局留置又ハ留置通知
- 三 配達證明郵便物 配達證明
- 四 書留郵便物 書留
- 五 價格表記郵便物 價格表記金何程
- 六 代金引換委託郵便物 代金引換金何程

第三十七條 書留又ハ價格表記ノ通常郵便物及小包郵便物ハ別配達ト爲スコトヲ得

第三十八條 別配達ノ郵便物ハ通常ノ配達時刻ニ拘ラス直ニ特使ヲ以テ之ヲ配達ス
別配達ノ郵便物ニシテ配達ノ際受取人不在其ノ他ノ事故ニ依リ交付スルコト能ハサルトキハ別
配達ノ效力ヲ失フ

第三節 留置

第三十九條 留置郵便物ハ差出人指定ノ郵便局所ニ留置キ受取人ノ出頭ヲ待テ之ヲ交付ス

第四十條 留置郵便物ノ差出人ハ留置郵便局所ヨリ其ノ受取人ニ該郵便物到着ノ通知ヲ請求ス
ルコトヲ得

第四十一條 郵便物ノ留置期間ハ三十日トス

交通不便ニシテ其ノ受取人前項ノ期間ニ出頭シ能ハスト認ムル地ニ宛テタル郵便物ニ限り特ニ
其ノ期間ヲ延長スルコトアルヘシ

第四節 配達證明

第四十二條 書留又ハ價格表記ノ通常郵便物及小包郵便物ハ配達證明ト爲スコトヲ得

第四十三條 配達郵便局所ニ於テ配達證明郵便物ノ配達ヲ了シタルトキハ其ノ配達ノ證明書ヲ差
出人ニ送付ス

第五節 書留

第四十四條 通常郵便物ハ之ヲ書留ト爲スコトヲ得但シ價格表記ト爲シタルモノハ書留ト爲スコ
トヲ得ス

第四十五條 書留郵便物ノ受授ニ關シテハ第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第六節 價格表記

第四十六條 有價ノ物件ヲ封入シタル郵便物ハ之ヲ價格表記ト爲スコトヲ得但シ書留ト爲シタル
郵便物ハ價格表記ト爲スコトヲ得ス

價格表記金額ノ制限ハ金千圓トス

第四十七條 價格表記郵便物ノ受授ニ關シテハ第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第七節 代金引換

第四十八條 價格表記ノ通常郵便物及小包郵便物ハ代金引換ト爲シ其ノ郵便物ト代金トノ引換ヲ
郵便局所ニ委託スルコトヲ得

代金引換郵便ニ依ル金額ノ制限ハ金三百圓トス

第四十九條 代金引換郵便物ハ到着郵便局所ニ留置キ其ノ旨ヲ受取人ニ通知シ受取人ノテ出頭ヲ
待テ代金ト引換ニ之ヲ交付ス

前項留置ニ關シテハ第四十一條第八十二條ノ規定ヲ準用ス

第五十條 取立郵便局所ニ於テ代金引換郵便物ノ代金ヲ其ノ受取人ヨリ取立テタルトキハ引受
郵便局所ハ差出人ニ其ノ旨ヲ通知ス

差出人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ所定ノ期間ニ其ノ通知書及該郵便物ノ受領證竝ニ取立金送
達料ヲ差出シ之レト引換ニ取立金ノ交付ヲ受クヘシ

第五十一條 代金引換郵便物ノ受領證ヲ亡失シタルトキハ差出人ハ其ノ事由ヲ記載シタル證明書
ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得但シ郵便局所ハ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトアルヘシ

第五十二條 代金引換郵便物ノ差出人ハ第七十九條郵便物取戻ノ請求ニ關スル料金ト同額ノ料金

ヲ前納シテ代金引換ノ取消ヲ請求スルコトヲ得

第八節 現金取立

第五十三條 代金受領證、株式配當券、公債又ハ社債ノ利券、保險掛金受領證ニシテ持參人ニ支拂ハルヘキモノハ現金取立トシテ其ノ金額ノ取立ヲ郵便局所ニ委託スルコトヲ得

現金取立郵便ニ依ル金額ノ制限ハ一口ニ付金三百圓トス

第五十四條 現金取立ハ一口ニ付二通以上ノ證券ヲ委託スルコトヲ得ス但シ同一ノ債權者ニ屬シ

同一ノ債務者ヨリ同時ニ取立テ得ヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十五條 現金取立ノ委託ヲ爲サムト欲スル者ハ現金取立委託書ト共ニ金額ヲ取立ツヘキ證券ヲ郵便局所ニ差出シ郵便局所ヨリ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

第五十六條 一定ノ期日ニ取立ツヘキ證券ハ債務者所在地ニ達スヘキ日數ヲ除キ該期日ヨリ早クモ十五日遅クモ五日以前ニ之ヲ委託スヘシ

第五十七條 現金取立郵便ニ依ル證券ヲ債務者ニ呈示ノ際其ノ金額ヲ取立ツルコトヲ得サル場合ニ於テ直ニ其ノ證券ノ還付ヲ望ム者ハ委託書ニ其ノ旨ヲ記入シテ差出スヘシ

第五十八條 現金取立郵便物ノ到着局所ハ債務者ニ委託證券呈示ノ期日ヲ豫告シ該期日ニ債務者ノ居所ニ就テ證券引換ニ其ノ金額ノ支拂ヲ求ム若シ債務者其ノ居所ヲ移轉シ移轉先同一取立區域内ナルトキハ其ノ移轉先ニ就テ同様ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十九條 委託ノ證券呈示ノ際債務者ノ支拂ノ拒絕ニ依ルニ在ラスシテ其ノ金額ヲ取立ツルコト能ハサルトキハ郵便局所ハ七日以内ノ期間ニ指定ノ郵便局所ニ出頭シテ該金額ノ支拂ヲ爲ス

ハキ旨ヲ記載シタル告知書ヲ其ノ居所ニ殘置ス但シ第五十七條ニ依ル請求アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十條 委託ノ證券呈示ノ際債務者ノ所在不明ナルトキ若ハ其ノ取立區域外ニ移轉シタルトキ又ハ債務者カ其ノ金額ノ支拂ヲ拒絕シタルトキ又ハ其ノ金額ヲ所定ノ期間内ニ支拂ハサルトキハ郵便局所ハ委託證券受領證ト引換ニ委託ノ證券ヲ差出人ニ還付ス

第六十一條 取立郵便局所ニ於テ委託證券ノ金額ヲ其ノ債務者ヨリ取立タルトキハ引受郵便局所ハ差出人ニ其ノ旨ヲ通知ス

差出人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ所定ノ期間ニ其ノ通知書及委託證券ノ受領證及取立金送達料ヲ差出シ之ト引換ニ取立金ノ交付ヲ受クヘシ

第六十二條 委託證券ノ受領證亡失ノ場合ニ於ケル證明書差出方ニ關シテハ第五十一條ノ規定ヲ準用ス

第六十三條 現金取立ノ取消ニ關シテハ第五十二條ノ規定ヲ準用ス

第九節 約束郵便

第六十四條 普通郵便ニ依ル定期刊行物及印刷物ニ限リ郵便官署ト特約シテ約束郵便ト爲スコトヲ得

約束郵便トシテ差出ス郵便物ハ他ノ特殊取扱ト爲スコトヲ得ス

約束郵便トシテ差出ス郵便物ニハ別ニ定ムル所ニ依リ約束郵便ノ印章ヲ押捺スヘシ

第六十五條 約束郵便トシテ差出ス郵便物ニハ郵便切手ヲ貼用セス一定ノ期間満了ノ後通貨ヲ以テ其ノ期間内ニ差出シタル郵便物ノ料金ヲ納付スヘシ

第十節 郵便私書函

第六十六條 郵便私書函使用人ハ郵便局所ニ設置シアル郵便私書函ニ依リ何時ニテモ普通郵便ニ依ル料金完納通常郵便物ヲ受取ルコトヲ得

第六十七條 郵便私書函ハ二人以上ノ名義ヲ以テ一箇ヲ使用スルコトヲ得ス

第六十八條 郵便私書函ヲ使用セムト欲スル者ハ當該郵便局所ノ許可ヲ受ケ其ノ定ムル所ニ依リ一年分金五十圓以下ノ郵便私書函料ヲ納ムヘシ

第三章 郵便物ノ差出

第六十九條 普通郵便ニ依ル通常郵便物ハ郵便函ニ差入ルヘシ但シ容積大ナルカ爲メ又ハ箇數多キカ爲メ郵便函ニ差入ルコト能ハサルモノハ郵便局所ニ差出スヘシ

小包郵便物及特殊ノ取扱ヲ要スル通常郵便物ハ郵便局所ニ差出スヘシ但シ通知ヲ要セサル留置通常郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第七十條 郵便局所内ニ於テ郵便物ノ引受ヲ爲スハ郵便取扱時間中ニ限ル但シ別配達郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第七十一條 郵便物ノ重量ハ其ノ郵便物ニ貼用シタル郵便切手ノ重量ヲモ合算ス

第七十二條 小包郵便料及別配達郵便料ニ關スル里程ハ郵便官署ノ定ムル所ニ依ル

第四章 郵便物ノ配達

第七十三條 深山孤島其ノ他僻陋ノ地ニシテ交通困難ノ場所ニ居住スル者ニ宛タル郵便物ニシテ通常ノ方法ニ依リ配達シ難キモノハ凡テ郵便局所ニ留置キ受取人ノ出頭ヲ待テ之ヲ交付ス差出人ニ郵便物ヲ還付スル場合亦同シ

第七十四條 二名以上ニ宛タル郵便物ハ其ノ内ノ一名ニ配達ス

第七十五條 郵便局所ニ於テ誤テ郵便物ヲ正當受取人ニ在ラサル者ニ配達シタルトキ其ノ配達ヲ受ケタル者ハ速ニ其ノ事由及居所氏名ヲ記載シタル付箋ヲ爲シ料金ヲ納付スルコトナク再ヒ郵便ニ差出スカ又ハ郵便局所ニ届出ヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ郵便物ヲ誤テ開披シタルトキハ之ヲ封緘シ又ハ相當ノ手續ヲ爲シ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十六條 郵便局所カ郵便物ノ配達又ハ還付ヲ受ケタル者ニ就キ其ノ郵便物ノ封皮及葉書ノ交付ヲ求メ又ハ其ノ郵便物ノ受授ニ關スル狀況ヲ探問スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第七十七條 正當ノ事由ナクシテ第七十五條ノ手續ヲ爲サヌ又ハ第七十六條ノ要求ニ應セサル者ハ科料ニ處ス

第五章 郵便物ノ轉送及還付

第七十八條 通常郵便物ノ轉送及還付ハ別ニ料金ヲ徴收セス

第七十九條 郵便物ノ差出人ハ未タ配達ヲ了セサル郵便物ノ名宛變更又ハ取戻ヲ請求スルコトヲ得但シ之カ爲メ事務ニ差支アルトキハ拒絕スルコトアルヘシ

前項ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ郵便物差立前ナルトキハ金五錢差立後ニシテ郵便ニ依ルモノハ金八錢電信ニ依ルモノハ取戻ノ請求ニ係ルトキハ金四十錢名宛變更ノ請求ニ係ルトキハ金七十錢ヲ前納スヘシ

第八十條 通常郵便物ノ受取人他ノ郵便區内ニ移轉シ其ノ移轉先分明ナルトキハ之ヲ其ノ移轉先ヘ轉送ス

小包郵便物ハ第三十二條又ハ第三十三條ニ依リ差出人又ハ受取人ヨリ其ノ轉送ヲ請求シタルトキニ限リ之ヲ轉送ス

第八十一條 通常郵便物ノ受取人既ニ其ノ宿所ヲ移轉セルトキハ其ノ配達先ニ於テ受取人ノ所在地ヲ集配人ニ明示シ該郵便物ノ轉送ヲ求ムルコトヲ得

其ノ配達ヲ受ケタル後ナルトキハ該郵便物ニ轉送先ヲ記載シタル付箋ヲ爲シ其ノ配達ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ料金ノ納付ヲ要スルコト無ク再ヒ郵便ニ差出スコトヲ得若其ノ期限經過後郵便ニ差出シタルトキハ新ニ差出シタルモノト看做ス

通常郵便物受取人ノ移轉先不明ニシテ該郵便物ノ還付ヲ爲ス場合亦前二項ニ準ス

第八十二條 郵便物ノ受取人所在不明ナルトキ又ハ郵便料不納ナルニ依リ受取人ノカ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ留置期間ヲ經過シタルトキハ配達シ能ハサル郵便物トシテ直ニ之ヲ差出人ニ還付ス

小包郵便物ニ關シテハ前項ノ外第三十二條ニ依リ差出人ヨリ豫メ其ノ轉送若ハ棄却ノ請求ヲ爲サス又ハ第三十三條ニ依リ受取人ヨリ轉送ノ請求ヲ爲ササル場合ニ於テ配達ヲ遂クル能ハサルトキハ直ニ之ヲ差出人ニ還付ス轉送ノ請求ヲ爲シタル郵便物ニシテ其ノ請求ニ依リテ配達ヲ遂クル能ハサル場合亦同シ

第六章 損害賠償及報酬

第八十三條 郵便物ニ關スル損害ノ賠償ハ其ノ差立郵便局所在地ヲ管轄スル一等郵便電信局ニ之ヲ請求スヘシ

郵便法第四條ニ依ル損害ノ賠償ハ損害ヲ生セシメタル郵便遞送人及郵便集配人ノ屬スル郵便局

所在地ヲ管轄スル一等郵便電信局ニ之ヲ請求スヘシ

郵便法第五條ニ依ル報酬ハ助力ヲ求メタル郵便遞送人郵便集配人又ハ郵便吏員ノ屬スル郵便局所在地ヲ管轄スル一等郵便電信局ニ之ヲ請求スヘシ

第八十四條 郵便物ノ配達又ハ還付ノ際郵便物ニ損害アリト申立タルトキハ申立人ヲシテ其ノ事由ヲ證明セシムヘシ郵便局ハ郵便法第三十四條ニ依リ損害ナシト看做ストキハ其ノ事由ヲ記載シタル調書ト共ニ再ヒ該郵便物ヲ申立人ニ交付スヘシ

前項郵便物ニシテ損害ナシト看做ス能ハサルトキハ七日ノ期間内ニ申立人ヲ立會ハシメ之ヲ開披シテ損害ノ有無ヲ検査シ損害ナシト認メタルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル調書ト共ニ郵便物ヲ申立人ニ交付シ損害アリト認メタルトキハ申立人ニ於テ其ノ郵便物ノ任意受取方ヲ申出ツル場合ノ外損害調書ヲ作成シ之ヲ損害賠償ノ請求權ヲ有スル者ニ交付ス

第八十五條 前條第二項ノ場合ニ於テ申立人立會ヲ爲ササルトキ其ノ申立人受取人ナルトキハ郵便物ハ直ニ差出人ニ還付ス申立人差出人ナル場合ニ於テハ郵便法第十四條ニ依リ還付シ能ハサル郵便物トシテ之ヲ取扱フ

第八十六條 郵便物ニ關スル損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ其ノ種別品名箇數實價請求金額其ノ他必要ナル事項及之ヲ請求スル事由ヲ記載シタル請求書ヲ差出スヘシ若前二條ノ場合ニ於ケル損害賠償ノ請求ヲ爲サルトキハ別ニ其ノ調書ヲ添付スヘシ

郵便法第四條ニ依ル損害ノ賠償又ハ第五條ニ依ル報酬ヲ請求スル者ハ其ノ請求金額及之ヲ請求スル事由ヲ記載シタル請求書ヲ差出スヘシ

第八十七條 損害賠償及報酬ノ請求ヲ受ケタル一等郵便電信局ニ於テハ其ノ請求ノ當否及金額ヲ

審査シ其ノ決定ヲ請求人ニ通知ス

第八十八條 損害賠償ノ請求ヲ爲シタル者其ノ請求ヲ取消シタル場合ニ於テ郵便物ノ毀損ニ係ル請求ナルトキハ郵便局所ハ直ニ該郵便物ヲ其ノ請求人ニ交付ス

第八十九條 郵便法第三十三條ニ依ル郵便物損害賠償ノ金額ハ左ノ割合ニ依ル

- 一 書留郵便物亡失ノトキハ一箇ニ付金十圓
- 二 價格表記郵便物亡失ノトキハ表記金額ノ全額毀損ノトキハ其ノ表記金額ト殘存價格トノ差額但シ表記金額市場價格ニ超過スルトキハ市場價格ニ依リ算定ス此ノ場合ニ於ケル市場價格ハ引受當時ニ於ケル引受郵便局所在地ノ價格ニ依ル
- 三 小包郵便物亡失又ハ毀損ノトキハ重量百匁又ハ其ノ端數毎ニ金二十錢
- 四 現金取立郵便ニ依ル證券ノ亡失又ハ失効ノトキハ其ノ實損額

附則

第九十條 此ノ規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十五年^三逓信省令第八號配達證明郵便規則同二十九年^九逓信省令第十九號代金引換小包郵便規則及此ノ規則ニ抵觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

○逓信省令第四十三號

明治三十三年十月一日以降本邦ト在外郵便官署所在地ト間竝ニ在外郵便官署所在地相互間ニ發著スル通常郵便物ニ發著スル通常郵便物ニ關スル取扱ニ付テハ左記各號ニ記載スルモノヲ除クノ外明治三十三年^九逓信省令第四十二號郵便規則ヲ適用ス

明治三十三年九月一日

逓信大臣子爵芳川顯正

一 本邦ト在外郵便官署所在地ト間竝ニ在外郵便官署所在地相互間ニ發著スル通常郵便物ニ付テハ價格表記若クハ代金引換ノ取扱、現金取立ノ委託竝ニ電信ニ依ル名宛變更若クハ取戻ノ請求ヲナスコトヲ得ス

二 在外郵便官署ニ於テハ其官署内ニ於テ通常郵便物ノ引受及交付ヲナスコトヲ得

三 損害賠償及報酬ニ關シ一等郵便電信局ノ有スル職務權限ハ在外郵便官署ノ關係ニ付テハ總テ在外郵便電信局郵便局ニ屬ス

○逓信省令第四十四號

鐵道船舶郵便規則左ノ通相定メ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

明治三十三年九月一日

逓信大臣子爵芳川顯正

鐵道船舶郵便規則

第一條 鐵道船舶郵便法ニ依リ運送スヘキ郵便物ニハ現ニ郵便物運送ノ用ニ供スル必要物件ヲ包含ス

第二條 運送業者ノ郵便物運送及授受ニ關スル取扱方法並運送業者ニ交付スヘキ金額ノ仕拂方法ハ郵便官署ノ指定スル所ニ依ル

第三條 郵便物ヲ運送スヘキ區域度數時刻列車並郵便車室又ハ郵便船室ノ容積及ヒ郵便物ノ受渡局ハ郵便官署ノ指定スル所ニ依ル

第四條 鐵道船舶郵便法第五條ニ依リ郵便車室又ハ郵便船室ニ搭乘スヘキ事務員ハ制服ヲ著シ又ハ搭乘證ヲ携帯スル者ニ限ル

第五條 鐵道船舶郵便法第六條ニ依リ郵便官署ノ要求ニ應シ必要ナル設備及維持ヲ爲サントスル

トキハ運送業者ハ豫メ工事仕様書並運費豫算書ヲ提出シテ其ノ承認ヲ受クヘシ

第六條 郵便物ヲ運送スル船舶ニシテ發着日時ヲ定メタルモノ其ノ日時ヲ變更スルトキハ船舶運送業者ハ五日以前ニ之ヲ當該郵便官署ニ報告スヘシ但シ天災其ノ他避ク可カラサル事故ノ爲メ發着日時ヲ變更ヲ決定シタルトキハ直ニ報告スヘシ

第七條 一列車若ハ一船舶ニ於ケル郵便車室又ハ郵便船室ハ郵便官署ノ許可ヲ得ルニ非レハ二箇所以上ニ分離スルコトヲ得ス

第八條 郵便車室及郵便船室ノ位置ハ特ニ郵便官署ノ指定ナキモノト雖モ常ニ之ヲ一定スヘシ但シ正當ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 郵便車室及郵便船室ノ容積ハ各其ノ區畫障壁ノ内容積ヲ謂フ

第十條 郵便官署ヨリ郵便車室ヲ交付シタル場合ニ於テ鐵道船舶郵便法第六條及第十條ニ依リ鐵道運送業者ニ交付スヘキ金額ハ同法第十條第一項ニ掲クル各容積ニ應スル最高料金ノ五分ノ四以内トス

第十一條 船舶運送業者ニ交付スヘキ運送料金ハ其ノ供給スル容積ニ應シ左ノ割合ニ依ル

百立方尺マテ	一漚毎ニ	金二錢五厘以内
二百立方尺マテ	一漚毎ニ	金三錢五厘以内
三百立方尺マテ	一漚毎ニ	金四錢五厘以内
四百立方尺マテ	一漚毎ニ	金五錢八厘以内
五百立方尺マテ	一漚毎ニ	金七錢一厘以内

六百立方尺マテ	一漚毎ニ	金八錢五厘以内
七百立方尺マテ	一漚毎ニ	金十錢以内
八百立方尺マテ	一漚毎ニ	金十一錢六厘以内
九百立方尺マテ	一漚毎ニ	金十三錢三厘以内
千立方尺マテ	一漚毎ニ	金十五錢一厘以内

千立方尺ヲ超過シタル場合ニハ其全容積ニ對シ百立方尺マテニ付一漚毎ニ金一錢五厘以内

第十二條 郵便官署ニ於テ特別ノ條件ヲ附シタルトキハ前條ノ料金率ヲ增加スルコトアルヘシ

第十三條 第十一條ノ運送料金ハ鐵道船舶郵便法第十三條ノ場合ノ外船舶運送業者ニ於テ郵便官署ト船舶間ニ郵便物ヲ運送スル場合ノ費用ヲモ包含ス若陸上ノ遞送距離一里ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ陸路遞送ノ實費ヲ支給ス

第十四條 鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ハ郵便物ヲ搭載シタル鐵道列車又ハ船舶ニシテ天災事變ニ遭遇スルトキハ郵便官署又ハ郵便事務員ノ要求ニ依リ列車又ハ船舶ニ郵便物ヲ搭載ノ儘保管シ又ハ他ノ貨物ニ先チ其ノ指定ノ地ニ送達スヘシ其ノ送達ニ要スル費用ハ之ヲ支給ス

第十五條 第二條及第三條ニ依ル郵便官署ノ指定ニ違背シタル者第六條第七條ニ違背シタル者及正當ノ事由ナクシテ第八條及第十四條ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

○逓信省令第四十五號

郵便爲替規則左ノ通相定ム

明治三十三年九月一日

逓信大臣子爵芳川顯正

第一章 總則

第二章 通常爲替

第一節 振出

第二節 拂渡

第三節 拂渡停止及拂戻

第四節 拂渡若ハ拂戻郵便局所ノ變更

第三章 電信爲替

第四章 小爲替

第五章 再度證書

第六章 郵便爲替金拂渡濟通知

第七章 郵便爲替金居宅拂

郵便爲替規則

第一章 總則

第一條 郵便爲替ハ郵便局所ニ於テ之ヲ取扱フ但シ特ニ之ヲ取扱ハサルコトヲ告示シタル局所ハ此ノ限ニ在ラス

郵便爲替貯金管理所ハ特ニ指定シタル郵便爲替ニ限リ之ヲ取扱フ

第二條 郵便爲替證書一枚ノ金額制限ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ

一 通常爲替 金五十圓

一 電信爲替 金五十圓

一 小爲替 金五圓

通常爲替及小爲替ノ金額ハ圓位未滿電信爲替ノ金額ハ圓位未滿ノ端數ヲ付スルコトヲ得ス

第三條 郵便爲替證書一枚ノ爲替料ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ

金額十圓以內	六 錢
同 二十圓以內	十 錢
同 三十圓以內	十五 錢
同 四十圓以內	十八 錢
同 五十圓以內	二十二 錢
金額十圓以內	三十 錢
同 二十圓以內	三十五 錢
同 三十圓以內	四十 錢
同 四十圓以內	四十五 錢
同 五十圓以內	五十 錢
電信爲替	同 五十圓以內
同 三十圓以內	四十 錢
同 二十圓以內	三十五 錢
同 十圓以內	三十 錢
小爲替	同 五圓以內
同 三圓以內	三 錢
同 一圓以內	一 錢

第四條 郵便爲替ノ差出人及受取人ハ各一名ニ限ル

第五條 郵便爲替證書ハ任意ニ讓渡スコトヲ得ス但シ小爲替證書ニシテ受取人ノ指定ナキモノハ此ノ限ニ在ラス

第六條 代人ヲ以テ本規則ニ規定スル各種ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ本人ニ於テ其ノ請求書證書等ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印スルカ又ハ別ニ委任狀ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テハ代

八 請求書證書等ニ代人タルノ肩書ヲ付シ記名調印スヘシ

第七條 法人又ハ法人ニアラサル團體ヨリ本規則ニ規定スル各種ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ其ノ請求書證書等ニ其ノ名稱ヲ記載調印スルカ又ハ其ノ代表者若ハ金錢ノ出納ヲ掌ル者ニ於テ其ノ肩書ヲ付シ記名調印スヘシ

第八條 印章ヲ所有セサル爲メ本規則ニ規定スル各種ノ請求書證書等ニ調印スルト能ハサルトキハ相當保證人ヲ立テ記名調印セシムヘシ

第九條 郵便爲替ノ差出人郵便爲替金ノ受領證書ノ提出又ハ呈示ヲ要スル場合ニ於テ亡失等ノ爲メ之ヲ提出又ハ呈示シ能ハサルトキハ相當保證人ヲ立テ其ノ證明書ヲ差出スヘシ

第十條 千島國琉球國小笠原島伊豆諸島及臺灣ニ設置シタル郵便局所ト取組ミタル郵便爲替證書ノ有効期間ハ百二十日トス但シ同一國內又ハ同一島内ニ取組ミタルモハ此ノ限ニ在ラス

千島國ニ設置シタル郵便局所ト取組ミタル通常爲替證書及電信爲替證書ニ對シテハ毎年十二月一日ヨリ翌年四月三十日マテハ其ノ有効期間ニ算入セス

第十一條 郵便爲替ニ關シ當該事務員ノ過失ニ因リ左ノ事故ヲ生シタルトキハ差出人又ハ受取人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ其ノ既納ノ料金を還付ス

一 電信爲替證書ノ送達ヲ通常爲替證書ノ到達スヘキ期限ニ後レシメ因テ該爲替金ノ拂戻トナリタルトキ

二 郵便爲替ノ特殊取扱ニ關シ料金を納付ヲ要シタル手續ヲ脱漏シタルトキ

前項ノ請求ハ郵便爲替證書有効期間満了後三箇月以内ニ料金を納付シタル郵便局所ニ之ヲ爲スヘシ

第二章 通常爲替

第一節 振出

第十二條 通常爲替ノ差出人ハ郵便局所ニ於テ通常爲替振出請求書用紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ記入シ之ニ爲替金及爲替料ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ通常爲替證書及通常爲替金受領證書ヲ受取ルヘシ

前項通常爲替振出請求書ニハ差出人及受取人ノ商標、商號又ハ其ノ他ノ符號ヲ附記スルコトヲ得

第十三條 振出郵便局所ハ郵便ニ依リ前條通常爲替振出請求書ヲ拂渡郵便局所ニ送付ス

第十四條 通常爲替ノ差出人ハ爲替振出ノ際豫メ一定ノ期間ヲ限リ其ノ爲替金拂渡猶豫ノ請求ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ通常爲替振出請求書ニ猶豫スヘキ日數ヲ記載スヘシ

第十五條 通常爲替ノ差出人ハ爲替振出ノ際通常爲替證書ノ送達ヲ請求スルトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ料金をトシテ通常爲替證書一枚毎ニ金五錢ヲ納付スヘシ

前項ノ請求ヲ爲シタル差出人ハ通常爲替振出請求書餘白ニ爲替金送付ノ目的ヲ記載シ自己ノ住所氏名ト共ニ受取人ニ之レカ通知ヲ請求スルトヲ得前項爲替金送付ノ目的ハ通常爲替證書送達ノ際其ノ餘白ニ記入スルモノトス

第十六條 通常爲替ノ受取人所在不明等ノ爲前條ノ通常爲替證書ヲ送達スルト能ハサルトキハ之ヲ差出人ニ返付ス

第十七條 通常爲替ノ差出人爲替振出後通常爲替振出請求書ニ自己又ハ受取人ノ住所氏名等ヲ誤記シタルコトヲ覺知シタルトキハ振出郵便局所ニ訂正請求書ヲ差出シ郵便又ハ電信ニ依リ拂渡

郵便局所ニ訂正事項ノ通知ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ通常爲替金受領證書ヲ呈示スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ差出人ハ其ノ料金トシテ郵便ニ依ルモノハ金三錢電信ニ依ルモノハ該電報料金ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第十八條 振出郵便局所ニ於テ前條ノ請求ニ應シタル場合ト雖拂渡郵便局所ニ於テ既ニ爲替金ヲ拂渡シタル後ナルトキハ其ノ旨ヲ差出人ニ通知ス

第二節 拂渡

第十九條 通常爲替ノ受取人爲替金ノ拂渡ヲ請求セムトスルトキハ通常爲替證書ニ記名調印シ之ヲ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ

第二十條 拂渡郵便局所ハ受取人ニ左ノ事項ヲ尋問シ通常爲替振出請求書ニ記載シタル事項ニ符合スルヲ認メ爲替金ノ拂渡ヲ爲スモノトス但シ第十五條第二項ノ請求アルモノニ對シテハ本條第一號ノ尋問ヲ省略スルコトアルヘシ

一 差出人ノ宿所氏名

二 受取人ノ宿所氏名

三 前各號ノ外拂渡上必要ト認ムル事項

第二十一條 通常爲替證書ニシテ左ノ事項判明ナラサルモノハ毀損汚斑シタルモノトス

一 爲替金額

二 爲替證書ノ記號番號

三 爲替證書ヲ發行シタル郵便局所主務者ノ記名調印

第二十二條 左ノ場合ニ於テハ爲替金ノ拂渡ヲ停延ス

一 通常爲替證書違式ノトキ

二 通常爲替振出請求書違式ノトキ

三 通常爲替振出請求書未達ノトキ

四 通常爲替證書ト通常爲替振出請求書ト金額符合セザルトキ

五 拂渡資金缺乏ノトキ

第二十三條 拂渡郵便局所ニ於テ爲替金ノ拂渡ヲ停延スルトキハ通常爲替證書ノ裏面ニ其ノ事由及日數ヲ記載調印シ之ヲ受取人ニ返付ス

第二十四條 第二十二條ニ依リ爲替金ノ拂渡ヲ停延シタル場合ト雖其ノ停延期間内ニ事故判明スルカ又ハ資金充實シ拂渡ニ差支ナキニ至リタルトキハ直ニ之ヲ受取人ニ通知ス

第二十五條 通常爲替ノ受取人ハ通常爲替證書ト通常爲替振出請求書ト金額符合セサル場合ニ於テ其ノ少ナキ金額ヲ限度トシ爲替金ノ假拂渡ヲ請求スルコトヲ得

第二十六條 通常爲替ノ受取人通常爲替證書ノ金額ニ符合セサル爲替金ヲ受取ルトキハ通常爲替證書裏面ニ其ノ金額ヲ記載シ記名調印スヘシ

第三節 拂渡停止及拂戻

第二十七條 通常爲替ノ差出人爲替金ノ拂渡停止ヲ請求セムトスルトキハ其ノ請求書ヲ郵便局所ニ差出シ且通常爲替金受領證書ヲ呈示スヘシ

前項ノ請求ヲ受ケタル郵便局所ニ於テ拂渡郵便局所ニ通知ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便ニ依ルモノハ金三錢電信ニ依ルモノハ該電報料金ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第二十八條 郵便局所ニ於テ前條ノ請求ニ應シタル場合ト雖拂渡郵便局所ニ於テ既ニ爲替金ヲ拂渡シタル後ナルトキハ其ノ旨ヲ差出人ニ通知ス

第二十九條 第二十七條ノ規定ハ通常爲替ノ差出人爲替金拂渡停止ノ解除ヲ請求セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 通常爲替ノ差出人爲替金ノ拂戻ヲ請求セムトスルトキハ通常爲替證書ニ記名調印シ通常爲替金受領證書ト共ニ振出郵便局所ニ差出スヘシ

差出人通常爲替證書ノ有効期間ヲ經過シタル場合ニ於テ爲替金ノ拂戻ヲ請求セムトスルトキハ亦前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十一條 通常爲替ノ差出人通常爲替證書ヲ亡失毀損若ハ汚斑シタル場合ニ於テ爲替金ノ拂戻ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ郵便爲替金拂戻請求書用紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ記入シ振出郵便局所ニ差出シ且通常爲替金受領證書ヲ呈示スヘシ

振出郵便局所ハ拂渡郵便局所ニ於テ其ノ爲替金ノ拂渡ナキコトヲ確認シタル後前項ノ郵便爲替金拂戻請求書ニ拂戻認可ノ旨ヲ記載シ之ヲ差出人ニ返付ス

差出人ハ前項ノ郵便爲替金拂戻請求書中爲替金受領證印ノ部ニ記名調印シ通常爲替金受領證書ト共ニ之ヲ差出スヘシ

第三十二條 第三十條第二項及第三十一條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ通常爲替一口ニ付金六錢ヲ納付スヘシ

第三十三條 本章第二節ノ規定ハ通常爲替金拂戻ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四節 拂渡若ハ拂戻郵便局所ノ變更

第二十四條 通常爲替ノ差出人又ハ受取人ハ拂渡郵便局所ノ變更ヲ請求スルコトヲ得

差出人ハ拂戻郵便局所ノ變更ヲ請求スルコトヲ得

第二十五條 通常爲替ノ差出人拂渡郵便局所又ハ拂戻郵便局所ノ變更ヲ請求セムトスルトキハ振出及拂渡郵便局所名爲替證書記號番號爲替金額及拂渡又ハ拂戻ヲ受ケムトスル郵便局所名ヲ記載シタル變更請求書ヲ郵便局所ニ差出シ且通常爲替金受領證書ヲ呈示スヘシ

第二十六條 通常爲替ノ受取人拂渡郵便局所ノ變更ヲ請求セムトスルトキハ振出及拂渡郵便局所名爲替證書記號番號爲替金額及拂渡ヲ受ケムトスル郵便局所名ヲ記載シタル變更請求書ヲ郵便局所ニ差出シ且通常爲替證書ヲ呈示スヘシ

第二十七條 前二條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ通常爲替一口ニ付金六錢ヲ納付スヘシ

第二十八條 郵便局所ニ於テ拂渡又ハ拂戻郵便局所ノ變更ヲ認可スルトキ又ハ既ニ爲替金ノ拂渡若ハ拂戻ヲ爲シタル後ナルトキハ其ノ旨ヲ請求者ニ通知ス

第三章 電信爲替

第二十九條 電信爲替ノ差出人ハ郵便局所ニ於テ電信爲替振出請求書用紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ記入シ差出人及受取人ノ宿所氏名ニ片假名文字ヲ附記シ之ニ爲替金及爲替料ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ電信爲替金受領證書ヲ受取ルヘシ

第四十條 電信爲替ハ振出郵便局所ニ於テ電信ニ依リ爲替金額受取人ノ宿所氏名及差出人ノ氏名ヲ拂渡郵便局所ニ通報ス但シ電信ヲ取扱ハサル郵便局所ニ在リテハ該通報ハ郵便接續ノ方法ニ依ル

前項ノ通報ハ差出人ニ於テ至急電報ノ取扱又ハ郵便接續ノ場合ニ於テ別記達ノ取扱ヲ請求スル

コトヲ得此ノ場合ニ於テハ別ニ其ノ料金トシテ至急電報ノ取扱ニ對シテハ金四十錢別配達ノ取扱ニ對シテハ郵便別配達料ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第四十一條 拂渡郵便局所ニ於テ前條ノ爲替電報ヲ受ケタルトキハ之ニ依リ電信爲替證書ヲ作り之ヲ受取人ニ送達ス

差出人ハ爲替振出ノ際電信爲替證書ノ別配達ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便別配達料ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第四十二條 第二章ノ規定ハ第十二條乃至第十五條ヲ除ク外之ヲ電信爲替ニ準用ス

第四章 小爲替

第四十三條 小爲替ノ差出人ハ爲替金及爲替料ヲ郵便局所ニ差出シ小爲替證書及小爲替金受領證書ヲ受取ルヘシ

第四十四條 小爲替ノ差出人ハ小爲替證書相當欄ニ拂渡郵便局所名及受取人ノ宿所氏名ヲ記入スヘシ但シ小爲替證書持參人ヲシテ爲替金ノ拂渡ヲ受ケシメタルトキ又ハ隨意ノ郵便局所ニ於テ其ノ拂渡ヲ受ケシメタルトキハ受取人宿所氏名又ハ拂渡郵便局所名ノ記入ヲ省略スルコトヲ得

第四十五條 小爲替ノ差出人拂渡郵便局所又ハ受取人ノ宿所氏名ヲ變更シ若ハ其ノ指定ヲ取消サムトスルトキハ小爲替證書及小爲替金受領證書ヲ郵便局所ニ呈示シ其ノ認可ノ證明ヲ受クヘシ

第四十六條 小爲替ノ受取人爲替金ノ拂渡ヲ請求セムトスルトキハ小爲替證書ニ宿所氏名ヲ記載シ調印ノ上之ヲ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ

第四十七條 小爲替證書ニシテ左ノ事項判明ナラサルモノハ毀損汚斑シタルモノトス

一 爲替金額

二 爲替證書ノ記號番號

三 受取人及拂渡郵便局所ノ指定欄

四 爲替證書ノ日附

第四十八條 小爲替證書亡失ノ場合ニ於テハ其ノ發行ノ日ヨリ百五十日ヲ經過シタル後ニ非サレハ爲替金ノ拂戻ヲ爲サス但シ相當保證人ヲ立テ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十九條 第二十二條乃至第二十四條第二十六條第三十條第三十一條ノ規定ハ之ヲ小爲替金ノ拂渡及拂戻ニ又第三十四條第三十五條及第三十八條ノ規定ハ小爲替金拂戻郵便局所ノ變更ニ之ヲ準用ス但シ第三十條第二項ノ場合ニ於テハ尙差出人ノ宿所ヲ記入スヘシ又第三十條第二項第三十一條及第三十五條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ小爲替一口ニ付金三錢ヲ納付スヘシ

第五章 再度證書

第五十條 郵便爲替ノ差出人又ハ受取人郵便爲替證書有効期間經過ノ爲再度證書ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ再度證書請求書用紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ記入シ之ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證書ヲ受取ルヘシ

前項ノ請求書ニハ有効期間經過ノ郵便爲替證書ヲ添付差出スヘシ

第五十一條 郵便爲替ノ差出人郵便爲替證書ヲ亡失毀損若ハ汚斑シタル爲再度證書ヲ請求セムトスルトキハ郵便爲替金受領證書ヲ差出シ前條第一項ノ手續ヲ爲スヘシ

郵便爲替ノ受取人前項ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ相當保證人ヲ立テ前條第一項ノ手續ヲ爲ス

第五十二條 前二條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便爲替一口ニ付通常爲替又ハ電信爲替ハ金六錢小爲替ハ金三錢ヲ納付スヘシ

第五十三條 再度證書ノ請求者再度證書發行ノ通知ヲ受ケタルトキハ再度證書請求書ノ受領證書ヲ其ノ指定シタル郵便局所ニ差出シ再度證書ノ交付ヲ受クヘシ

第五十四條 小爲替證書ノ亡失ニ因ル再度證書ノ請求ニ對シテハ其ノ發行ノ日ヨリ百五十日ヲ經過シタル後ニ非サルハ再度證書ヲ發行セス但シ相當保證人ヲ立テ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六章 郵便爲替金拂渡濟通知

第五十五條 郵便爲替ノ差出人ハ爲替振出ノ際郵便又ハ電信ニ依ル郵便爲替金拂渡濟通知ヲ請求スルコトヲ得

小爲替差出人前項ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ宿所氏名ヲ申出ツヘシ

第五十六條 前條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便爲替一口ニ付郵便ニ依ルモノハ金三錢電信ニ依ルモノハ該電報料金ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第五十七條 郵便爲替金拂渡濟通知ノ請求アル郵便爲替證書ニハ郵便局所ニ於テ相當證印ヲ押捺シ且小爲替ナルトキハ證書餘白ニ差出人ノ宿所氏名ヲ記入ス

第五十八條 郵便爲替ノ受取人郵便ニ依ル拂渡濟通知ヲ要スル爲替金ヲ受取ルトキハ郵便爲替金拂渡濟通知書ニ記名調印スヘシ

第五十九條 拂渡郵便局所ニ於テ拂渡濟通知ヲ要スル郵便爲替金ヲ拂渡シタルトキハ郵便ニ依ル

モノハ前條ノ通知書ヲ差出人ニ送付シ電信ニ依ルモノハ電報ニ依リ振出郵便局所ヲ經テ其ノ旨ヲ差出人ニ通知ス

第七章 郵便爲替金居宅拂

第六十條 郵便爲替ノ差出人又ハ受取人ハ爲替金ノ居宅拂ヲ請求スルコトヲ得但シ差出人ハ爲替振出後ニ於テ又ハ小爲替受取人ノ爲ニ本條ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

郵便爲替金ノ居宅拂渡ヲ取扱フヘキ郵便局所及區域ハ別ニ之ヲ告示ス

第六十一條 前條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便爲替一口ニ付通常爲替又ハ電信爲替ハ金四錢小爲替ハ金二錢ヲ納付スヘシ

第六十二條 郵便爲替振出ノ際爲替金居宅拂ヲ請求シタル郵便爲替證書ニハ郵便局所ニ於テ相當證印ヲ押捺ス

第六十三條 郵便爲替ノ受取人爲替金ノ居宅拂ヲ請求セムトスルトキハ其ノ宿所氏名、郵便爲替種別、證書記號番號及爲替金額ヲ記載シタル居宅拂請求書ヲ作り之ニ料金相當ノ郵便切手ヲ貼付シ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ

前項請求書ハ無料郵便物トシテ之ヲ差出スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該請求書封入ノ郵便物封皮ニ爲替事務ト明記スヘシ

第六十四條 郵便爲替金居宅拂ハ差出人ノ請求ニ係ルトキハ其ノ拂渡郵便局所ニ通常爲替振出請求書又ハ爲替電報ノ到着シタル日ヨリ又受取人ノ請求ニ係ルトキハ居宅拂請求書受附ノ日ヨリ

過クモ三日以内ニ之ヲ爲ス但シ第二十二條ノ事故アリテ本條ノ期間内ニ拂渡ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ受取人ニ通知ス

第六十五條 郵便爲替ノ受取人不在其ノ他ノ事故ニ依リ居宅拂テ了スルコト能ハサルトキハ第二回拂渡月日ヲ豫告シ更ニ其ノ豫告日ニ於テ第二回ノ居宅拂ヲ爲ス

第六十六條 郵便爲替ノ受取人拂渡郵便局所ノ郵便爲替金居宅拂取扱區域外ニ轉居シタルトキ郵便爲替證書ノ效用ヲ失ヒタルトキ又ハ第二回居宅拂ノ場合ニ於テ前條ノ事故ニ依リ爲替金ノ拂渡ヲ了スルコト能ハサルトキハ爲替金居宅拂ノ請求ハ其ノ效ヲ失フ

第六十七條 郵便爲替ノ受取人ハ自己又ハ差出人ニ於テ爲替金ノ居宅拂ヲ請求シタルトキト雖拂渡郵便局所ニ就キ爲替金ノ拂渡ヲ受クルコトヲ妨ケス

附則

第六十九條 本規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治十八年^九農商務省告示第二十號郵便爲替細則同二十年^六逓信省告示第百十七號郵便小爲替規定同三十二年^{十一}逓信省令第五十一號郵便爲替金居宅拂規則ハ之ヲ廢止ス

○逓信省令第四十六號

電報規則左ノ通之ヲ定ム

明治三十三年九月一日

逓信大臣子爵芳川顯正

電報規則

第一章 總則

第二章 電報書法

第三章 字數及語數計算

第四章 料金

第五章 電報差出

第六章 電線託送

第七章 電報配達

第八章 尋問改正及停止

第九章 閱覽正寫

第十章 特別電報

第一節 至急電報

第二節 返信料前納電報

第三節 照校電報

第四節 受信電報

第五節 追尾電報

第六節 再送電報

第七節 同文電報

第八節 外國郵送電報

電報規則

第一章 總則

第一條 電報ヲ別テ左ノ三種トス

一 官報

二 局報
三 私報

第二條 官報トハ官廳及地方自治體ノ公信並外國ノ首長皇族大臣陸海軍將帥、公使、領事ヨリ發スル電報ヲ云フ但シ商人ニシテ領事ノ事務ヲ扱フ者ヨリ發スル電報ハ官報發出ノ資格アル者ニ宛テ且官用ニ關スルモノニ非サレハ之ヲ官報ト爲サス

第三條 局報トハ電信事務ニ關シ電信局所相互間ニ往復スル電報ヲ云フ前項ノ外電信電話及郵便郵便爲替郵便貯金ノ事務ニ關シ電信電話又ハ郵便官署相互間ニ往復スル電報ハ逓信大臣ニ於テ必要ト認ムルモノニ限リ局報ト爲スコトヲ得郵便爲替金郵便貯金及郵便取立金ノ取扱ニ要スル資本ノ受授ニ關シ金庫相互間ニ往復スル電報亦同シ

第四條 私報トハ官報及局報ヲ除クノ外諸般ノ電報ヲ云フ

第五條 電報ハ左ノ順序ニ依リ送達スヘシ
一 至急官報
二 至急局報
三 至急私報

第六條 同一順位ノ電報ハ受付ノ順序ニ依リ傳送シ中繼及著信局所ニ於テハ受信ノ前後ニ依リ之ヲ傳送配達スヘシ

四 官報
五 局報
六 私報

第七條 發信人又ハ受信人ハ電信局所ノ要求アルトキハ其ノ本人ニ相違ナキコトヲ證明スヘシ

第二章 電報書法
第八條 電報ノ記載方ヲ別テ和文歐文ノ二トス其ノ各電報ニ用ウヘキ文字及記號ハ左ニ掲クルモノニ限ル但シ同一電報中ニ在リテハ特ニ明文アル場合ノ外和文電報ニ用ウヘキ文字記號ト歐文電報ニ用ウヘキ文字記號トヲ混用スルコトヲ得ス

一 和文電報ニ用ウヘキモノ
片假名

イ	イ	チ
ロ	ル	リ
ハ	ラ	リ
ニ	ニ	リ
ホ	ホ	リ
ヘ	ヘ	リ
ト	ト	リ

エ	コ	フ	ケ	マ	ヤ	ク	オ	ノ	井	ウ	ム	ラ	ナ	ネ	ツ	ッ	レ	タ
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

三	四	五	六	七	八	九	〇	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト		
二	一	一	一	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	一	一	一	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

別使料電報報知	マ	ム	ク	フ
別使料郵便報知	マ	ヨ	ク	メ
書留郵便配達	ツ	ナ	ク	ル
無絨配達	ナ	レ	ク	ロ
局待	ヤ	ム	ク	フ
親展	ニ	カ	ク	ル

第十條 電報ニ用ウル語辭ハ普通辭祕辭隱語ノ三種トス
 第十一條 普通辭トハ和文電報ニ於テハ日本語歐文電報ニ於テハ羅旬語又ハ歐洲國語ニシテ其ノ意味ノ通解シ易キモノヲ云フ
 羅馬字ヲ以テ記載シタル日本語、電報新書又ハ電報新編ニ依リ記載シタル數字ノ聯集及商標又ハ記號トシテ用井タル文字若ハ數字ハ之ヲ普通辭ト見做ス
 第十二條 隱語トハ普通辭ヲ普通ノ意味以外ニ用井共ノ意味ノ通解シ難キモノヲ云フ
 歐文ノ隱語ハ一聯綴十字以下ノモノヲ用井日耳曼、英吉利、西班牙、佛蘭西、荷蘭、伊太利、葡萄牙及羅旬ノ國語中ヨリ採擇スルコトヲ要ス但シ固有名詞ハ萬國電信總局刊行ノ隱語集ニ掲載スルモノノ外隱語トシテ之ヲ用ウルコトヲ得ス
 第十三條 祕辭トハ文字又ハ數字ノ孤立若ハ聯集ニシテ其ノ意味ノ通解シ難キモノヲ云フ
 前項ノ外普通辭及隱語ニ非サル語辭ハ之ヲ祕辭ト見做ス
 歐文ノ祕辭ハ一聯集中文字ト數字トヲ混用スルコトヲ得ス
 第十四條 濁點及半濁點ハ片假名ニ附記スルノ外之ヲ用ウルコトヲ得ス

第十五條 和文記號ハ片假名又ハ數字歐文記號ハ羅馬字又ハ亞刺比亞數字ニ直接ニ附隨セシムル場合ノ外用ウルコトヲ得ス但シ小括弧ハ第十六條ノ場合ノ外之ヲ用ウルコトヲ得ス
 第十六條 和文電報ニハ商標其ノ他片假名ヲ以テ顯明シ難キモノニ限リ羅馬字又ハ亞刺比亞數字及歐文記號ヲ挿入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ小括弧ヲ以テ之ヲ區別スヘシ
 第十七條 羅馬字ヲ以テ綴リタル日本語ノ電報ハ十五字ヲ超エテ聯記シ又ハ一語句ノ中間ニ於テ分割記載スルコトヲ得ス但シ名稱ヲ示ス語ハ之ニ附屬スル助字ト共ニ數字ノ多少ニ拘ハラス一箇ヲ一聯集トシテ記載スルコトヲ得
 二箇以上ノ名稱聯合シタルモノ又ハ名稱ニ他ノ語句ヲ附加シタルモノト雖普通一名稱トシテ用井ラルルモノハ前項但書ノ例ニ據リ記載スルコトヲ得
 第十八條 羅馬字ヲ以テ綴リタル日本語ノ電報中ニ外國語又ハ亞刺比亞數字ヲ混用スルトキハ其ノ外國語又ハ亞刺比亞數字ヲ日本語ト聯記スルコトヲ得ス
 第十九條 電報ノ受信人名ハ同一ノ家ニ宛テタル場合ニ限り之ヲ連記スルコトヲ得
 第二十條 受信人ノ居所氏名ハ簡明ニ記載スヘシ若其ノ地名ニシテ著明ナラサルカ又ハ他ニ類似ノモノアルトキハ國名又ハ郡區名ヲ附記スヘシ
 和文電報ノ居所中ニ必要ト認ムルモノアルトキハ電信局所ニ於テ之ヲ省略スルコトヲ得
 第二十一條 受信人ノ居所氏名ハ第八十六條ニ依リ登記ヲ受ケタル略號ヲ以テ記載スルコトヲ得但シ略號ノ外必ス著信地名ヲ附記スヘシ
 一市區町村内ニ二箇以上ノ電信局所アル場合ハ著信地名ノ前ニ尙著信ノ電信局所名ヲ記入シ括

弧ヲ以テ之ヲ區劃スヘシ
 略號ノ登記ヲ受ケタル人ノ家ニ在ル者ニ宛テタル電報ニハ其ノ略號ニ「方」氣付又ハ之ニ相當
 スル文字ヲ附記シテ其ノ略號ヲ使用スルコトヲ得
 第二十二條 電報ノ本文ハ之ヲ記載セサルコトヲ得
 第二十三條 發信人ハ自己ノ居所氏名ノ傳送ヲ要スルトキハ賴信紙中本文ノ末尾ニ之ヲ記載スヘ
 シ但シ其ノ居所氏名ヲ送達紙ノ外部ニ表ハサムトスルトキハ和文電報ニ在リテハ受信人名所ノ
 下ニ歐文電報ニ在リテハ受信人名所ノ前ニ之ヲ記載スヘシ
 第二十四條 電報ニ記載シタル文字ヲ加除改正シタルトキハ電信局所ニ於テ相當ノ證明ヲ爲サシ
 ムルコトアルヘシ
 第二十五條 發信人ノ記載シタル指定事項ノ略符號判然セサルモノハ其ノ略符號ナキ電報トシテ
 取扱フヘシ
 略符號ヲ以テ指定スヘキ事項ヲ普通辭ニテ記載シタルモノハ電信局所ニ於テ之ニ相當スル略符
 號ニ改書スヘシ
 第二十六條 發信人ハ其ノ居所氏名ヲ賴信紙ノ端末ニ記載スヘシ但シ其ノ記載ナキモノト雖電信
 局所ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ受付發送スルコトアルヘシ
 第三章 字數及語數計算
 第二十七條 電報中左ニ記載スルモノハ字數又ハ語數ニ算入ス
 一 本文
 二 歐文電報ノ受信人居所氏名

但シ第二十一條第二項ニ依リ記入シタル著信ノ電信局所名ヲ除ク
 三 和文電報ニ連記シタル第二以下ノ受信人氏名並逐書シタル追尾電報又ハ再送電報ノ第二以
 下ノ居所
 四 傳送ヲ要スル發信人居所氏名
 五 指定事項
 六 第二號乃至第四號ノ居所氏名ニ附屬スル語字
 第二十八條 和文ノ數字及記號ハ其ノ一箇ヲ片假名一字ニ計算ス但シ括弧及小括弧ハ各之ヲ片假
 名二字ニ計算ス
 濁點半濁點ヲ附シタル文字ハ之ヲ片假名二字ニ計算ス
 第二十九條 和文電報中ニ用非タル羅馬字、亞刺比亞數字及歐文記號ハ其ノ一字又ハ一箇ヲ片假
 名一字ニ計算ス但シ括弧轉倒句讀及字下線ハ各之ヲ片假名二字ニ計算ス
 第三十條 歐文ノ普通辭ハ一語ノ聯綴十五字ヲ超エサルモノハ之ヲ一語ニ計算シ十五字ヲ超
 ルモノハ十五字迄毎ニ又之ヲ一語ニ計算ス
 第三十一條 歐文電報中ニ用非タル亞刺比亞數字ハ其ノ聯綴五箇ヲ超エサルモノハ之ヲ一語ニ計
 算シ五箇ヲ超ユルモノハ五箇迄毎ニ又之ヲ一語ニ計算ス
 第三十二條 歐文電報中羅馬字又ハ亞刺比亞數字ノ孤立シタルモノハ之ヲ一語ニ計算ス
 第三十三條 歐文電報中羅馬字ヲ以テ聯記シタル祕辭ハ數字ノ例ニ依リ之ヲ計算ス
 第三十四條 普通辭及隱語ヲ混用シタル歐文電報中ノ普通辭ハ一語ノ聯綴十字ヲ超エサルモノハ
 之ヲ一語ニ計算シ十字ヲ超ユルモノハ十字迄毎ニ又之ヲ一語ニ計算ス

第三十五條 第十七條及第十八條ノ規定ニ違ヒ記載シタル語辭ハ數字ノ例ニ依リ之ヲ計算ス

第三十六條 歐文電報中第十一條ニ規定シタル國語ニシテ其ノ用法ニ違ヒ聯結若ハ省略シタルモノハ正當ノ聯綴方ニ依リ其ノ語數ヲ計算ス

府縣名國名其ノ他ノ地名船名羅馬字ヲ以テ記載シタル數目及字典ニ依リ證明シ得ヘキ聯結語ハ發信人ノ記載スル所ニ從ヒ其ノ語數ヲ計算ス

第三十七條 歐文電報中左ノ文字及記號ハ其ノ一字又ハ一箇ヲ數字一箇ニ計算ス

一 順序數ヲ示ス爲ニ亞刺比亞數字ニ附加シタル羅馬字

二 商標、祕辭又ハ亞刺比亞數字ノ聯集中ニ用非タル諸點及歸除線

第三十八條 歐文電報中連續點ヲ以テ繋キタル語及略符ヲ以テ分チタル語ハ其ノ毎分語ヲ一語ニ計算ス但シ其ノ連續點及略符ハ之ヲ字數ニ算入セス

第三十九條 歐文電報中ニ用非タル終點、讀點、小讀點、重點、問標、感符、新章、括弧、轉倒句讀及字下線ハ各之ヲ一語ニ計算ス

第四十條 歐文電報ノ指定事項ニ用非タル略符號ハ各之ヲ一語ニ計算ス其ノ略符號ニ數字ヲ附記シタルモノ亦同シ

第四章 料金

第四十一條 通常電報料ハ別ニ規定アル場合ノ外左ノ如シ

一 市區町村内ニテ發受スル電報料

一 和文 片假名十五字以内 金十錢

五字以内ヲ加フル毎ニ金三錢ヲ増ス

二 歐文 五語以内 金十五錢

一語ヲ加フル毎ニ金三錢ヲ増ス

前項以外ノ電報料

一 和文 片假名十五字以内 金二十錢

五字以内ヲ加フル毎ニ金五錢ヲ増ス

二 歐文 五語以内 金二十五錢

一語ヲ加フル毎ニ金五錢ヲ増ス

第四十二條 電報ハ特ニ規定アル場合ノ外其ノ字數又ハ語數ニ應シテ電報料ヲ課ス但シ和文電報ニシテ字數ニ算入スヘキ文字記載ナキモノト雖十五字以内ノ電報料ヲ課ス

第四十三條 第三條ニ規定シタル局報ハ無料トス

但シ課金局報ハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條 特別電報料其ノ他特殊ノ取扱ニ關スル料金ハ別章ニ於テ之ヲ定ム

第四十五條 電報ニ關スル料金ハ發信ノ際郵便切手ヲ賴信紙ニ貼付シテ納ムヘシ但シ特ニ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條 電報ニ關スル料金ニ錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ錢位ニ切上ク

第四十七條 左ノ電報ニ關スル料金ハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付スヘシ

一 電信局所ノ過失ニ因リ受信人ニ到達セサルカ又ハ郵便ニテ到達シ得ヘキ時日ヨリ遅レテ到達シタル電報ノ料金但シ第九十七條ニ依リ送達シタルモノヲ除ク

二 電信局所ノ過失ニ因リ照校電報ニ誤認ヲ生シ且用辨ヲ關キタルモノノ料金但シ尋問ノ電報

ニ依リ校正シ得タルモノヲ除ク

三 電信局所ノ過失ニ依リ徴收シタル過納及誤納ノ電報料金

四 發信人ノ請求ニ依リ配達前停止シタル電報ニ對シ前納シタル返信料、受信電報料及配達料

五 電報直配達區域内ニテ配達シタル電報又ハ別使、解船若ハ書留郵便ヲ以テ配達ヲ爲サザリシ電報ニ對シ發信人ノ前納シタル配達料

六 返信料前納證書ヲ以テ發送シタル電報ノ料金前納額ニ滿タサルトキハ其ノ殘餘ノ料金

七 第一百十四條ノ場合ニ於テ和文十五字歐文五語ノ通常電報料ヲ控除シタル前納ノ返信料金

八 返信料前納電報ニ對シ返信料前納證書ヲ發行セザリシトキ又ハ返信料前納電報ヲ配達シ能ハスシテ發行シタル證書ノ使用期間ヲ過キタルトキ若ハ交付シタル返信料前納證書ヲ其ノ使用期間ニ使用セザリシトキハ前納シタル返信料金

九 發信局所ニ於テ傳送前ニ返還シタル電報ノ料金

第四十八條 電報ニ關スル料金還付ノ請求ハ其ノ料金ヲ納付シタル電信局所ニ之ヲ爲スヘシ其ノ期間ハ料金納付ノ日ヨリ六十日間トス

第四十九條 電報ニ關スル料金ノ還付ヲ請求スルトキハ不達ニ係ルモノハ著信局所又ハ受信人ノ證明書、誤謬又ハ遲延ニ係ルモノハ其ノ電報送達紙返信料前納證書ヲ使用セザリシモノハ其ノ證書ヲ請求書ニ添付スヘシ

第五十條 同文電報ノ内一通若ハ數通ノ料金ヲ還付スルトキハ原信電報料及同文電報料ヲ併セ之ヲ總通數ニテ除算シ其ノ得數ヲ以テ還付スヘキ一通ノ額トス

第五十一條 二名以上ノ發信人ヨリ差出シタル電報ニ關スル料金還付ハ其ノ内ノ一名ニ之ヲ爲ス

ヘシ

第五十二條 受信人ニ於テ電報ニ關スル料金ノ追納ヲ要スル電報ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ追納ヲ要スル電報ニシテ居所不明其ノ他ノ事故ニ因リ之ヲ受信人ニ交付シ能ハサルトキハ發信人ヨリ其ノ料金ヲ徴收ス

第五十三條 電報ニ關スル料金ヲ追納スヘキ發信人又ハ受信人カ二名以上ナルトキハ其ノ内ノ一名ヨリ之ヲ徴收スヘシ

第五章、電報差出

第五十四條 電報ヲ發送セムトスルトキハ特ニ規定アル場合ノ外電信局所ニ之ヲ差出スヘシ

第五十五條 郵便ニ依リ電報ヲ差出ストキハ其ノ封筒ノ表面ニ「電報在中」ト記載スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ普通郵便料ニ限り無料トナスコトヲ得

第五十六條 電信局所ニ電報受付函ノ設置アルトキハ電報受付時間外ニ限り發信人ハ之ニ電報ヲ差入ルルコトヲ得

第五十七條 左ニ掲グル電報ノ配達ヲ受ケタル者ハ配達ノ時ヨリ五分時間以内ニ其ノ電報配達人ニ依リテ電報ヲ差出スコトヲ得

一 返信料前納電報

二 局待電報

三 別使配達電報

四 解船配達電報

第五十八條 豫納金ノ納付ヲ要スル電報ハ第五十五條乃至第五十七條ニ依リ差出スコトヲ得ス

第五十九條 第五十五條及第五十七條ニ依リ差出シタル電報ハ電信局所ニ到着シタル時ヲ以テ受付時刻ト爲ス

電報受付時間外ニ到着シタル前項ノ電報及第五十六條ニ依リ差出シタル電報ハ總テ翌日受付開始ノ時ヲ以テ受付時刻ト爲ス但シ電信局所ニ於テ特ニ時間ヲ定メテ取扱フ爲スヘキ電報ヲ第五十七條ニ依リ差出シタル場合ハ前項ノ例ニ依ル

第六十條 書法其ノ他ノ規定ニ違背スル爲發送シ得サル電報アルトキハ其ノ事由ヲ發信人ニ通知スヘシ

第六十一條 發信人ハ特ニ電報ノ著信局所ヲ指定シ差出スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ指定事項トシテ其ノ局所名ヲ記載スヘシ

第六十二條 電報ヲ電信局所又ハ郵便局所ニ留置カムトスルトキハ其ノ局所ヲ肩書シ且留置ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十三條 發信局所ニ在リテ返信ヲ待ツコトヲ受信人ニ知ラシメムトスル電報ハ局待ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十四條 受信人以外ノ者ノ披見ヲ憚ル電報ハ親展ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十五條 封緘セスシテ受信人ニ配達スヘキ電報ハ無織配達ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十六條 別使ヲ以テ配達スヘキ電報ハ別使配達ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十七條 別使配達料ハ著信局所ヨリ三里以内ハ金二十錢トシ三里ヲ超ユルトキハ二里以内毎ニ金二十五錢ヲ増ス

島嶼ニ宛テタルモノノ別使配達料ハ里程ニ拘ラス金二十錢トシ其ノ配達實費之レニ超過シタル

トキハ實費額ニ依ル

第六十八條 別使ヲ以テ配達スヘキ電報ハ發信ノ際其ノ配達料ノ最少額ヲ納付スヘシ

著信局所ヨリ三里ヲ超ユル場合ニ於テ發信人ハ其ノ里程ヲ豫定シ之ニ對スル配達料ヲ納付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ別使配達略符號ノ次ニ其ノ里程ヲ指定スヘシ

前二項ニ依リ納付シタル配達料ニ不足アルトキハ其ノ不足額ハ受信人ニ於テ之ヲ追納スヘシ

第六十九條 受信人ノ追納スヘキ別使配達料ヲ發信人ニ於テ納付セムトスルトキハ別使料電報報知又ハ別使料郵便報知ノ略符號ヲ以テ指定シ電報報知ヲ要スルモノハ和文電報十五字ニ相當スル通常料金郵便報知ヲ要スルモノハ金三錢ヲ増納スヘシ

發信人ハ前項ノ追納料金ニ充ツル爲電信局所ノ指示スル相當金額ヲ豫納スヘシ其ノ豫納金ハ著信局所ノ報知ニ依リ精算ス

第七十條 艦船ニ宛テタル電報ニシテ解船ヲ以テ配達スヘキモノハ解船配達ノ略符號ヲ以テ指定シ其ノ配達料トシテ金二十錢ヲ納ムヘシ

第七十一條 艦船ニ宛テタル電報ニシテ別使配達及解船配達ヲ要スル場合ニ於テ發信人カ共ノ一方ノミヲ指定シタルトキハ其ノ不足料金ハ受信人ニ於テ之ヲ追納スヘシ

第七十二條 書留郵便ヲ以テ配達スヘキ電報ハ書留郵便配達ノ略符號ヲ以テ指定シ其ノ配達料トシテ金七錢ヲ納ムヘシ

第七十三條 發信人ハ電報差出ノ日ヨリ三日以内ニ限リ其ノ納付料金額ヲ記入シタル電報ノ受取證書ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ受取證書料トシテ受取證書一通毎ニ金三錢ヲ納付スヘシ

電報ノ受取證書ニハ其ノ受取證書料ニ當ル郵便切手ヲ貼付シ且消印シテ交付スヘシ

第七十四條 發信人ハ一通毎ニ金五錢ヲ納付シテ未タ傳送セサル電報ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第六章 電線託送

第七十五條 電話加入者ハ別ニ告示スル電信局所ニ豫メ届出テ其ノ使用ニ屬スル電話機ニ依リ電報ヲ發受スルコトヲ得

第七十六條 電話加入者ノ使用ニ屬スル電話又ハ郵便電信局電信局ニ連接スル電信電話ヲ以テ電報ヲ發受スルトキハ其ノ電話加入者又ハ電信電話ノ施設者ハ電線託送料トシテ電報一通毎ニ金三錢ヲ納ムヘシ

第七十七條 前條ニ依リ發スル電報ニシテ其ノ發受局所在ノ市區町村内ニテ配達シ又ハ該局所ニ於テ前條ノ電話加入者若ハ電信電話ノ施設者ニ送達スルモノハ一市區町村内ニテ發受スルモノト見做シテ料金ヲ課ス
前條ニ依リ受クヘキ電報ニシテ其ノ發受局所在ノ市區町村内ニ在ル電信局所へ頼信スルモノ亦同シ

第七十八條 電線託送電報發受者ノ納ムヘキ電報ニ關スル料金ハ毎月取纏メ翌月二十日迄ニ其ノ發受局所ニ納付スヘシ但シ一二等郵便電信局電信局ニ在リテハ通貨ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第七十九條 郵便電信局電信局ニ連接スル電信電話施設者其ノ施設ノ權利ヲ失ヒタルトキ又ハ之ヲ廢止シタルトキハ未納ノ電報料金ヲ即納スヘシ
第七十六條ノ届出ヲ爲シタル電話加入者加入ヨリ除名セラレタルトキ又ハ電線託送電報ノ發受

ヲ廢止シタルトキハ發受局所ニ之ヲ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ適用ス

第八十條 電線託送電報發受者電報ニ關スル料金又ハ私設電信規則第二十條ノ料金ヲ納付セサルトキハ其ノ滯納ノ期間電線託送電報ヲ發受スルコトヲ得ス

第七章 電報配達

第八十一條 電信局所ヨリ陸上一里以内及其ノ局所所在ノ市區内ヲ電報直配達區域トス但シ特ニ指定シテ其ノ區域ヲ制限スルコトアルヘシ

第八十二條 電報直配達區域内ニ配達スル電報ハ配達料ヲ要セス

第八十三條 電報直配達區域外ニ配達スル電報ニシテ配達方ノ指定ナキモノハ無料ノ普通郵便ヲ以テ送達スヘシ

配達方ノ指定アル電報ト雖受信人移轉等ノ爲更ニ其ノ電報直配達區域外ニ配達スルトキ亦同シ
第八十四條 電報直配達區域外ニ居住スル者ハ電信局所ニ請求シテ別使、解船又ハ書留郵便ヲ以テ自己ニ宛テタル配達方指定ナキ電報ノ配達ヲ受クルコトヲ得但シ之ヲ受ケタルトキハ其ノ配達料ヲ納ムヘシ

第八十五條 別使配達電報ノ受信人ハ其ノ電報受取紙ニ捺印又ハ手署シテ直ニ之ヲ電報配達人ニ交付スヘシ

第八十六條 受信人自己ノ居所氏名ニ略號ヲ常用セムトシ又ハ電報ヲ受取ルヘキ者若ハ電報ノ配達場所ヲ特定セムトスルトキハ著信局所ニ請求シテ其ノ略號又ハ配達先ノ登記ヲ受クルコトヲ得

第八十七條 受信人電報ノ配達ヲ待タズ著信局所ニ於テ之ヲ受取ラムトスルトキハ其ノ著信局所

ニ請求シテ局渡證票ノ交付ヲ受クルコトヲ得

第八十八條 局渡證票ノ所持人著信局所ニ於テ電報ヲ受取ラムトスルトキハ其ノ時時局渡證票ヲ示スヘシ

著信局所ニ於テハ局渡證票ヲ所持スル者ヲ正當受信人ト見做シテ電報ヲ交付スヘシ

第八十九條 局渡證票ヲ交付シタル者ニ宛テタル電報ト雖著信ノ際證票ヲ所持スル者出頭セサルトキハ之ヲ配達ニ付スヘシ

第九十條 局渡證票ノ交付ヲ受ケタル者其ノ證票ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ旨交付ヲ受ケタル局所ヘ届出ツヘシ此ノ證票ハ其ノ報告ヲ受ケタル時ヨリ其ノ效ヲ失フ

局渡證票ヲ亡失シタル者ハ更ニ證票ヲ請求スルコトヲ得

第九十一條 局渡證票不用ニ屬シタルトキハ其ノ交付ヲ受ケタル局所ニ之ヲ返還スヘシ

第九十二條 略號又ハ配達先ノ登記及局渡證票ニ關スル料金並其ノ納付手續ハ別ニ之ヲ定ム

第九十三條 受信人名ヲ連記シタル電報ハ其ノ内ノ一名ニ配達スヘシ

第九十四條 電報ノ誤達ヲ受ケタル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル付箋ヲ爲シ直ニ之ヲ著信局所ニ返付スヘシ此ノ場合ニ於テハ無料郵便物トシテ郵便ニ付スルコトヲ得

其ノ電報ヲ開封シタル者ハ更ニ封緘シ尙其ノ事由ヲ付記スヘシ

第九十五條 受信人ニ交付シ能ハサル電報ハ著信局所ニ保管シ置キ其ノ受信人ノ居所氏名ヲ記載シテ少クトモ七日間之ヲ其ノ局所前ニ揭示スヘシ

第九十六條 電信局所留置電報ハ其ノ留置局所ニ到着シタル日ヨリ三日以内ニ受信人ニ交付シ能ハサルトキハ前條ノ例ニ依リ之ヲ揭示スヘシ

第九十七條 發信人又ハ受信人ハ其ノ不達ニ歸シタル電報ノ送達ヲ發信局所ニ請求スルコトヲ得其ノ請求期間ハ電報差出ノ日ヨリ六十日間トス

第八章 尋問改正及停止

第九十八條 發信人ハ既ニ差出シタル電報ニ關シ尋問、改正又ハ停止ヲ要スルトキハ之ヲ發信局所ニ請求スルコトヲ得其ノ請求期間ハ發信ノ時ヨリ七十二時間トス

受信人ハ既ニ受取リタル電報ニ關シ尋問ヲ要スルトキハ之ヲ著信局所ニ請求スルコトヲ得其ノ請求期間ハ電報ヲ受取リタル時ヨリ七十二時間トス

第九十九條 發信人ニ於テ其ノ差出シタル電報ニ關シ尋問ヲ請求スルトキハ其ノ尋問ニ要スル電報料ヲ納メ且返信ニ要スル電報料ヲ豫納スヘシ

第一百條 發信人ニ於テ其ノ差出シタル電報ノ改正又ハ停止ヲ請求スルトキハ其ノ通知ニ要スル電報料ヲ納ムヘシ若其ノ返信ヲ望ムトキハ之ニ要スル電報料ヲ豫納スヘシ

第一百一條 尋問、改正又ハ停止ノ爲發信人ノ豫納シタル電報料ハ返信電報ノ字數又ハ語數ニ應シテ精算ス

第一百二條 改正電報ニシテ其ノ原信配達後著信局所ニ到達シタルトキハ其ノ事由ヲ受信人ニ通知スヘシ

第一百三條 受信人ニ於テ其ノ受取リタル電報ニ關シ尋問ヲ請求スルトキハ其ノ尋問及返信ニ要スル電報料ヲ假納スヘシ

假納ノ電報料ハ尋問及返信電報ノ字數又ハ語數ニ應シテ收納ス但シ電信事務上ノ誤謬ニ因リ尋問ヲ爲スニ至リタル場合ハ之ヲ還付ス

第一百四條 本章ニ依リ往復スル電報ハ課金局報トス

第九章 閱覽正寫

第一百五條 發信人又ハ受信人ハ電報ノ閱覽又ハ正寫ヲ請求スルコトヲ得但シ請求人ニ於テ該電報
搜索上必要ナル事項ヲ示ササルトキハ其請求ニ應セサルコトアルヘシ

第一百六條 電報ノ閱覽正寫ハ發信ニ在リテハ其ノ發信局所著信ニ在リテハ其著信局所ニ請求スヘシ

第一百七條 電報ノ閱覽又ハ正寫ヲ請求スル者ハ閱覽料トシテ電報一通ニ付金三錢正寫料トシテ和

文ハ二百字以内毎ニ金五錢歐文ハ五十語以内毎ニ金十錢ヲ納ムヘシ
電報ノ正寫ニハ其正寫ニ當ル郵便切手ヲ貼付シ且消印シテ交付スヘシ

第十章 特別電報

第一節 至急電報

第一百八條 通常電報ニ先チテ傳送ヲ要スル電報ハ至急ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第一百九條 至急電報料ハ左ノ如シ

官報 通常電報料ノ二倍 私報 通常電報料ノ三倍

第二節 返信料前納電報

第一百十條 電報ノ返信ヲ受ケムトスル者ハ其ノ返信ノ電報料ヲ前納スルコトヲ得其ノ電報ニハ左
ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

一 返信料前納ノ略符號

二 返信至急ノ略符號

通常電報料ヲ前納スルトキ
至急電報料ヲ前納スルトキ

三 返信照校ノ略符號

和文十五字歐文五語ヲ超エテ返信料ヲ前納スルトキハ前項略符號ノ次ニ其ノ字數又ハ語數ヲ付
記スヘシ

照校電報料ヲ前納スルトキ

第一百十一條 返信料前納電報ヲ配達スルトキハ返信料前納アルコトヲ證明スル爲著信局所ニ於テ
返信用紙ニ左ノ事項ヲ記入シ返信料前納證書トシテ電報ト共ニ之ヲ受信人ニ交付スヘシ

一 返信料前納ノ金額

二 受信人名

三 發信局所名、發信年月日及發信番號

四 證書發行ノ年月日

第一百十二條 返信料前納證書ノ使用期間ハ其ノ證書發行ノ日ヨリ三十日間トス此ノ期間ヲ過クル
トキハ使用ノ效ヲ失フ

第一百十三條 返信料前納電報ノ返信用紙ニ記載シテ差出ス電報ハ證書記載ノ金額ニ相當スル料金
納付済ノモノトシ何レノ電信局所ニ於テモ之ヲ受付發送スヘシ

若其ノ電報ノ料金ニシテ證書記載ノ金額ニ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル郵便切手ヲ返
信用紙ニ貼付スヘシ

第一百十四條 受信人返信料前納證書ヲ受領スルコトヲ拒ムトキハ其ノ證書ヲ使用シ著信局所ヨリ
發信局所ニ其ノ旨課金局報ヲ以テ報知シ更ニ之ヲ發信人ニ通知スヘシ

第一百十五條 居所不明其ノ他ノ事故ニ依リ返信料前納證書ヲ受信人ニ交付シ能ハサルトキハ之ヲ
著信局所ニ保管ス

著信局所ニ保管シ置キタル返信料前納證書ハ其ノ使用期間ニ受信人ヨリ請求スルトキ又ハ該期間満了後三十日以内ニ發信人ヨリ請求スルトキハ之ヲ交付スヘシ

第三節 照校電報

第一百六條 發信人ハ電報ノ照校ヲ請求スルコトヲ得其ノ電報ニハ照校ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第一百七條 照校電報ハ通信ノ際送受兩局所間ニ於テ其ノ全部ヲ反復校正スルモノトス

第一百八條 照校料ハ通常電報料ノ四分ノ一トス

第四節 受信電報

第一百九條 發信人ハ電報ノ受信人ニ到達シタル日時ノ報知ヲ受クルコトヲ得其ノ電報ハ受信電報トシ左ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

一 電報受信報知ノ略符號 電報ヲ以テ報知ヲ受クルトキ

一 郵便受信報知ノ略符號 郵便ヲ以テ報知ヲ受クルトキ

第二百十條 電報受信報知料ハ一通毎ニ和文ハ十五字歐文ハ五語ノ通常料金トシ郵便受信報知料ハ一通毎ニ金三錢トス

第二百十一條 受信電報ヲ受取リタル者ハ電報受取紙ニ受取時刻ヲ記入シ捺印又ハ手署シテ直ニ之ヲ電報配達人ニ交付スヘシ但シ郵便電信又ハ電話ヲ以テ其ノ送付ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二百十二條 受信電報ノ發信人ニハ受信人ノ電報ヲ受取リタル日時ヲ報知スヘシ但シ之ヲ送達スルニ郵便ヲ以テシタルトキハ郵便ニ付託セシ日時電信又ハ電話ヲ以テシタルトキハ送信セシ

日時ヲ報知スヘシ

第二百十三條 電報受信報知ノ日時ハ局報ヲ以テ郵便受信報知ノ日時ハ郵便ヲ以テ著信局所ヨリ發信局所ヘ宛テ通知シ發信局所ヨリ更ニ之ヲ發信人ニ報知ス

第二百十四條 電報直配達區域外ニ居住スル發信人別使、船又ハ書留郵便ヲ以テ受信日時ノ報知ヲ受ケムトスルトキハ賴信紙ノ餘白ニ其ノ旨ヲ記載シ相當ノ配達料ヲ納付スヘシ

第二百十五條 受信人ニ於テ受信電報ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受信人ニ配達シ能ハサルトキハ日時報知ノ代トシテ第二百二十三條及第二百二十四條ノ例ニ依リ其ノ事由ヲ發信人ニ報知スヘシ

第五節 追尾電報

第二百十六條 發信人電報ノ追尾傳送ヲ要スルトキハ追尾電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第二百十七條 追尾電報ノ發信人ハ追尾スヘキ第二以下ノ居所ヲ逐次ニ記載シ又ハ全ク記載セサルコトヲ得

第二百十八條 追尾電報ハ受信人ノ居所分明ナル限り之ヲ追送スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ居所ヲ逐書シタルモノハ其ノ經過スル毎ニ之ヲ削除ス

第二百十九條 追尾電報ノ追尾ニ關スル料金ハ追尾一回毎ニ新ニ電報ヲ差出シタルモノトシテ計算シ之ヲ受信人ヨリ徵收スヘシ

第二百二十條 左ニ掲クル電報ハ追尾電報トシテ發送スルコトヲ得ス

- 一 別使料電報報知ヲ要スル電報
- 二 別使料郵便報知ヲ要スル電報

三 返信料前納電報

四 受信電報

五 同文電報

六 外國郵送電報

第六節 再送電報

第三百一十一條 受信人ノ居所異動等ノ場合ニ於テ其新居所ヘ電報ノ再送ヲ要スルトキハ受信人又ハ宛所ノ者ヨリ之ヲ著信局所ニ請求スルコトヲ得

第三百一十二條 留置電報著信局所ニ保管シ置キタル電報又ハ一旦配達ヲ了リタル電報ノ再送請求ノ期間ハ著信ノ時ヨリ七十二時間トス

第三百一十三條 一旦配達ヲ了リタル電報ノ再送ヲ請求スルトキハ其ノ電報送達紙ヲ差出スヘシ若返信料ヲ前納シタルモノナルトキハ其ノ返信料前納證書ヲ返戻スヘシ

第三百一十四條 電報ノ再送ヲ請求スルモノハ其ノ再送スヘキ電報ニ記載シアル指定事項ノ削除ヲ請求シ又ハ第三百二十條ニ掲クル電報ノ指定事項ヲ除クノ外必要ナル指定事項ノ記入ヲ請求スルトヲ得

第三百一十五條 返信料前納電報受信電報又ハ別使料ノ報知ヲ要スル電報ヲ再送スルトキハ其ノ指定事項ヲ削除スヘシ此ノ場合ニ於テハ第三百一十四條ノ例ニ依リ返信料前納證書ヲ使用シ又ハ受信報知若ハ別使料報知ノ代トシ電報再送ノ旨ヲ發信人ニ報知スヘシ

第三百一十六條 電報ヲ再送スルトキハ電信局所ニ於テ再送電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第三百一十七條 電報ヲ再送スルトキハ其ノ請求者ヲ再送電報ノ發信人ト見做ス

第三百一十八條 再送電報ノ再送ニ關スル料金ハ第三百二十九條ノ例ニ依リ計算徴收ス

第三百一十九條 再送電報ノ規定ハ再送電報ニ準用ス

第七節 同文電報

第四百十條 發信人ハ一市區町村内又ハ著信局所ヲ同クスル地方ニ居住スル數人又ハ數箇所ヘ宛テ同文ノ電報ヲ差出サルトキハ同文電報ト爲スコトヲ得

第四百一十一條 同文電報ハ同文ノ略符號ヲ以テ指定シ同文ノ通數ヲ付記スヘシ但シ其ノ通數ハ十通ヲ超ユルコトヲ得ス

同文電報ニシテ其ノ各通ニ各受信人名ヲ連記シ配達スヘキモノハ前項ノ略符號ニ代フル同文連名ノ略符號ヲ以テスヘシ

第四百一十二條 同文電報ノ原信ヲ除キタル各通ノ字數又ハ語數ハ總テ之ヲ原信ニ併算ス

第四百一十三條 同文電報ニハ原信ヲ除キ其ノ他一通毎ニ同文料トシテ和文ハ金十錢歐文ハ金十五錢ヲ課ス

第四百一十四條 至急電報 照校電報又ハ受信電報ヲ同文電報トナストキハ原信ニ各相當ノ略符號ヲ併記シ其ノ至急又ハ照校ノ料金ハ原信一通ニ對シテ之ヲ納メ受信報知料ハ同文ノ通數ニ應シテ之ヲ納ムヘシ

第四百一十五條 前條ノ外同文電報ニ他ノ電報ノ指定事項ヲ併用セムトスルトキハ一通毎ニ其ノ相當略符號ヲ記載スヘシ

第八節 外國郵送電報

第四百四十六條 外國へ郵送スヘキ電報ニハ外國郵送ノ略符號ヲ以テ指定シ其ノ著信局所名ヲ付記スヘシ

第四百四十七條 外國郵送電報ノ郵送料ハ一通ニ付金二十錢トス

第四百四十八條 外國郵送電報ハ在清國及在韓國本邦郵便局所在地ニ宛テタルモノノ外歐文電報ニ限ル

附則

第四百四十九條 此規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治十八年五月布達第七號電信取扱規則同二十三年三月逓信省令第三號歐文電報略號常用料金額及其ノ納付手續同年八月逓信省令第十七號電報局渡規則同年十一月逓信省令第二十一號電報配達人ニ電報差出方ヲ依頼スル規程同二十七年七月逓信省令第五號著信局所ヲ指定スル規程同三十年十二月逓信省令第三十三號電話依託電報規則其ノ他此ノ規則ニ抵觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

第四百五十條 此ノ規則ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外電線ニ依リ帝國外國間ニ往復スル電報ニ適用セス

○逓信省令第四十七號 略號登記料配達先登記料局渡料ノ金額及其ノ納付手續左ノ通之ヲ定ム

明治三十三年九月一日 逓信大臣子爵芳川顯正

略號登記料配達先登記料局渡料ノ金額及其ノ納付手續

第一條 略號登記料又ハ配達先登記料ハ登記一箇毎ニ年額金十二圓トス

局渡料ハ證書一箇毎ニ年額金六圓トス

第二條 前條ノ料金ハ年額ヲ二分シ左ニ掲グル二期ノ別ニ從ヒ一期分毎ニ登記又ハ交付ヲ受クル電信局所ニ前納スヘシ但シ一二等郵便電信局電信局及在外電信局所ニ在リテハ通貨ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第一期 四月一日ヨリ九月三十日マテ

第二期 十月一日ヨリ三月三十一日マテ

第三條 一期ノ中途ニ於テ略號又ハ配達先ノ登記ヲ受ケ若ハ局渡證書ノ交付ヲ受クルトキト雖其ノ期ノ料金全額ヲ納付スルモノトス

第四條 一期ノ中途ニ於テ略號又ハ配達先ノ登記ヲ取消シ又ハ局渡證書ヲ返還スルトキト雖其ノ期ノ料金ハ之ヲ還付セス

第五條 電報規則第九十條第二項ニ依リ更ニ證書ヲ請求スルトキハ證書料トシテ金二十錢ヲ納ムヘシ

第六條 同一ノ略號ヲ内國電報及外國電報ニ通シ用ウル場合ト雖各別ニ其ノ料金ヲ納付スルニ及ハス

第七條 従前ノ規定ニ依リ此ノ規則施行ノ日以後ニ係ル略號常用料又ハ電報局渡料ヲ前納シタルモノハ引續キ其ノ略號ノ登記又ハ局渡證書ノ交付ヲ受クルモノト看做シ更ニ此ノ規則ニ依リ料金ヲ計算シ不足額ハ之ヲ追納セシメ過剩額ハ之ヲ還付ス

○逓信省令第四十八號

私設電信規則左ノ通之ヲ定ム

明治三十三年九月一日

逓信大臣子爵芳川顯正

私設電信規則

- 第一條 此ノ規則中私設電信ト稱スルハ電信法第二條ニ掲クル電信又ハ電話ヲ謂フ
- 第二條 電信法第二條第二號ニ依ル私設電信ハ左ニ列記スル事業ノ専用ニ供スルモノニ限ル
 - 一 私設鐵道法ニ依ル鐵道、軌道條例又ハ特別ノ法令ニ依リ一般運輸ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道及一個人又ハ一會社ニ於テ個人ノ専用ニ供スル爲敷設スル鐵道又ハ軌道ノ事業
 - 二 運河、水利、水防、火防、水道、水難救護及氣象觀測ノ事業
 - 三 高壓及特別高壓ノ電氣ヲ使用スル電氣事業
 - 四 前各號ノ外特ニ私設電信ノ施設ヲ必要トスル事業
- 第三條 電信法第二條第五號ニ依ル私設電信中一營業ノ爲ニスルモノハ營業所相互間又ハ營業所ト之ヲ管理スル者ノ居宅間ニ施設スルモノニ限ル
- 第四條 私設電信ヲ施設セムトスル者ハ逓信大臣ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但シ私設鐵道法ニ依ル鐵道事業ノ専用ニ供スル爲鐵道線路ニ沿ヒ停車場、聯絡所又ハ信號所相互間ニ施設スルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 前條ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ願書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ
 - 一 施設ヲ必要トスル事由
 - 二 電信又ハ電話ノ別及其ノ回線
 - 三 機械設置ノ場所道府縣郡市區町村字番地及線路經過地名
 - 四 落成期限

前項第二號及第三號ノ事項ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

鄰接市區町村間又ハ電信法第二條第四號ニ依ルヲ不適當トスル市區町村間ニ私設電信ヲ施設セムトスルトキハ第一項書類ノ外之ヲ證明スルニ足ル書類ヲ添附スヘシ

第六條 第四條ノ許可ヲ得タル後前條第一項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ逓信大臣ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第七條 第四條又ハ第六條ニ依リ許可ヲ得タル私設電信ノ工事落成シタルトキハ七日以内ニ左ノ事項ヲ逓信大臣ニ届出ヘシ
 一 工事落成月日

二 工事設計機械ノ種類及箇數、線路ノ互長、架空線地下線、水底線ノ別、回線ノ方式、線條ノ種類、太サ及延長、地保、安裝置方法

前項第二號ノ事項ヲ變更シタルトキハ更ニ前項ノ例ニ依リ届出ヘシ

第八條 第四條但書ノ私設電信ヲ施設シタル者ハ工事落成後七日以内ニ第五條第一項第二號第三號及第七條第一項各號ノ事項ヲ逓信大臣ニ届出ヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ公衆通信ノ用ニ供スルモノハ第五條第一項第二號ニ限リ逓信大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條 私設電信ヲ讓渡サムトスルトキハ第四條但書ノモノヲ鐵道相互間ニ讓渡ス場合ヲ除クノ外當事者雙方連署ノ上逓信大臣ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル私設電信ノ引渡ヲ爲シタルトキ又ハ第四條但書ノ私設電信ヲ鐵道相互間ニ讓渡シタルトキハ七日以内ニ當事者雙方連署ノ上逓信大臣ニ届出ヘシ

第一項ノ外相續又ハ其ノ他ノ原因ニ因リ私設電信ヲ繼承シタルトキハ七日以内ニ其ノ旨ヲ逓信大臣ニ届出ヘシ

大臣ニ届出ヘシ

第十條 公衆通信ノ用ニ供スル私設電信ハ逓信大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ廢止シ又ハ中止スルコトヲ得ス

前項以外ノ私設電信ヲ廢止シタルトキハ七日以内ニ其ノ旨ヲ逓信大臣ニ届出ヘシ

第十一條 電信法第二條第四號ニ依ル私設電信ノ通報ヲ開始シ廢止シ又ハ中止セムトスルトキハ其ノ施設者ヨリ十五日前ニ逓接郵便電信局又ハ電信局ニ届出ヘシ

第十二條 私設電信ヲ廢止シタルトキハ特ニ期間ノ指定ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外三十日以内ニ線路及機器ヲ撤去スヘシ其ノ許可ノ效力ヲ失ヒ又ハ之ヲ取消サレタルトキ亦同シ

私設電信ノ使用ヲ中止シ一箇年以上ニ及ビタルトキハ廢止シタルモノト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

第十三條 道路ニ架設スル私設電信ノ電線ハ左ノ制限ニ依ルヘシ但シ特別ノ事由アルモノハ逓信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

一 道路ノ兩側ニ跨カラスシテ其ノ一側ニノミ架設スヘシ

二 道路ノ一側ニ電信線、電話線其ノ他電氣信號線ノ架設シアルトキハ其ノ同側ニ架設スヘシ若其ノ一側ニ電燈電力又ハ電氣鐵道用電線ノ架設シアルトキハ他ノ一側ニ架設スヘシ

第十四條 私設電信ノ電線ヲ他ノ電信線、電話線又ハ電氣信號線ト交叉若ハ接近シテ架設スルトキハ其ノ通報信號ニ障害ヲ與ヘサル様離隔スヘシ其ノ離隔二尺ニ滿タサルトキハ其電線ノ所有者又ハ管理者ノ承諾ヲ受クヘシ

第十五條 私設電信ノ電線ヲ電燈、電力又ハ電氣鐵道用架空電線ト交叉若ハ接近シテ架設スルトキ又ハ其ノ電柱ニ添架スルトキハ左ノ制限ニ依ルヘシ但シ特別ノ事由アルモノハ逓信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

一 交叉ノ場合ニハ電燈、電力又ハ電氣鐵道用最低電線ノ下部ニ於テ三尺以上ヲ離隔スヘシ但シ工事上已ムヲ得サル場合ニ於テハ低壓又ハ高壓電線ニ限リ其ノ上部ニ三尺以上離隔シテ交叉スルコトヲ得

二 接近ノ場合ニハ低壓又ハ高壓電線ニ在リテハ三尺以上特別高壓電線ニ在リテハ電柱地表上高サノ二倍以上ヲ離隔スヘシ

三 特別ノ事由ニ依リ電燈、電力又ハ電氣鐵道用電線ノ電柱ニ添架スルトキハ低壓又ハ高壓電線ニ在リテハ二尺以上特別高壓電線ニ在リテハ四尺以上其ノ最低電線ノ下部ニ離隔スヘシ

第十六條 私設電信ノ電線ヲ電燈、電力又ハ電氣鐵道用架空電線ト交叉若ハ接近シテ架設スルトキ又ハ其ノ電柱ニ添架スルトキハ左ノ裝置ヲ施スヘシ其ノ已ニ架設シタル後ニ於テ交叉接近若ハ添架ノ場合ヲ生シタルトキ亦同シ

一 低壓又ハ高壓電線ニ在リテハ電信又ハ電話線ノ機械ニ出入スル各端ニ於テ五「アムペア」以下ニテ溶解スル安全器、三百「ヴォルト」ニテ放電スル避雷器及二百五十「ミリアムペア」以下ニテ溶解スル安全器ヲ設備スヘシ

二 特別高壓電線ニ在リテハ逓信大臣ノ認可ヲ經タル適當ノ保安裝置ヲ施スヘシ

第十七條 屋内ニ布設スル私設電信ノ電線ハ電燈、電力又ハ電氣鐵道用電線ト充分離隔シ且電氣的混觸ヲ豫防スヘシ

第十八條 私設電信ノ電柱ニハ施設者名及電柱ノ番號ヲ表記スヘシ

第十九條 私設電信ノ電線ヲ他ノ電線ト其ノ上部ニ於テ交叉シ又ハ六尺以内ノ距離ニ接近シテ架設スルトキハ工事著手前ニ其ノ電線ノ所有者又ハ管理者ヘ通知スヘシ其ノ既ニ架設シタルモノヲ修理シ若ハ撤去スルトキ亦同シ

第二十條 電信法第二條第四號ニ依リ連接郵便電信局又ハ電信局ニ施設スル私設電信ノ引込及裝置工事並其ノ維持ハ逓信省之ヲ執行ス

前項ノ私設電信施設者ハ逓信省ノ指示スル所ニ從ヒ其ノ設備ニ要スル物件ヲ供給シ其ノ工事費ヲ支拂ヒ且其ノ維持ニ要スル料金ヲ納付スヘシ但シ維持料ノ金額及其ノ納付手續ハ別ニ之ヲ定ム

第二十一條 逓信大臣ハ私設電信ノ施設他ニ障害ヲ及ホシ若ハ危險ノ虞アリト認ムルトキハ改修又ハ特別ノ施設ヲ命スルコトアルヘシ

第二十二條 逓信大臣ハ隨時吏員ヲ派遣シ私設電信ノ裝置方法又ハ通信ノ狀況等ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第二十三條 私設電信施設者此ノ規則ノ條項ニ違背シ又ハ此ノ規則ニ依リ發スル命令ヲ遵守セサルトキハ逓信大臣ハ私設電信ノ使用ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第二十四條 此ノ規則ニ依リ逓信大臣ニ提出スル書類ハ總テ其ノ私設電信施設地ノ所轄地方廳ヲ經由スヘシ但シ第四條但書ノ私設電信ニ關シテハ其ノ會社本店所在地ノ所轄地方廳ヲ經由スヘシ

第二十五條 第六條第八條但書第九條第一項若ハ第十條第一項ニ違反シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第七條第八條第九條第二項及第三項若ハ第十條第二項ノ届出ヲ爲ササル者又ハ第十九條ノ通知ヲ爲ササル者又ハ正當ノ事由ナクシテ第二十二條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十七條 電信法第二條第一號ノ私設電信ニ關シテハ第四條乃至第十三條第十八條第二十條及第二十四條ノ規定ヲ適用セス

附則

第二十八條 電鈴其ノ他線路ヲ施設シテ信號ヲ爲スモノニ關シテハ第十三條乃至第十九條第二十一條乃至第二十三條ノ規定ヲ準用ス

正午時ノ通報ヲ受クル爲電鈴線ヲ郵便電信局又ハ電信局トノ間ニ施設セムトスルモノニ關シテハ前項ノ外第四條乃至第七條第九條乃至第十二條及第二十條ノ規定ヲ準用ス

第二十九條 電信法施行前電信條例ニ依リ電信又ハ電話私設ノ許可ヲ得タル者ハ電信法第二條第一號ニ該當スルモノヲ除クノ外第四條及第五條ノ規定ニ準シ此ノ規則施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ逓信大臣ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但シ第四條但書ニ該當スルモノハ同一期間内ニ於テ第八條ノ規定ニ準シ届出ヘシ

前項ノ許可ヲ得タルモノハ第七條ノ規定ニ準シ届出ヘシ

第一項ノ期間内ニ於テ出願ヲ爲ササルモノ若ハ其ノ出願ヲ爲スモ許可ヲ得サルモノニ關シテハ第十二條ノ規定ヲ準用ス

第一項及第二項ノ届出ヲ爲ササルモノニ關シテハ第二十六條ノ規定ヲ適用ス

第三十條 前條ニ依リ許可ヲ得又ハ届出ヲ爲シタル私設電信ニシテ其ノ既設工事カ此ノ規則ノ

規定ニ適合セサルモノアルトキハ此ノ規則施行ノ日ヨリ三箇年以内ニ之ヲ改造スヘシ但シ其ノ期間内ト雖第二十一條ニ依ル命令ノ效力ヲ妨ケス

電鈴其ノ他線路ヲ施設シテ信號ヲ爲スモノノ既設工事ニ關シテハ前項ノ規定ヲ準用ス

第二十一條 此ノ規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

明治二十二年^三逓信省令第四號電信電話線私設條規其ノ他此ノ規則ニ牴觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

○逓信省令第四十九號

私設電信規則第二十條ノ料金額及其ノ納付手續左ノ通之ヲ定ム

明治三十三年九月一日

逓信大臣子爵芳川顯正

第一條 私設電信規則第二十條第二項ニ依ル維持料ノ金額左ノ如シ

電信機

一箇ニ付

年額金百六十圓

電話機

一箇ニ付

年額金八十圓

第二條 維持料ハ私設電信連接ノ郵便電信局ニ納付スヘシ但シ電信局又ハ三等郵便電信局ニ連接スルモノハ其ノ管轄一等郵便電信局ニ納付スヘシ

第三條 維持料ハ年額金ヲ四分シ左ニ掲クル四期ノ別ニ從ヒ每期ノ初月十日マテニ納付スヘシ

第一期

第二期

第三期

第四期

- 四月一日ヨリ 六月三十日マテ
- 七月一日ヨリ 九月三十日マテ
- 十月一日ヨリ 十二月三十一日マテ
- 一月一日ヨリ 三月三十一日マテ

第四條 一期ノ中途ニ於テ通報ヲ開始スヘキトキハ其ノ期ノ維持料ハ開始ノ月ヨリ其ノ期ノ末月マテノ月數ヲ年額ニ乘シ之ヲ十二分シテ算出シ通報開始ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ納付スヘシ

第五條 一期ノ中途ニ於テ通報ヲ廢止、中止又ハ停止シタルトキト雖其ノ期ノ維持料全額ヲ納付スルモノトス

第六條 一期ノ中途ニ於テ機械ノ種類ヲ變更シタルトキト雖其ノ一期分ハ變更前ノ割合ヲ以テ維持料ヲ納付スルモノトス但シ低額ノ維持料ヲ納ムヘキモノヨリ更ニ高額ノ維持料ヲ納ムヘキモノニ變更シタルトキハ第四條ノ規定ニ準シテ其ノ差額ヲ算出シ變更ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ納付スヘシ

第七條 郵便電信局又ハ電信局ニ連接スル電鈴線ノ正午通報料ハ前各條ノ規定ニ依リ一回線ニ付年額金十二圓ヲ納付スヘシ

○逓信省令第五十號

私設電信ニ依ル公衆通信取扱規則左ノ通之ヲ定ム

明治三十三年九月一日

逓信大臣子爵芳川顯正

私設電信ニ依ル公衆通信取扱規則

第一條 電信法第二條ニ依リ施設シタル電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ取扱所ノ名稱、位置、電報受付時間及電報ノ取扱ニ關スル制限ハ別ニ之ヲ告示ス

第二條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ專用ノ電報ハ公衆電

報ニ屬スルモノトシテ之ヲ公衆通信ノ取扱ニ付スルモノトス

第三條 第一項ノ規定ニ依リ施設シタル電信又ハ電話ノ取扱所ノ名稱、位置、電報受付時間及電報ノ取扱ニ關スル制限ハ別ニ之ヲ告示ス

第四條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ専用ノ電報ハ公衆電報ニ屬スルモノトシテ之ヲ公衆通信ノ取扱ニ付スルモノトス

第五條 第一項ノ規定ニ依リ施設シタル電信又ハ電話ノ取扱所ノ名稱、位置、電報受付時間及電報ノ取扱ニ關スル制限ハ別ニ之ヲ告示ス

第六條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ専用ノ電報ハ公衆電報ニ屬スルモノトシテ之ヲ公衆通信ノ取扱ニ付スルモノトス

第七條 第一項ノ規定ニ依リ施設シタル電信又ハ電話ノ取扱所ノ名稱、位置、電報受付時間及電報ノ取扱ニ關スル制限ハ別ニ之ヲ告示ス

第八條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ専用ノ電報ハ公衆電報ニ屬スルモノトシテ之ヲ公衆通信ノ取扱ニ付スルモノトス

第九條 第一項ノ規定ニ依リ施設シタル電信又ハ電話ノ取扱所ノ名稱、位置、電報受付時間及電報ノ取扱ニ關スル制限ハ別ニ之ヲ告示ス

第十條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ専用ノ電報ハ公衆電報ニ屬スルモノトシテ之ヲ公衆通信ノ取扱ニ付スルモノトス

第十一條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ専用ノ電報ハ公衆電報ニ屬スルモノトシテ之ヲ公衆通信ノ取扱ニ付スルモノトス

第十二條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ専用ノ電報ハ公衆電報ニ屬スルモノトシテ之ヲ公衆通信ノ取扱ニ付スルモノトス

第十三條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ専用ノ電報ハ公衆電報ニ屬スルモノトシテ之ヲ公衆通信ノ取扱ニ付スルモノトス

第十四條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ専用ノ電報ハ公衆電報ニ屬スルモノトシテ之ヲ公衆通信ノ取扱ニ付スルモノトス

第十五條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ専用ノ電報ハ公衆電報ニ屬スルモノトシテ之ヲ公衆通信ノ取扱ニ付スルモノトス

第十六條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ専用ノ電報ハ公衆電報ニ屬スルモノトシテ之ヲ公衆通信ノ取扱ニ付スルモノトス

第十七條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ専用ノ電報ハ公衆電報ニ屬スルモノトシテ之ヲ公衆通信ノ取扱ニ付スルモノトス

第十八條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ専用ノ電報ハ公衆電報ニ屬スルモノトシテ之ヲ公衆通信ノ取扱ニ付スルモノトス

第十九條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ専用ノ電報ハ公衆電報ニ屬スルモノトシテ之ヲ公衆通信ノ取扱ニ付スルモノトス

第二十條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ専用ノ電報ハ公衆電報ニ屬スルモノトシテ之ヲ公衆通信ノ取扱ニ付スルモノトス

第二十一條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ専用ノ電報ハ公衆電報ニ屬スルモノトシテ之ヲ公衆通信ノ取扱ニ付スルモノトス

第二十二條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ専用ノ電報ハ公衆電報ニ屬スルモノトシテ之ヲ公衆通信ノ取扱ニ付スルモノトス

第二十三條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ専用ノ電報ハ公衆電報ニ屬スルモノトシテ之ヲ公衆通信ノ取扱ニ付スルモノトス

第二十四條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ専用ノ電報ハ公衆電報ニ屬スルモノトシテ之ヲ公衆通信ノ取扱ニ付スルモノトス

第二十五條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ専用ノ電報ハ公衆電報ニ屬スルモノトシテ之ヲ公衆通信ノ取扱ニ付スルモノトス

第二十六條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ専用ノ電報ハ公衆電報ニ屬スルモノトシテ之ヲ公衆通信ノ取扱ニ付スルモノトス

第二十七條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ専用ノ電報ハ公衆電報ニ屬スルモノトシテ之ヲ公衆通信ノ取扱ニ付スルモノトス

第二十八條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ専用ノ電報ハ公衆電報ニ屬スルモノトシテ之ヲ公衆通信ノ取扱ニ付スルモノトス

第二十九條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ専用ノ電報ハ公衆電報ニ屬スルモノトシテ之ヲ公衆通信ノ取扱ニ付スルモノトス

第三十條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ専用ノ電報ハ公衆電報ニ屬スルモノトシテ之ヲ公衆通信ノ取扱ニ付スルモノトス

報中ノ私報又ハ至急私報ト同一ノ順位ヲ以テ傳送スヘシ但シ鐵道業ノ専用ニ供スル電信又ハ電話ナルトキハ其ノ専用ノ電報ハ公衆電報ニ先チ傳送スルコトヲ得

第三條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ私設者ノ請求ニ依リ電報取扱料ヲ支給ス

前項電報取扱料ハ電報料ノ三分ノ一以內トス

第四條 前條ノ電報取扱料ハ公衆通信取扱所ノ發信ニ付テハ其ノ發信所ノ私設者ニ郵便電信局電信局ノ發信ニ付テハ其ノ著信所ノ私設者ニ之ヲ支給ス

第五條 公衆通信ノ取扱所ニ於テ別使配達又ハ解船配達ヲ爲シタルトキハ其ノ取扱料トシテ別ニ定ムル金額ヲ支給シ電報ノ受取證書又ハ電報ノ正寫ヲ交付シタルトキハ其ノ取扱料トシテ電報規則ニ定ムル受取證書料又ハ正寫料ノ全額ヲ支給ス

第六條 電報送受ノ爲郵便電信局又ハ電信局ニ連接スル電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ期間電報ノ託送ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 此ノ規則ハ明治三十三年九月勅令第三百五十六號第二項ニ依リ公衆通信ノ用ニ供スル電信電話ニ之ヲ準用ス

附則

第八條 此ノ規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

明治二十八年十月逓信省令第六號及同二十九年八月逓信省令第十四號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治二十八年十月逓信省令第六號ハ鐵道所屬電信電話線公衆通信取扱規則同二十九年八月逓信省令第十四號ハ鐵道所屬ノ電報取扱所ニ於テ公衆ノ通信ヲ取扱ヘシメタルトキ逓信省ヨリ交付スヘキ手数料規程ナリ

○逓信省令第五十一號

官廳用電信電話規程左ノ通之ヲ定ム

明治三十三年九月一日

逓信大臣子爵芳川顯正

官廳用電信電話規程

第一條 明治三十三年九月勅令第三百五十六號ニ依ル官廳用ノ電信又ハ電話ハ左ニ掲グルモノニ限ル

一 一構内ニ施設スルモノ

二 警察事務及刑事訴訟事務ノ専用ニ供スル爲施設スルモノ

三 鐵道、軌道並私設電信規則第二條第二號乃至第四號ニ掲グル事業ノ専用ニ供スル爲施設スルモノ

四 電報送受ノ目的ヲ以テ郵便電信局又ハ電信局トノ間ニ施設スルモノ

五 一市區町村內若ハ鄰接市區町村間ニ於テ又ハ電信電話ノ連絡ナク且第四號ニ依ルヲ不適當トスル市區町村間ニ於テ施設スルモノ

第二條 前條ノ電信又ハ電話ニ關シテハ私設電信規則第四條乃至第十條第十二條乃至第十九條第二十一條及第二十二條ノ規定ヲ準用ス但シ前條第一號ノ電信又ハ電話ニ關シテハ私設電信規則第四條乃至第十條第十二條第十三條及第十八條ノ規定ヲ準用セス

前條第四號ノ電信又ハ電話ニ關シテハ前項ノ外私設電信規則第十一條第二十條及明治三十三年九月逓信省令第四十九號ノ規定ヲ準用ス

附則

第三條 電鈴其ノ他線路ヲ施設シテ信號ヲ爲スモノニ關シテハ私設電信規則第十三條乃至第十九條第二十一條及第二十二條ノ規定ヲ準用ス

正午時ノ通報ヲ受クル爲電鈴線ヲ郵便電信局又ハ電信局トノ間ニ施設スルモノニ關シテハ前項ノ外私設電信規則第四條乃至第七條第九條乃至第十二條及第二十條並明治三十三年九月逓信省令第四十九號ノ規定ヲ準用ス

第四條 此ノ規程施行前電報送受ノ爲郵便電信局又ハ電信局トノ間ニ施設シタル電信又ハ電話ニ關シテハ期限ヲ定メテ契約シタルモノハ其ノ期限内ニ限リ明治三十三年九月逓信省令第四十九號ノ規定ノ維持料金額ニ拘ハラズ其ノ契約ニ定メタル料金額ヲ納付スルモノトス

第五條 電信條例ニ依リ施設ノ許可ヲ得タル電信又ハ電話ニ關シテハ此ノ規程施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ私設電信規則第五條第一號乃至第三號及第七條各號ニ掲クル事項ヲ記載セル書類ヲ逓信大臣ニ提出スヘシ

第六條 此ノ規程施行前ニ於テ既ニ施設シタル電信又ハ電話ノ工事中此ノ規程ニ適合セサルモノニ關シテハ私設電信規則第三十條第一項ノ規定ヲ準用ス

電鈴其ノ他線路ヲ施設シテ信號ヲ爲スモノノ既設工事ニ付テモ亦同シ

第七條 此ノ規程ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

○逓信省令第五十二號

來十月一日ヨリ參錢封緘書及壹錢五厘郵便切手ヲ發行ス其見本ハ郵便局郵便受取所ニ備置カン

▲照鑑ヲ要スルモノハ就テ觀ルヘシ

明治三十三年九月四日

逓信大臣子爵芳川顯正

○逓信省令第五十三號

逓信省ニ於テ不動産ノ收用若クハ買収其他所有權ノ取得ヲ爲シタル場合ニ行フヘキ登記ニ關シテハ左ノ各官ヲシテ本大臣ノ代理トラシム

明治三十三年九月八日

- | | | | |
|------------|------------|----------|------------|
| 總務局會計課長 | 一等郵便電信局長 | 航路標識管理所長 | 逓信大臣子爵芳川顯正 |
| 電信燈器用品製造所長 | 電話交換局長 | 海軍局長 | 東京郵便電信學校長 |
| 鐵道作業局長 | 郵便爲替貯金管理所長 | 港務局長 | 商船學校長 |

○逓信省令第五十四號

自働電話機ヲ設ケタル場所ニ於テ通話セムトスル者ハ電話料相當ノ通貨ヲ其ノ電話機ニ設備スル料金差入口ニ差入ルヘシ但シ一旦差入レタル通貨ハ何等ノ場合ト雖之ヲ還付セス

前項通貨ノ種類其他通話ニ關スル方法及制限ハ電話交換局ノ定ムル所ニ據ル

明治三十三年九月十日

逓信大臣子爵芳川顯正

○逓信省令第五十五號

外國郵便規則左ノ通相定ム

明治三十三年九月十一日

逓信大臣子爵芳川顯正

外國郵便規則

- 第一條 外國へ發送スル郵便端書ハ政府發行ノ萬國郵便聯合端書、同往復端書ヲ用フヘシ
- 第二條 明治三十三年九月逓信省令第四十二號郵便規則第十八條ノ規定ヲ準用シテ政府發行ノ萬國郵便聯合端書ニ基キ作成セル私製端書ハ萬國郵便聯合端書ト看做ス

第三條 內國郵便用ノ封緘葉書ハ郵便端書トシテ外國へ發送スルヲ得ス

第四條 別配達ノ業務ヲ施行スル諸外國宛通常若ハ書留郵便物ノ差出人ハ手数料金十二錢ヲ納付シ其ノ別配達ヲ請求スルコトヲ得

第五條 外國ヨリ到着ニ係ル留置郵便物ノ留置期間ハ六十日トス
但シ艦船乗組人若ハ旅行者等ニ宛テタル郵便物ニシテ交付ノ見込アルモノハ尙三十日以内留置クコトアルヘシ

第六條 代金引換書留郵便物ハ特ニ該郵便物ノ交換ヲ約定セル諸外國トノ間ニ限り之ヲ交換スルコトヲ得

第七條 代金引換書留郵便物ハ萬國聯合郵便爲替ヲ取扱フ郵便局ニ限り之カ取扱ヲ爲スモノトス

第八條 本邦宛代金引換書留郵便物ニ對スル取立代金ノ制限ハ金四百圓トス

第九條 外國宛代金引換書留郵便物ニ對スル取立代金ノ制限額其ノ代金ヲ表示スヘキ貨幣並ニ外國ニ於ケル該郵便物ノ取扱局ハ別ニ告示スル所ニ據ル

第十條 外國宛代金引換書留郵便物ノ差出人ハ郵便物差出ノ後ハ代金引換ノ請求ヲ取消スコトヲ得ス

第十一條 外國ヨリ到着ニ係ル代金引換書留郵便物ニ付テハ郵便規則第四十九條第一項ノ規定ヲ準用ス

第十二條 到著郵便局ハ前項ニ依リ取立テタル代金ヨリ取立手数料金四錢及取立代金ニ對スル成規ノ爲替料ヲ控除シタル後殘餘ノ金額ヲ郵便爲替ニ依リ差出人ニ送付スルモノトス

第十一條 外國ヨリ到着ニ係ル代金引換書留郵便物ニシテ名宛人他國へ移轉シタルトキ若ハ成規ノ條件ニ適合セサルトキハ差出國へ返送スルモノトス

第十二條 外國宛代金引換書留郵便物ノ取立代金ニ對スル爲替ニシテ其ノ有効期間内ニ該郵便物ノ差出人ニ拂渡シ能ハサルトキハ郵便爲替法第十三條若ハ第十八條ノ規定ニ準シ處分スルモノトス

第十三條 郵便私書函使用人ハ外國ヨリ到着ノ料金完納通常郵便物ヲモ其ノ私書函ニ依リ受取ルコトヲ得

第十四條 外國ヨリ到着ニ係ル郵便物ニ付テハ郵便規則第八十一條ノ規定ヲ準用ス
但シ同條第二項ノ期間ハ三十日トシ同期間ヲ經過シタル後郵便ニ差出シタルモノニ付テハ糞ニ配達ヲ受ケタル者ヲシテ其ノ轉送ニ要スル料金ヲ納付セシム

第十五條 外國ヨリ到着ニ係ル郵便物ノ名宛人一時其ノ宿所ヲ移轉シタルトキハ別ニ料金ヲ納付スルコトナク其ノ移轉先ニ該郵便物ノ轉送ヲ請求スルコトヲ得

第十六條 外國ヨリ到着ニ係ル郵便物ニシテ何等ノ理由ヲ問ハス名宛人ニ交付シ能ハサルモノハ外國へ返送スルニ先チ適宜ノ期間之ヲ公示ス
但シ名宛人ニ交付ノ見込ナキコト明瞭ナルモノハ此ノ限ニアラス

第十七條 郵便物ノ取戻及名宛變更ヲ許可スル諸外國宛郵便物ニ付テハ郵便規則第七十九條第一項ノ規定ヲ準用ス

第十八條 但シ外國へ差立前ニ係ルモノニ付テハ郵便規則第七十九條第二項ノ規定ヲ準用ス其ノ外國へ差立後ニ係ルモノニ付テハ請求者ニ於テ郵便電信ノ別ニ從ヒ別ニ告示スル所ノ名宛國郵便官

署ニ宛發送スルニ要スル書留信書一通分若ハ私用電報ノ料金ヲ支拂フヘシ

第十八條 外國通常郵便物ノ踪跡不明ニ歸シタルトキハ外國宛ノモノニ付テハ其ノ差出人ヨリ引受郵便局ヘ又外國ヨリ到着ニ係ルモノニ付テハ其ノ名宛人ヨリ到着郵便局ヘ踪跡不明ノ旨ヲ證明スヘキ書類ヲ具シ別ニ料金ヲ納付スルコトナク其ノ取調ヲ請求スルコトヲ得

第十九條 到達證ヲ請求セサル書留郵便物ノ差出人ハ郵便物一箇ニ付手数料金五錢ヲ納付シ該郵便物踪跡ノ取調若ハ其ノ到達證ノ交付ヲ引受郵便局ヘ請求スルコトヲ得

第二十條 外國宛書留郵便物ニ失スルトキハ不可抗力ニ依ル場合ヲ除クノ外其ノ差出人ヘ若シ差出人ノ依頼アルトキハ其ノ名宛人ヘ郵便物一箇ニ付五十「フランク」ノ賠償金ヲ支拂フモノトス但シ賠償ノ責ニ任セサル諸外國宛書留郵便物ニ付テハ此ノ限ニアラス

第二十一條 前條規定ノ賠償ハ書留郵便物ノ差出人ヨリ引受郵便局ニ請求スヘシ其ノ請求ハ逓信省ニ於テ審査決定ス

第二十二條 郵便規則第一條第七條乃至第九條第十一條第十二條第十六條第十七條第三十八條第三十九條第六十九條乃至第七十一條第七十三條乃至第七十八條第八十條第一項第八十三條第二項及第三項第八十六條第二項及第八十七條ノ規定ハ外國郵便物ニモ之ヲ準用ス

附則

第二十三條 此ノ規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年九月 逓信省令第二十九號代金引換外國書留郵便規則並ニ此ノ規則ニ牴觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

○逓信省令第五十六號

清韓小包郵便規則左ノ通相定ム

明治三十三年九月十一日

逓信大臣子爵芳川顯正

清韓小包郵便規則

第一條 日本、清、韓三國相互間並ニ清、韓各國内ニ發着スル小包郵便物ニハ本規則並ニ明治三十三年九月逓信省令第四十二號郵便規則中本規則ニ牴觸セサル規定ヲ適用ス

第二條 郵便規則ニ掲グル郵便禁制品ノ外關稅定率法其ノ他ノ法令並ニ條約ニ依リテ輸出入ヲ禁シタル物品ヲ清韓小包郵便禁制品トス

第三條 小包郵便物ノ料金ハ左ノ如シ

日本内地、清、韓三國相互間小包郵便料

二百多	四百多	六百多	八百多	一貫二百五	一貫五百多
マテ	マテ	マテ	マテ	マテ	マテ

臺灣及清韓間小包郵便料

二百多	四百多	六百多	八百多	一貫二百五	一貫五百多
マテ	マテ	マテ	マテ	マテ	マテ

清、韓各國内地小包郵便料ハ日本内地小包郵便料ニ同シ

第四條 小包郵便物ノ差出人ハ其ノ郵便物ノ保有品名及價格ヲ送票中ニ記載スヘシ但シ日本及清國發着宛並ニ韓國發日本及清國宛小包郵便物ノ場合ニ於テハ其ノ保有品ノ正味重量ヲ送票中ニ記載スヘシ

第五條 清國及韓國ニ於ケル小包郵便物ノ配達及別配達ハ所在日本郵便局所ニ於テ郵便物ノ配達

ヲ施行スル地ニ宛タルモノニ限り之ヲ施行ス其ノ以外ノ地ニ宛タルモノハ總テ之ヲ到著郵便局所ニ留置キ受取人ノ出頭ヲ待テ之ヲ交付ス

前項小包郵便物留置ノ期間ハ三十日トス
第六條 清國若ハ韓國發日本へ到著ノ小包郵便物カ輸入税ヲ課スヘキモノナルトキハ之ヲ郵便局所ニ留置キ其ノ通知書ヲ受取人ニ送付ス受取人ハ通知書ノ日附ヨリ三十日以内ニ税額ニ相當スル收入印紙ヲ通知書ニ貼付シテ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ受取人此ノ規定ヲ履行セサルトキハ其ノ郵便物ハ之ヲ差出人ニ還付ス

關稅ノ賦課ニ關スル稅關長ノ處分ニ對シ異議ノ申立ヲ爲ス者ハ直ニ稅關ニ申立且其ノ事由ヲ郵便局所ニ申出ヘシ又其ノ異議ノ判定ヲ得タルトキ若ハ大藏大臣ニ訴願シタル場合ニ於テ其ノ訴願ノ裁決ヲ得タルトキハ其ノ書類ヲ郵便局所ニ提出スヘシ

第七條 前條ノ小包郵便物ノ保用品カ關稅定率法、稅關法若ハ其ノ他ノ法令ニ依リ關稅ヲ免除セラルヘキモノナル場合ニ於テ受取人カ其ノ免除ヲ得ントスルトキハ直ニ稅關ニ申立且其ノ事由ヲ郵便局所ニ申出ヘシ

前項ノ申立ニ對シ受取人カ稅關ヨリ關稅免除許否ノ通知ヲ得タルトキハ其ノ書類ヲ郵便局所ニ提出スヘシ

第八條 第六條ノ郵便物留置期間ノ經過ハ同條第二項ノ場合ニ於テハ異議ノ判定若ハ訴願ノ裁決ヲ得ルマテ又第七條ノ場合ニ於テハ關稅免除許否ノ通知ヲ得ルマテ之ヲ中止ス
第九條 日本若ハ清國發韓國へ到著ノ小包郵便物カ韓國稅關ニ於テ輸入税ヲ課スヘキモノナルトキハ其ノ郵便物ヲ郵便局所ニ留置キ其ノ通知書ヲ受取人ニ送付ス受取人ハ通知書ノ日附ヨリ

三十日以内ニ通知書ニ税金ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ受取人此ノ規定ヲ履行セサルトキハ該郵便物ハ之ヲ差出人ニ還付ス

第十條 輸入税ノ納付ヲ經テ韓國ニ輸入シタル小包郵便物ヲ普通商品ニ關シ日韓條約ニ規定スル期間ニ再輸出スル場合ニ於テ其ノ既納關稅ノ拂戻ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル請求書ヲ郵便局所ニ差出スヘシ但シ此ノ場合ニ於ケル小包郵便物ハ決シテ開披ヲ經ス且其ノ包裝及封緘ノ原形ノ儘ナルヲ要ス

第十一條 韓國ヨリ日本若ハ清國へ宛小包郵便物ヲ差出ストキハ郵便局所ニ於テ其ノ郵便物保用品ノ價格ノ百分ノ五ニ當ル金額ヲ輸出税トシテ韓國稅關ニ代リ徵收ス

前項ノ輸出税ハ其ノ金額カ金五十錢ニ滿タサルトキハ之ヲ徵收セス
第十二條 輸出税ノ納付ヲ經テ韓國ヨリ輸出シタル小包郵便物ヲ受取人ニ交付スル能ハサル爲韓國ニ於ケル差出人ニ還付スル場合ニ於テハ郵便局所ハ韓國稅關ヨリ既納税金ノ拂戻ヲ受ケテ之ヲ其ノ差出人ニ交付ス但シ此ノ場合ニ於ケル郵便物ハ決シテ開披ヲ經ス且其ノ包裝及封緘ノ原形ノ儘ナルヲ要ス

第十三條 韓國政府ノ特許ヲ要スル物品ヲ小包郵便物トシテ韓國ヨリ日本若ハ清國へ差出ストキハ其ノ特許證ノ謄本ヲ添附スヘシ若シ之カ添附ナキモノヲ郵便局所ニ於テ發見スルトキハ其ノ韓國ヨリ輸出前ニ係ルモノハ之ヲ差出人ニ還付シ又輸出後ニ係ルモノハ之ヲ韓國稅關ニ交付シ其ノ事由ヲ差出人ニ通知ス

前項ノ郵便物カ韓國稅關ヨリ郵便局所ニ返付セラレタル場合ニ於テハ之ヲ差出人ニ還付ス
第十四條 日本、清、韓三國相互間ニ於テ小包郵便物ヲ還付又ハ轉送スルトキハ更ニ第三條ノ郵便

料ヲ徵收ス

小包郵便物ノ還付又ハ轉送ノ爲關稅ヲ課スヘキ場合ニ於テハ其ノ輸出稅ハ差出人又輸入稅ハ受取人ヨリ之ヲ徵收ス

第十五條 本規則ヲ適用スヘキ小包郵便物ニ關スル代金引換ノ取消名宛變更又ハ取戻ノ請求ハ電信ニ依ルコトヲ得ス

第十六條 清、韓兩國ノ郵便局所ニ差出シタル小包郵便物ニ關スル損害ノ賠償ハ其ノ差出郵便局所ニ請求スヘシ但シ郵便受取所ニ差出シタルモノニ付テハ該受取所ヲ管轄スル局所ニ請求スヘシ

附則

第十七條 本規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年三月逓信省告示第九十七號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

逓信省告示第九十七號(明治三十三年三月六日)

紅、藍、帝、國、及、韓、國、間、條、約、ニ、據、リ、韓、國、ヨ、リ、輸、出、ス、ル、ニ、ハ、韓、國、政、府、ノ、特、許、ヲ、得、ル、ヲ、要、ス、ル、ヲ、以、テ、韓、國、ニ、於、テ、韓、國、臣、民、ニ、ア、ラ、サ、ル、モ、ヨ、リ、之、ヲ、小、包、郵、便、物、ト、シ、テ、韓、國、外、ニ、差、出、ス、ト、キ、ハ、其、ノ、特、許、證、ノ、附、書、ヲ、添、付、ス、ヘ、シ、若、シ、其、ノ、附、書、ノ、添、付、ナ、キ、モ、ノ、ヲ、郵、便、局、ニ、於、テ、發、見、ス、ル、ト、キ、ハ、之、ヲ、其、ノ、差、出、人、ニ、還、付、ス、ヘ、シ

○逓信省令第五十七號

外國郵便爲替規則左ノ通相定ム

明治三十三年九月十一日

逓信大臣子爵芳川顯正

外國郵便爲替規則

第一章 總則

第一條 外國郵便爲替ハ萬國聯合郵便爲替事務約定ニ加盟國中別ニ告示シタル外國又ハ箇所若ハ本邦ト特別ニ郵便爲替約定ヲ締結シタル外國並以上ノ外國郵政廳ノ媒介ニ依リ別ニ告示シタル外國又ハ箇所トノ間ニ之ヲ交換スルモノトス

外國電信爲替ハ萬國聯合郵便爲替事務約定ニ加盟國中別ニ告示シタル外國トノ間ニ之ヲ交換スルモノトス

第二條 萬國聯合郵便爲替事務約定ニ依ル爲替ハ以下之ヲ萬國聯合郵便爲替若ハ萬國聯合電信爲替ト稱シ特別ニ締結セル郵便爲替約定ニ依ル爲替ハ以下之ニ當該外國名ヲ冠ラシメタルモノヲ以テ各其ノ略稱トシ外國郵政廳ノ媒介ニ依ル爲替ハ以下之ヲ媒介爲替ト稱シ之ニ當該外國名ヲ冠ラシメタルモノヲ以テ各其ノ略稱トス

第三條 外國郵便爲替ハ內國郵便爲替ヲ取扱フ郵便局所ニ於テ之ヲ取扱フ但シ特ニ之ヲ取扱ハサルコトヲ告示シタル局所ハ此ノ限ニ在ラス

萬國聯合電信爲替ハ特ニ之ヲ取扱フコトヲ告示シタル一等郵便電信局ニ於テ之ヲ取扱フ

第四條 萬國聯合郵便爲替並香港及其ノ媒介爲替ハ別ニ告示シタル直接交換局ニ於テハ直接ニ其ノ振出及拂渡業務ヲ取扱ヒ其ノ他ノ郵便局所ニ於テハ別ニ告示シタル區別ニ從ヒ當該直接交換局ヲ經由シテ其ノ受拂業務ヲ取扱フモノトス

前項以外ノ外國郵便爲替ハ郵便局所ニ於テ郵便爲替貯金管理所ヲ經由シテ其ノ受拂業務ヲ取扱フモノトス

第五條 本邦ニ於ケル萬國聯合郵便爲替一口ノ金額制限、該爲替金ヲ表示スヘキ外國貨幣及該爲替別配達取扱ニ付テハ別ニ告示シタル所ニ依ル

第六條 本邦ト萬國聯合郵便爲替ヲ交換スル外國ニ於ケル爲替取扱局名、爲替一口ノ金額制限及爲替別配達取扱ニ付テハ別ニ告示シタル所ニ依ル

第七條 外國郵便爲替ノ振出ニ對シ一口毎ニ徵收スヘキ爲替料ノ割合ハ左ノ如シ

萬國聯合郵便	佛貨百法ヲ超過セサルモノ	二十五法毎ニ	十錢
爲替並伊國及	佛貨百法ヲ超過スルモノ	二十五法毎ニ	十錢
其ノ媒介爲替	佛貨百法ヲ超過スルモノ	五十法毎ニ	十錢

英國及其ノ媒介爲替

佛國爲替

米國爲替

加那太爲替

香港及其ノ媒介爲替

香港媒介爲替中海峽殖民地ニ振宛ツルモノ

第八條 媒介爲替ニ對シ媒介國郵政廳ニ於テ其ノ爲替金額ヨリ引去ルヘキ媒介手数料ノ割合ハ別ニ告示シタル所ニ依ル

第九條 外國郵便爲替金ハ郵便局所在地ニ於ケル最近ノ外國貨幣相場ニ依リテ換算シ本邦通貨

ヲ以テ其ノ受拂ヲ爲スモノトス

外國貨幣ノ相場ナキ地ノ郵便局所ニ於テハ最寄地ノ相場若ハ別ニ定メタル相場ニ依リ前項ノ手續ヲ爲スモノトス

前二項ニ依リ換算ヲ爲スニ當リ錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ四捨五入ス

第十條 明治三十三年九月逓信省令第四十五號郵便爲替規則第四條乃至第九條、第十一條、第十二條

第二項、第二十一條乃至第二十六條、第二十五條、第三十六條、第三十八條、第六十條第二項及第六十二條乃至第六十八條ノ規定ハ之ヲ外國郵便爲替ニ準用ス

第二章 郵便爲替

第一節 振出

第十一條 外國郵便爲替ノ差出人ハ郵便局所ニ於テ外國郵便爲替願書用紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ記入シ爲替料相當ノ郵便切手ヲ貼付シ郵便局所ニ差出スヘシ郵便局所ニ於テ爲替金額(外國

貨幣額)ヲ本邦通貨ニ換算シ之ヲ其ノ爲替願書ニ記入ノ上示サレタルトキハ該金額ヲ差出シ外國郵便爲替拂込金受領證書ヲ受取ルヘシ但シ香港爲替ニシテ直接交換局ノ振出ニ係ルモノニ付

テハ外國郵便爲替拂込金受領證書ノ外尙爲替券ヲモ受取り爲替券ハ之ヲ其ノ受取人ヘ送付スヘシ

第十二條 萬國聯合郵便爲替ノ差出人ニ於テ爲替券ニ受取人ヘ宛ツル通信ヲ附記スルコトヲ望ムトキハ爲替振出ノ際郵便局所ニ其ノ旨申出テ當該振出郵便局所ニシテ直接交換局ナル場合ニ於

テハ爲替券面通知券ノ部ニ又其ノ他ノ郵便局所ナル場合ニ於テハ適宜ノ用紙ニ之ヲ記載シ當該振出郵便局所ニ差出スヘシ

第十二條 萬國聯合郵便爲替ノ差出人爲替金、爲替券若ハ爲替到着報知書ノ別配達ヲ請求セムトスルトキハ外國郵便爲替願書ニ共ノ旨ヲ記載シ且其ノ料金トシテ爲替一口ニ付金十二錢ヲ納付スヘシ

第十四條 萬國聯合郵便爲替ノ差出人爲替拂渡通知書ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ外國郵便爲替願書ニ共ノ旨ヲ記載シ且其ノ料金トシテ爲替一口ニ付金五錢ヲ納付スヘシ

萬國聯合郵便爲替振出ノ後差出人ニ於テ爲替拂渡通知書ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ振出郵便局所ニ共ノ旨申出テ且前項ノ手数料ト同額ナル料金ヲ納付スヘシ

前二項ノ爲替拂渡通知書交付ノ請求アリタル萬國聯合郵便爲替ニ對シ振出郵便局所ニ於テ拂渡郵便局ヨリ爲替拂渡通知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ書留郵便ニ依リ之ヲ差出人ニ送付ス

第十五條 外國郵便爲替ノ差出人爲替振出後外國郵便爲替願書ニ自己又ハ受取人ノ宿所氏名等ヲ誤記シタルコトヲ覺知シタルトキハ振出郵便局所ニ訂正請求書ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テハ外國郵便爲替拂込金受領證書ヲ呈示スヘシ

第十六條 振出郵便局所ニ於テ前條ノ請求ニ應シタル場合ト雖拂渡郵便局ニ於テ既ニ爲替金ヲ拂渡シタル後ナル旨通報ニ接シタルトキハ其ノ旨ヲ差出人ニ通知ス

第十七條 萬國聯合郵便爲替券ノ取戻若ハ其ノ名宛變更ニ付テハ外國郵便物ノ取戻若ハ其ノ名宛變更ニ關スル規定ヲ準用ス但シ請求者ハ外國郵便爲替拂込金受領證書ヲ呈示スヘシ

前項爲替券ノ取戻若ハ其ノ名宛變更ニ關スル請求書ヲ發送スヘキ名宛國郵便官署名ハ別ニ告示シタル所ニ依ル

第二節 拂渡前ニ於ケル取扱

第十八條 郵便局所ニ於テ外國郵便局振出ニ係ル萬國聯合郵便爲替券ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ受取人ニ送達ス但シ別ニ定ムル所ニ從ヒ之ヲ局所渡ト爲スコトヲ得

前項ノ爲替受取人爲替券ヲ受取ルトキハ其ノ送達票ニ受領證印スヘシ

第十九條 直接交換局ニ於テ外國郵便局振出ニ係ル香港媒介爲替券竝自局以外ノ郵便局所ニ於テ拂渡スヘキ香港爲替券ノ送付ヲ受ケタルトキハ通常郵便ニ依リ爲替券ヲ受取人ニ送付ス

第二十條 外國ヨリ振込ヲ受ケタル前二條以外ノ外國郵便爲替ニ付テハ郵便爲替貯金管理所ニ於テ爲替券ヲ發行シ通常郵便ニ依リ之ヲ受取人ニ送付ス

第三節 拂渡

第二十一條 外國郵便爲替ノ受取人爲替金ノ拂渡ヲ請求セムトスルトキハ爲替券ニ記名調印シ之ヲ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ

第二十二條 拂渡郵便局所ハ外國郵便爲替ノ受取人ニ左ノ事項ヲ尋問シ外國郵便爲替報知書ニ記載シタル事項ニ符合スルヲ認メ爲替金ノ拂渡ヲ爲スモノトス

一 差出人ノ宿所氏名

二 受取人ノ宿所氏名

三 前各號ノ外拂渡上必要ト認ムル事項

萬國聯合郵便爲替ニ付テハ前項ニ準據スルノ外尙爲替券送達票ニ於ケル受取人ノ印影ト爲替券ニ於ケル印影ト符合スルヲ認メ拂渡ヲ爲スモノトス

第二十三條 萬國聯合郵便爲替ノ受取人代人ヲ以テ爲替金ノ拂渡ヲ請求セムトスルトキハ爲替券ノ裏面ニ委任文ヲ記載セスシテ必ス委任狀ヲ差出スヘシ

第四節 拂戻

第二十四條 萬國聯合郵便爲替ノ差出人爲替金ノ拂戻ヲ請求セムトスルトキハ爲替券ニ記名調印シ外國郵便爲替拂込金受領證書ト共ニ之ヲ振出郵便局所ニ差出スヘシ但シ不達、亡失、毀損若ハ汚斑セル爲替券ニ付拂戻ヲ請求セムトスルトキハ外國郵便爲替金拂戻請求書ヲ振出郵便局所ニ差出シ且外國郵便爲替拂込金受領證書ヲ呈示スヘシ
萬國聯合郵便爲替以外ノ外國郵便爲替ノ差出人爲替金ノ拂戻ヲ請求セムトスルトキハ前項但書ノ手續ヲ爲スヘシ但シ香港爲替ノ差出人爲替券ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ爲替券ヲ請求書ニ添へ差出スヘシ

前二項ニ依リ外國郵便爲替金拂戻請求書ヲ差出ス者アルトキハ郵便爲替貯金管理所ニ於テ拂渡國郵政廳ニ於テ其ノ爲替金ノ拂渡ヲ爲ササリシコト及其ノ拂渡ヲ爲ササルヘキコトヲ確認シタル後前二項ノ外國郵便爲替金振戻請求書ニ拂戻認可ノ旨ヲ記載シ之ヲ差出人ニ返付ス

差出人ハ前項ノ外國郵便爲替金拂戻請求書ニ爲替金領收ノ旨ヲ記載シ記名調印ノ上外國郵便爲替拂込金受領證書ト共ニ之ヲ振出郵便局所ニ差出シ爲替金ノ拂戻ヲ受クヘシ

第二十五條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ有效期間經過ノ爲メ拂渡國郵政廳ヨリ外國郵便爲替ノ返還ヲ受ケタルトキハ外國郵便爲替金拂戻通知書ヲ該爲替ノ差出人ニ送付ス

差出人ハ前項ノ外國郵便爲替金拂戻通知書中爲替金受領證印ノ部ニ記名調印シ外國郵便爲替拂込金受領證書ト共ニ之ヲ振出郵便局所ニ差出シ爲替金ノ拂戻ヲ受クヘシ

第二十六條 前二條ノ爲替金ノ拂戻ヲ受ケサルトキハ郵便爲替法第十二條ノ規定ニ準シ處分ス

第二十七條 本章第三節ノ規定ハ外國郵便爲替金拂戻ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五節 拂渡若ハ拂戻郵便局所ノ變更

第二十八條 外國郵便爲替ノ受取人ハ拂渡郵便局所ノ變更ヲ請求スルコトヲ得

外國郵便爲替ノ差出人ハ拂戻郵便局所ノ變更ヲ請求スルコトヲ得

第六節 拂渡認可書及第二爲替券

第二十九條 萬國聯合郵便爲替券ノ不達、亡失、毀損若ハ汚斑ニ因リ拂渡認可書ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一 受取人ヨリ請求セムトスルトキハ拂渡認可書請求書ヲ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ但シ爲替券毀損若ハ汚斑ノ場合ニ於テハ該爲替券ヲ差出シ又其ノ亡失ノ場合ニ於テハ相當保證人ヲ立テ請求書ニ連署スヘシ

二 差出人ヨリ請求セムトスルトキハ拂渡認可書請求書ニ外國郵便爲替拂込金受領證書ヲ添へ之ヲ振出郵便局所ニ差出スヘシ差出人ハ拂渡認可書請求書ニ對スル受領證書ヲ受取ルヘシ

第三十條 萬國聯合郵便爲替以外ノ外國郵便爲替ノ受取人爲替券ノ不達、亡失、毀損若ハ汚斑ニ因リ第二爲替券ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ第二爲替券請求書ヲ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ但シ爲替券毀損若ハ汚斑ノ場合ニ於テハ該爲替券ヲ差出シ又其ノ亡失ノ場合ニ於テハ相當保證人ヲ立テ請求書ニ連署スヘシ

第三十一條 當該拂渡又ハ振出郵便局所ニ於テ外國郵政廳又ハ郵便爲替貯金管理所發行ニ係ル拂渡認可書ノ送付ヲ受ケタルトキハ第十八條ニ準據シ之ヲ請求者ニ送達ス

郵便爲替貯金管理所ニ於テ第二爲替券ヲ發行シタルトキハ第二十條ニ準據シ之ヲ受取人ニ送付ス

第七節 爲替金居宅拂

第三十二條 外國郵便爲替ノ受取人ハ爲替金ノ居宅拂ヲ請求スルコトヲ得

第三十三條 外國郵便爲替ノ受取人前條ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ料金トシテ爲替一口ニ付金四錢ヲ納付スヘシ

第三章 電信爲替

第三十四條 萬國聯合電信爲替ノ差出人ハ該爲替ヲ取扱フ郵便電信局ニ於テ外國郵便爲替願書用紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ記入シ且特ニ電信爲替ノ文字竝至急返信料前納照校受信報知郵便配達若ハ別配達ノ手數ヲ經ルコトヲ望ムトキハ其ノ指定ヲ附記シ爲替料相當ノ郵便切手ヲ貼付シ振出郵便電信局ニ差出スヘシ當該郵便電信局ニ於テ爲替金額(外國貨幣額)ヲ本邦通貨ニ換算シ之ヲ其ノ爲替願書ニ記入ノ上示サレタルトキハ該金額ヲ差出シ且相當電報料ヲ納付シ外國郵便爲替拂込金受領證書ヲ受取ルヘシ

第三十五條 前條ノ爲替差出人ニ於テ爲替電報紙ニ受取人ハ宛ツル通信ヲ附記スルコトヲ望ムトキハ振出郵便電信局ニ其ノ旨申出テ爲替電報紙ノ通信欄ニ之ヲ記載シ差出スヘシ

第三十六條 電報料ハ爲替通知ノ語數ト差出人通信ノ語數トヲ通算シ萬國電信ニ關スル規定ニ依リ之ヲ納付スヘシ

第三十七條 第二章中萬國聯合郵便爲替ニ關スル規定ハ第十一條乃至第十三條及第十七條ヲ除クノ外之ヲ電信爲替ニ準用ス

附則

第三十八條 本規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十七年五月五日 遞信省令第四號ハ本規則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十九條 本規則施行前ニ有効期間經過ノ爲メ拂渡國郵政廳ヨリ返還ヲ受ケタル外國郵便爲替ニ在リテハ第二十六條ニ依ル期間ハ郵便爲替法第十八條但書前段ノ規定ニ準ス

〔參照〕

明治二十七年五月五日 遞信省令第四號ハ諸外國郵便爲替中效用期限經過ノタメ本邦ニ返送シ來リタルモノハ到着ノ日ヨリ起算シ一箇月以内ニ其金額ヲ拂戻スノ件ナリ

○遞信省令第五十八號

電信法第六條ニ依ル損害賠償又ハ同法第七條ニ依ル報酬ノ請求ハ其ノ損害ヲ加ヘ又ハ助力ヲ受ケタル電信又ハ電話ノ工夫配達人ノ屬スル局所ヲ管轄スル一等郵便電信局又ハ電話交換局ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ請求ヲ爲ス者ハ其ノ請求金額及之ヲ請求スル事由ヲ記載シタル請求書ヲ差出スヘシ

一等郵便電信局又ハ電話交換局ハ請求ノ當否及金額ヲ審査シ其ノ決定ヲ請求者ニ通知スヘシ

明治三十三年九月十一日

遞信大臣子爵芳川顯正

○遞信省令第五十九號

本年^四遞信省令第八號本邦ト在韓國本邦郵便電信局郵便局間直發著電報取扱規則中左ノ通改正シ來十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年九月十四日

遞信大臣子爵芳川顯正

第二條第二項

字數ニ算入スヘキ文字ノ記載ナキ和文電報ハ一語トシテ料金ヲ課ス

第四條中第二號第六號第十號ヲ左ノ通改正シ及第十一號ノ次ニ左ノ第十二號ヲ追加ス

二 歐文電報ニシテ郵便受信報知及別使若ハ解船配達ヲ要スルモノノ略符號

六 郵便ニ依リ又ハ電報受附函ニ差入レ若ハ電報配達人ニ依テ電報ノ差出及受附

十 傳送前電報返還ノ手数料

十二 電報料及手数料ノ還附ニ要スル物件

第五條 萬國電信條約第七條ニ據リ停止シタル電報ノ料金ハ之ヲ還附セス

第六條ヲ削除シ第七條ヲ第六條トシ以下順次繰上ル

第六條第二項中「及書留手数料」ヲ削除ス

第七條中「別使又ハ郵便ヲ以テ」ヲ「別使、解船又ハ書留郵便ヲ以テ」ト改メ「別使又ハ郵便ト記シ」以下其旨ヲ記載シ相當ノ配達料ヲ納ムヘシト改ム

第九條 韓國無手数料配達區外ニ宛テタル電報ニシテ書留郵便又ハ別使ヲ以テ配達スヘキモノ及

釜山港又ハ仁川港碇泊ノ艦船ニ宛テタル電報ニシテ書留郵便又ハ解船ヲ以テ配達スヘキモノハ

書留郵便、別使又ハ解船配達ノ略符號ヲ以テ之ヲ指定スヘシ其配達方ヲ指定セサルモノハ無料

ノ普通郵便ヲ以テ之ヲ配達ス

第十條 書留郵便ヲ以テ配達スヘキ電報ハ其配達料トシテ金七錢ヲ納ムヘシ

〔參照〕

逓信省令第八號本邦ト在韓國本邦郵便電信局間直發著電報取扱規則(明治三十三年四月二十日)抄錄

第二條第二項

本文ナキ和文電報ハ之ヲ取扱フヲ得ス

第四條 左ニ掲グルモノハ内國電信ノ規定ヲ準用ス

二 歐文電報ノ郵便、書留郵便、別使又ハ解船配達ノ略符號

六 返信料前納電報ニシテ郵便ヲ以テ送ラ要スルモノ、指定

十 電報料及手数料ニシテ既ニ郵便切手ニ捺印シタルモノ、處理

第五條 電報料及手数料ヲ還付スルトキハ郵便切手ヲ以テスヘシ

第六條 和文電報ニシテ無手續配達ヲ要スルモノハ其略符號「ナ」ヲ以テ指

定スヘシ

第六條第二項 郵便受信報知ヲ要スル電報ハ内國郵便稅率ニ據リ其郵便稅及書留手数料ヲ増納スヘシ

第七條 無手数料配達區外ニ住居スル發信人ニ於テ別使又ハ郵便ヲ以テ受信報知ノ配達ヲ得ントスルトキハ頼信紙ノ端末

ニ「別使」又ハ「郵便」ト記シ相當ノ別使配達料又ハ郵便稅ヲ納ムヘシ

第九條 韓國ニ宛テタル電報ニシテ無手續配達區外ニ送ラスヘキモノハ郵便又ハ別使配達ノ指定釜山港又ハ仁川港碇泊ノ

艦船ニ宛テタルモノハ郵便又ハ解船配達ノ指定ヲナスヘシ其配達方ヲ指定セサルモノハ總テ先拂郵便ヲ以テ之ヲ送ラス

第十條 郵便ヲ以テ送ラスヘキ電報ハ内國郵便稅率ニ依リ其料金ヲ納ムヘシ

○逓信省令第六十號

本年四月逓信省令第九號在韓國本邦郵便電信局相互ノ間ニ發著スル電報ニ内國電信ノ規定ヲ

準用スルノ件中第七號左ノ通改正シ來十月一日ヨリ施行ス

明治三十三年九月十四日

逓信大臣子爵芳川顯正

七 返信料前納電報ニシテ和文一語、歐文ニ語ヲ超ヘテ返信料ヲ前納スルモノハ其略符號ノ次

ニ返信ノ語數ヲ附記スヘシ

〔參照〕

逓信省令第九號(明治三十三年四月二十日)抄錄

在韓國本邦郵便電信局相互ノ間ニ發著スル電報ニハ來五月一日ヨリ左記各號ノ規定ヲ除クノ外内國電信ノ規定ヲ準

用ス

七 釜山港又ハ仁川港碇泊ノ艦船ニ宛テタル電報ニシテ配達方ヲ指定ナキモノハ先拂郵便ヲ以テ之ヲ送ラス

○逓信省令第六十一號

海外電報ニ關シ追納ヲ要スル料金及三等郵便電信局若ハ電信取扱所ニ差出ス海外電報ノ料金ハ郵便切手ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

本令ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

明治三十一年十月一日ヨリ施行ス

明治三十三年九月十四日

逓信大臣子爵芳川顯正

(參照)

逓信省令第二十一號(明治三十一年十月十三日)
萬國電信條約ニ據リ發送スル電報ノ料金ハ二等電信局三等郵便電信局及電信取扱所ニ在リテハ郵便切手ヲ其電報紙面ニ貼付シテ之ヲ納ムヘシ

萬國電信條約ニ據ル電報ニ關シ料金ノ追納ヲ要スルトキハ明治十八年五月太政官布達第七號電信取扱規則第五十六條ニ據ル

○逓信省令第六十二號

海外電報ハ明治三十三年九月逓信省令第四十六號電報規則第七十五條乃至第八十條ニ據リ電話加入者ノ使用ニ屬スル電話又ハ郵便電信局電信局ニ連接スル電信電話ヲ以テ之ヲ發受スルコトヲ得

本令ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

○逓信省令第六十三號

臺灣島内ニテ配達スヘキ電報ノ別便配達料ハ電報規則第六十七條ニ規定スル金額ノ五倍トス

明治三十三年九月十四日

逓信大臣子爵芳川顯正

○逓信省令第六十四號

明治三十年十月逓信省令第三十二號加入登記料及電話使用料ノ項中仙臺ノ次ニ左ノ追加ス

明治三十三年九月十五日

逓信大臣子爵芳川顯正

○逓信省令第六十五號

清國ニ設置シタル郵便局所相互間又ハ同局所ト其以外ノ各郵便局所間ニ取組ム郵便爲替料金及内地各郵便局所ト臺灣各郵便局所トノ間並ニ韓國ニ設置シタル郵便局所ト内地及臺灣各郵便局所トノ間ニ取組ム電信爲替料金左ノ通相定メ來十月一日ヨリ施行ス

明治三十三年九月十五日

逓信大臣子爵芳川顯正

在清國各局所相互間又ハ同局所ト其以外ノ各局所トノ間

金額十圓以内	十 錢
同 二十圓以内	二十 錢
通常 爲 替 同 三十圓以内	三十 錢
同 四十圓以内	四十 錢
同 五十圓以内	五十 錢
小 爲 替 同 五十圓以内	五 錢
内地各局所及臺灣各局所間	金額十圓以内
同 二十圓以内	五十 錢
同 四十圓以内	六十 錢

電信爲替	同	三十圓以内	七十錢
	同	四十圓以内	八十錢
	同	五十圓以内	九十錢
在韓國各局所ト内地及臺灣各局所トノ間		金額十圓以内	八十錢
		同 二十圓以内	九十錢
電信爲替	同	三十圓以内	一圓
	同	四十圓以内	一圓十錢
	同	五十圓以内	一圓二十錢

郵便爲替規則第四十條ニ依ル至急電報料

一圓二十錢

○逓信省令第六十六號

逓信大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ特ニ官廳ニ限リ電話交換規則第二條ノ電話加入區域ニ拘ラス電話交換ニ加入セシムルコトアルヘシ

電話加入區域外ニ在ル官廳ニ於テ加入申込ヲ爲ストキハ電話交換局ノ指示スル所ニ從ヒ其ノ普通加入區域外ニ係ル電話線路ヲ建設シ之ヲ當該電話交換局ニ引渡スヘシ其ノ加入後移轉ノ爲線路ノ新設ヲ要スル場合亦同シ

前項ノ電話加入者ハ特別加入區域ニ屬スル加入者ノ例ニ依リ普通加入區域外ニ係ル線路ノ町程ニ應シ附加使用料ヲ納ムヘシ

前二項ニ依リ加入シタル電話加入ハ官廳相互間ノ外之ヲ讓渡スコトヲ得ス

本令ニ定ムル電話加入者ニ對シテハ前各項ニ定ムル事項及電話線接續料ヲ徵收セサルノ外總テ電話交換規則ヲ適用ス

明治三十三年九月十五日

逓信大臣子爵芳川顯正

○逓信省令第六十七號

滯納料金徵收規程左ノ通相定ム

明治三十三年九月十七日

逓信大臣子爵芳川顯正

滯納料金徵收規程

第一條 郵便法第二十七條及電信法第二十一條ニ依ル郵便電信及電話ニ關スル滯納ニ係ル不納料金ノ徵收ニ關シテハ本規程ニ於テ定ムルモノノ外明治二十年六月勅令第二百二十一號及同年六月大藏省令第十號規定ノ例ニ依ル

第二條 滯納ニ係ル不納料金納付ノ督促ヲ爲ストキハ郵便電信局長郵便局長電信局長又ハ電話交換局長ニ於テ第一號又ハ第二號書式ノ督促狀ヲ發スヘシ

前項督促ニ依リ滯納者其不納料金及督促手数料ヲ納付セムトストキハ現金又ハ郵便切手ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

郵便切手ヲ以テ納付スヘキ場合ニ於テハ之ニ相當スル郵便切手ヲ督促狀ノ裏面ニ貼附シ之ヲ差出スヘシ

第三條 不納料金滯納者ノ財産差押ヲ命シタル吏員ニハ左ノ證據ヲ交付ス

○逓信省令第六十九號

明治三十年月^{十二}逓信省令第三十二號加入登記料及電話使用料ノ項中廣島ノ次ニ左ノ通追加ス

明治三十三年九月二十一日

逓信大臣子爵芳川顯正

金 一 金 五 圓 一 金 四 十 八 圓

○逓信省令第七十號

電話交換業務用ニ供スル電話加入及電話所ノ電話機ニ依ル電話通信並電話加入區域外ノ線路ニ依ル電話交換業務用ノ電話通信ハ逓信大臣ニ於テ必要ト認ムルモノニ限リ無料ト爲スコトヲ得

明治三十三年九月二十六日

逓信大臣子爵芳川顯正

○逓信省令第七十一號

明治三十三年月^三逓信省令第二號郵便切手貯金規則中左ノ通改正シ來十月一日ヨリ施行ス

但當分ノ内從來發行ノ郵便切手貯金壹紙ニ壹錢郵便切手ヲ貼附シ之ヲ賣下ケシム

明治三十三年九月二十九日

逓信大臣子爵芳川顯正

第五條左ノ通改正ス

第五條 郵便切手貯金壹紙ハ壹錢郵便切手ノ印面ヲ印刷シ該印面金額ヲ以テ郵便局所ニ於テ之ヲ賣下クルモノトス

(參照)

逓信省令第二號郵便切手貯金規則(明治三十三年三月十二日)抄録

第五條 郵便切手貯金壹紙ハ貯金ヲ取扱フ郵便電信局郵便局郵便受取所ニ於テ之ヲ交付ス

○逓信省令第七十二號

郵便局所收入印紙賣下規則左ノ通相定ム

明治三十三年九月二十九日

逓信大臣子爵芳川顯正

郵便局所收入印紙賣下規則

第一條 明治三十二年^三勅令第五十號ニ依リ賣下クヘキ收入印紙ハ郵便電信局郵便局郵便受取所及收入印紙賣下ノ許可ヲ得タル郵便切手賣下所ニ於テ之ヲ賣下ク

第二條 三等郵便電信局郵便局郵便受取所及郵便切手賣下所ニ於テ買受クヘキ收入印紙ハ其ノ買受高ニ對シ左ノ割合ヲ以テ賣下クヘシ

一 三等郵便電信局郵便局ニ對シテハ收入印紙買受高ノ百分ノ六

二 郵便受取所及郵便切手賣下所ニ對シテハ收入印紙買受高ノ百分ノ四

第三條 三等郵便電信局郵便局郵便受取所及郵便切手賣下所ニ於テ買受ケタル收入印紙ノ汚斑毀損シタルモノ又ハ效用ヲ關クヘキ其アルモノ及不用ニ歸シタルモノハ百分ノ九ノ割引ヲ以テ交換又ハ買戻ヲ爲スヘシ

第四條 郵便切手賣下人共ノ郵便切手賣下所ニ於テ收入印紙ノ賣下ヲ爲サムトスルトキハ收入印紙賣下免許申請書^{第一號}ヲ作り所轄一二等郵便電信局郵便局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ郵便切手賣下免許ヲ申請スル者ヨリ同時ニ收入印紙ノ賣下免許ヲ申請スルトキ亦同シ

第五條 一二等郵便電信局郵便局ニ於テ前條ノ申請ヲ受ケ之ヲ許可スルトキハ郵便切手收入印紙賣下免許證ヲ交付シ共ノ郵便切手賣下人ノ申請ニ對シ收入印紙ノ賣下ヲ許可スルトキハ郵便切手賣下免許證ト引替ニ之ヲ交付スヘシ

第六條 收入印紙賣下ノ許可ヲ得タル郵便切手賣下人ハ自費ヲ以テ郵便切手收入印紙賣下所標

札第三號ヲ調製シ公衆ノ看易キ場所ニ掲出スヘシ

第七條 此ノ規則ニ規定シタルモノノ外收入印紙ノ賣下ニ關シテハ郵便切手類賣下規則第二條乃至第八條第十條乃至第十二條第十六條乃至第三十二條第三十五條及第三十九條ヲ準用ス
第八條 收入印紙賣下ノ許可ヲ得タル郵便切手賣下人此ノ規則ニ違背シタルトキハ其ノ賣下免許ヲ取消スコトアルヘシ

附則

第九條 此ノ規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

此ノ規則ニ抵觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

第十條 此ノ規則施行以前郵便切手收入印紙賣下ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ效力ヲ繼續ス
(第一號樣式)

收入印紙賣下免許申請書

本籍
現住行
職業

「郵便切手賣下人」

氏 名

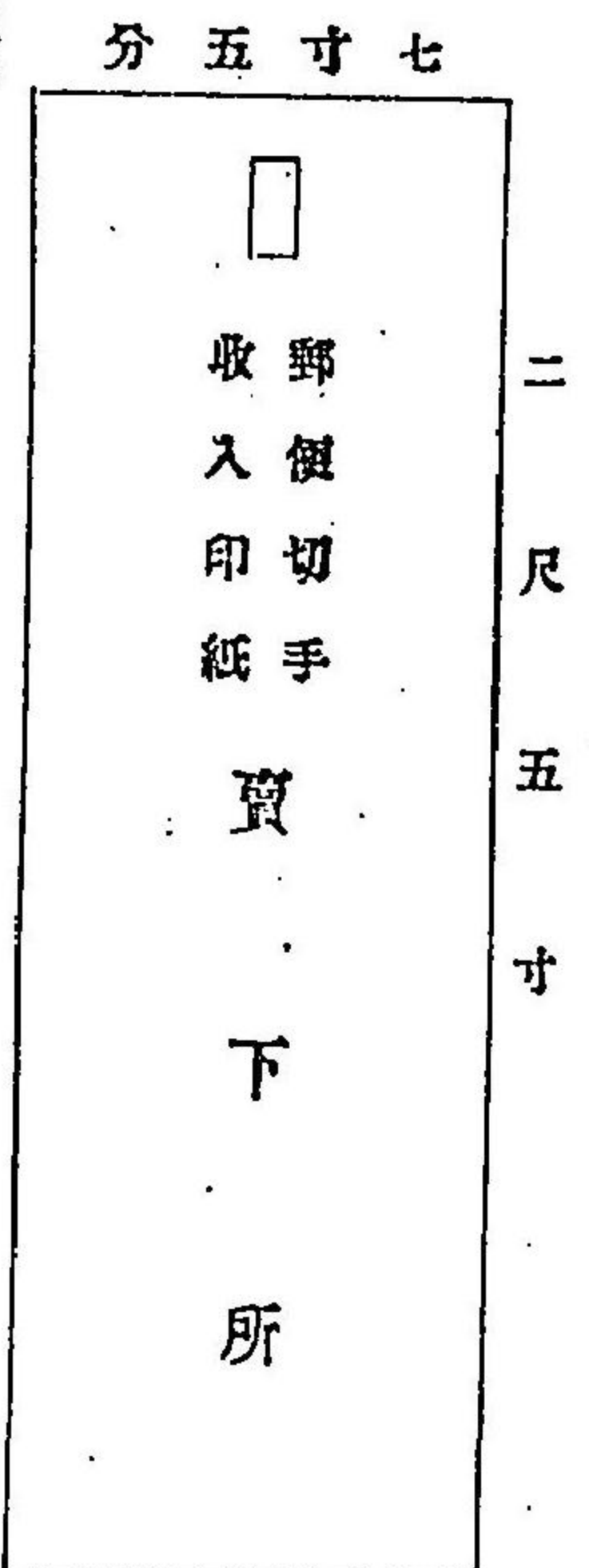
氏 名 印

御中

何郵便電信局(郵便局)

右ハ從來現住所若ハ何地ニ於テ郵便切手類賣下致居又ハ令般現住所若ハ何地ニ於テ郵便切手賣下免許申請「候處同所ニ於テ郵便切手類ト共ニ收入印紙賣下致度候間免許相成度此段申請候也
年 月 日

(第二號樣式)



○逓信省令第七十三號

第三種郵便物認可規則左ノ通定ム

明治三十三年九月二十九日

逓信大臣子爵芳川顯正

第三種郵便物認可規則

第一條 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケントスルモノハ本規則ノ定ムル所ニ依リ發行地所轄ノ一等郵便電信局ヘ願出ツヘシ

第二條 第三種郵便物ト爲スヘキ定期刊行物ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一 毎月一回以上逐號定期ニ發行スルコト
- 二 記載事項ノ性質終期ヲ豫定スヘカラサルコト
- 三 書籍ノ性質ヲ有セサルコト
- 四 政事、時事、商事、學術、技藝、統計等公共ノ性質ヲ有スル事項ヲ報道論議スルヲ發行ノ目的ト爲シ且ツ汎ク公衆ニ發賣スルコト

第三條 本規則ニ依ル認可ヲ受ケントスル定期刊行物ノ發行人ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ

一 題號

二 記載事項ノ種類

三 發行ノ定日

四 發行所

五 發行人ノ住所氏名

第四條 前條ノ出願人ハ手数料トシテ金十圓ヲ納ムヘシ

前項ノ手数料ハ郵便切手ヲ用非認可願書ニ貼附スヘシ若認可ヲ與ヘサルトキハ之ヲ還付ス

第五條 本規則ニ依ル認可ノ效力ハ最初認可ヲ受ケタル號ヨリ發生スルモノトス

發行休止ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサルトキハ其效力ヲ失フ

第六條 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケタル定期刊行物ノ發行人ハ其ノ發行毎ニ先ツ其ノ認可ヲ受ケタル一等郵便電信局ニ見本一部ヲ差出スヘシ

第七條 第二條各號ノ事項ヲ變更シタルトキ又ハ廢刊、休刊、發行禁止ノトキハ其ノ發行人ヨリ七日以内ニ其ノ認可ヲ受ケタル一等郵便電信局ニ之ヲ届出ツヘシ

第八條 本規則ニ依リ認可ヲ受ケタル定期刊行物ニシテ第二條各號ノ條件ヲ缺キ若ハ第六條ノ見本ノ差出又ハ届出ヲ怠リタルトキハ其ノ認可ヲ取消スヘシ

附則

第九條 本規則ハ郵便法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十五年ニ逓信省令第四號第三種郵便物認可規則及本規則ニ牴觸スル規定ハ本規則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十條 明治二十五年ニ逓信省令第四號第三種郵便物認可規則ニ依リ認可ヲ受ケタルモノハ尙其ノ效力ヲ有ス

○逓信省令第七十四號

船積積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト獨逸國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ左ノ條規ヲ定メ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年九月二十九日

逓信大臣子爵芳川顯正

第一條 獨逸國政府ニ於テ千八百九十五年三月一日發布船積積量測度規則ニ依リ交付シタル測度證書ヲ受有スル同國ノ船積積量測度規則ニ於テ其積量ヲ測度スルコトナク其證書ニ記載スル登簿噸數ハ帝國船積積量測度規則同一ナリト看做ス

第二條 獨逸國政府ニ於テ千八百八十八年六月二十日發布船積積量測度規則第十七條ノ規定ニ依リ英國測度方法ニ從ヒテ測リタル登簿噸數ヲ記載シテ交付シタル測度證書ヲ受有スル同國ノ船積積量測度規則ニ於テ其積量ヲ測度スルコトナク前記ノ登簿噸數ハ帝國船積積量測度規則同一ナリト看做ス

第三條 獨逸國政府ニ於テ前條ノ測度規則ニ依リ交付シタル測度證書中ニ同則第十七條ニ依リテ測リタル登簿噸數ノ記載ナキ場合又ハ千八百七十二年七月五日發布船積積量測度規則ニ依リ積量證書ヲ附與セラレタル場合ニ於テモ其證書ニ記載シタル登簿噸數ヲ帝國船積積量測度規則同一ナリト看做ス但船積積量測度規則ニ依リ積量證書ヲ附與セラレタル場合ニ於テ再測度ノ請求ヲ爲ストキハ帝國船積積量測度規則ニ依リ除

一ナリト看做ス

明治三十三年九月 省令 逓信省第七十四號

七三五

去スヘキ機關室ノミノ測度ヲ爲シテ其登簿噸數ヲ定メ又ハ其測度ヲ爲サシテ前記ノ測度證書ニ記載シタル登簿噸數ヨリ其十分ノ一ヲ減シタルモノヲ以テ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做スモノトス

○逓信省令第七十五號 郵便切手類賣下規則左ノ通相定ム

明治三十三年九月二十九日

逓信大臣子爵芳川顯正

郵便切手類賣下規則

- 第一條 此ノ規則ニ於テ郵便切手類ト稱スルハ政府ニ於テ發行スル郵便切手郵便封皮郵便葉書ヲ謂フ
- 第二條 郵便切手類ハ郵便電信及電話局所ニ於テ之ヲ賣下ク但シ郵便及電信局所内又ハ電話交換局内ニ設置ノ電話所及官廳用電信電話又ハ私設ノ電信電話ニ依ル公衆通信取扱所ニ於テハ此ノ限ニアラス
- 前項ノ外必要ナル場所ニ郵便切手賣下所ヲ置キ郵便切手類ノ賣下ヲ爲サシム
- 第三條 郵便切手類ハ前條ニ定メタル場所ノ外ニ於テ賣下クルコトヲ得ス
- 第四條 郵便切手類ハ定價ヲ以テ賣下クヘシ
- 第五條 郵便切手類ノ汚損毀損シタルモノ又ハ效用ヲ闕クヘキ虞アルモノハ賣下クルコトヲ得ス
- 第六條 郵便切手類ノ賣下時限ハ郵便及電信局所ニ於テハ郵便又ハ電報受附時限ニ依リ電話局所ニ於テハ電話所ノ電話通信時間ニ依ル
- 郵便受取所及郵便切手賣下所ニ於テハ左ノ時限中ハ郵便切手類ノ賣下ヲ謝絶スルコトヲ得ス

自三月一日至十月三十一日

午前六時ヨリ午後十時マテ

自十一月一日至二月末日

午前七時ヨリ午後十時マテ

第七條 郵便電信及電話局所並郵便切手賣下所ニ於テ賣下クヘキ郵便切手類ハ豫メ日々ノ賣下高ヲ見積リ常ニ相當ノ種類及員數ヲ備ヘ置クヘシ

第八條 三等郵便及電信局ニ於テ賣下クヘキ郵便切手類ハ所轄一二等郵便電信局郵便局ヨリ買受クヘシ

郵便受取所及郵便切手賣下所ニ於テ賣下クヘキ郵便切手類ハ所轄郵便電信局郵便局ヨリ買受クヘシ但シ所轄郵便電信局郵便局ニ於テ差支アルトキハ其ノ承認ヲ受ケ他ノ郵便電信局郵便局ヨリ買受ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ買受ノ都度其ノ承認書ヲ呈示スヘシ
船舶内ノ郵便切手賣下所ニ於テ寄港地所在ノ郵便電信局郵便局ヨリ隨時郵便切手類ノ買受ヲナサムトスルトキハ豫メ所轄郵便電信局郵便局ノ承認ヲ受ケ前項但書ノ例ニ依リ其ノ買受ヲ爲スコトヲ得

第九條 三等郵便及電信局郵便受取所及郵便切手賣下所ニ於テ賣下クヘキ郵便切手類ハ其ノ買受高ニ對シ左ノ割引ヲ以テ賣下クヘシ

- 一 三等郵便及電信局ニ對シテハ郵便切手類買受高ノ千分ノ五十
- 二 郵便受取所及郵便切手賣下所ニ對シテハ郵便切手類買受高ノ千分ノ三十五

第十條 郵便切手類ハ破産若ハ家資分産ノ宣告ヲ受ケ又ハ國稅滯納處分法ニ依リ財産ヲ公賣ニ付スルトキ及監獄則第二十四條ニ依リ監獄慈善ノ用ニ充ツルトキニ限リ百分ノ十ノ割引ヲ以テ一等郵便電信局ニ於テ之ヲ買戻スコトアルヘシ但シ汚損毀損シタルモノ又ハ效用ヲ闕クヘキ虞アルコトヲ得

ルモノハ此ノ限ニアラス

第十一條 三等郵便及電信局郵便受取所及郵便切手賣下所カ買受タル郵便切手類ノ汚斑毀損シタルモノ又ハ效用ヲ闕クヘキ虞アルモノアルトキハ所轄一二等郵便電信局郵便局ニ其ノ交換ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ外三等郵便及電信局郵便受取所及郵便切手賣下所ノ廢止又ハ三等郵便及電信局長並郵便受取所取扱人ノ退職若ハ死亡ノ場合ニ於テ殘存セル郵便切手類ハ所轄一等郵便電信局ニ其ノ買戻ヲ請求スルコトヲ得

第十二條 前條第一項ノ郵便切手類ハ定價ニ對シ百分ノ十ノ割引ヲ以テ交換ヲ爲スヘシ但シ天災事變其ノ他避クヘカラサル事故ニ起因スルモノハ額面ヲ以テ交換ヲ爲スコトアルヘシ

前條第二項ノ郵便切手類ハ第九條ノ割引額ニ相當スル金額ヲ控除シ之ヲ買戻スコトアルヘシ

第一項ノ場合ニ於テ割引計算上交換價格ニ一錢未滿ノ端數ヲ生スルトキハ五厘以上ハ五厘ヲ以テ計算シ五厘未滿ハ切捨トス

第十三條 第二條第二項ニ依リ郵便切手類ノ賣下ヲ爲サムトスル者ハ郵便切手賣下免許申請書第一號ヲ作り所轄一二等郵便電信局郵便局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

第十四條 一二等郵便電信局郵便局ニ於テ郵便切手類ノ賣下ヲ許可スルトキハ郵便切手賣下免許證ヲ交付スヘシ

第十五條 郵便切手賣下人ハ自費ヲ以テ郵便切手賣下所標札第二號ヲ調製シ公衆ノ看易キ場所ニ掲出スヘシ但シ船舶内ノ郵便切手賣下所ハ郵便切手類ノ賣下ヲ表彰スヘキ適宜ノ標札ヲ掲出スルコトヲ得

第十六條 一二等郵便電信局郵便局郵便區内ノ郵便受取所及郵便切手賣下所ハ郵便切手類ノ買受組合ヲ設ケ總代人ヲ置キ其ノ買受ヲ爲スヘシ

前項郵便切手類買受組合ハ郵便受取所及郵便切手賣下所ノ數ノ多寡ニ應シ一組合又ハ數組合ニ分チ所轄一二等郵便電信局長郵便局長之ヲ定ム

郵便區市内ノ郵便受取所及郵便切手賣下所十五箇所ニ滿タサルモノ並郵便區市外ノ郵便受取所及郵便切手賣下所ハ郵便切手類買受組合ヲ設ケサルモ妨ナシ

第十七條 郵便切手類買受組合總代人ハ郵便受取所取扱人及郵便切手賣下人中ヨリ互選シ每組合ニ一人ヲ置クヘシ但シ東京郵便電信局郵便區内ノ郵便切手類買受組合總代人ハ郵便受取所取扱人中ヨリ選舉スヘシ

總代人ヲ選舉シタルトキハ連署ヲ以テ所轄一二等郵便電信局長郵便局長ニ届出認可ヲ受クヘシ

第十八條 郵便切手類買受組合總代人ノ選舉手續選舉期日及其ノ任期等ハ所轄一等郵便電信局長之ヲ定ム但シ總代人ノ任期ハ滿一箇年以上三箇年以内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十九條 一二等郵便電信局長郵便局長ニ於テ郵便切手類買受組合總代人ヲ不適當ト認メタルトキハ更ニ改選ヲ命スルコトアルヘシ第十七條第二項ニ依リ總代人ヲ届出タル場合ニ於テ之ヲ不適當ト認メタルトキ亦同シ

第二十條 郵便受取所取扱人及郵便切手賣下人ト其ノ郵便切手類買受組合總代人トノ間ニ於ケル郵便切手類及其ノ代金ノ受授並組合ノ費用ニ關スル條件等ハ各其ノ組合ノ協議ヲ以テ之ヲ定メ所轄一二等郵便電信局長郵便局長ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條 三等郵便及電信局ノ郵便切手類買受回數ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一 一箇月買下高百圓未滿
 二 一箇月買下高百圓以上二百圓未滿
 三 一箇月買下高二百圓以上

一箇月二回
 一箇月三回
 一箇月四回

郵便受取所及郵便切手買下所ノ郵便切手類買受組合總代人ヨリ請求スルモノハ毎日一回其ノ他ハ一箇月二回ヲ超ユルコトヲ得ス

前各項ノ制限ニ依リ難キ事情アルモノハ當該局所ノ申請ニ依リ所轄郵便電信局長郵便局長ニ於テ特ニ其ノ買受回數ヲ増加スルコトヲ得臨時多數ノ買下等アリタルトキ亦同シ

第二十二條 三等郵便及電信局ニ於テ郵便切手類ノ買受ヲ爲サントスルトキハ郵便切手類買受請求書^{第三號}ヲ作り代金ト共ニ所轄二等郵便電信局郵便局ニ差出シ其ノ買下ヲ求ムヘシ

郵便切手類買受組合總代人郵便切手類買受組合ヲ設ケサル郵便受取所取扱人及郵便切手買下人ニ於テ郵便切手類ノ買受ヲ爲サントスルトキハ前項ト同一ノ手續ニ依リ所轄郵便電信局郵便局ニ其ノ買下ヲ求ムヘシ

郵便切手類買受組合區域内ノ郵便受取所取扱人及郵便切手買下人ニ於テ郵便切手類ノ買受ヲ爲サントスルトキハ第一項ノ手續ニ準シ郵便切手類買受組合總代人ニ其ノ買受ヲ申込ムヘシ

第二十三條 三等郵便電信局郵便局郵便區市外ノ郵便受取所取扱人又ハ郵便切手買下人ニ於テ豫メ所轄局ノ承認ヲ得タルトキハ其ノ所轄局集配人ニ郵便切手類ノ買受ヲ依託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ郵便受取所取扱人又ハ郵便切手買下人ハ當該局長ト協議シ郵便切手類買受依託ノ條件並其ノ責任ニ關スル事項ヲ定メ所轄一等郵便電信局長ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條 郵便受取所取扱人及郵便切手買下人ハ其ノ印鑑ヲ所轄郵便電信局郵便局ニ届出ヘシ

改印又ハ紛失ノトキ亦同シ但シ郵便切手類買受組合ヲ設ケタルモノハ其ノ組合總代人ノ外本條ノ届出ヲ要セス

第二十五條 郵便切手買下人改姓名ヲ爲シタルトキ又ハ郵便切手買下免許證ヲ毀損若ハ亡失シタルトキハ所轄一二等郵便電信局郵便局ニ其ノ郵便切手買下免許證ノ書替又ハ再渡ヲ申請スヘシ

第二十六條 一二等郵便電信局郵便局ニ於テ前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ郵便切手買下免許證ヲ書替交付シ又ハ其ノ再渡ヲ爲スヘシ

第二十七條 郵便切手買下人其ノ住所ヲ移轉シタルトキハ速ニ所轄一二等郵便電信局郵便局ニ届出ヘシ

郵便切手買下人其ノ郵便切手買下所ヲ移轉セムトスルトキハ三十日以前ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ他ノ郵便電信局郵便局區内ニ移轉セムトスルトキハ三十日以前ニ廢業ノ届出ヲ爲スヘシ

第二十八條 郵便切手買下人廢業セムトスルトキハ三十日以前ニ所轄一二等郵便電信局郵便局ニ届出ヘシ

第二十九條 郵便切手買下人自ラ廢業ノ届出ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ逃亡失踪若ハ死亡シタルトキハ其ノ家族又ハ親族ニ於テ速ニ廢業ノ届出ヲ爲スヘシ

第三十條 郵便集配區劃ノ變更郵便函場ノ廢置郵便切手買下所ノ位置ノ關係其ノ他郵便切手買下人ヲ不適當ト認ムル場合ニ於テハ所轄一二等郵便電信局郵便局ニ於テ郵便切手買下人ニ廢業

ヲ命スルコトアルヘシ

第三十一條 一二等郵便電信局郵便局ニ於テ第二十七條第二項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ其ノ移轉地ヲ郵便切手賣下所ノ位置ニ適當ト認ムルモノハ郵便切手賣下免許證ヲ書替交付シ其ノ不適當ト認ムルモノハ廢業ヲ命スヘシ

第三十二條 郵便切手賣下人自ラ廢業スルトキ又ハ廢業ヲ命セラレタルトキハ郵便切手賣下免許證ヲ所轄一二等郵便電信局郵便局ニ返納スヘシ

第三十三條 郵便受取所取扱人及郵便切手賣下人ハ其ノ郵便受取所及郵便切手賣下所ニ設置シアル郵便函又ハ其ノ近傍ニ設置シアル郵便函ヲ保護スヘシ

若避クヘカラサル事故ニ因リ郵便函ノ水火盜難ニ罹リタルトキ又ハ其ノ毀損若ハ郵便物集配時刻表ノ剝脱汚損シタルトキハ速ニ所轄郵便電信局郵便局ニ報告スヘシ

第三十四條 郵便受取所取扱人又ハ郵便切手賣下人郵便函ノ位置ヲ變更スルノ必要アリト認メタルトキハ所轄郵便電信局郵便局ニ申出ヘシ

第三十五條 此ノ規則ニ依リ三等郵便電信局郵便局區内ノ郵便受取所及郵便切手賣下所ヨリ一等郵便電信局ニ差出スヘキ文書又ハ返納スヘキ郵便切手賣下免許證ハ其ノ所轄三等郵便電信局郵便局ヲ經由スヘシ

一等郵便電信局ヨリ交付スヘキ文書又ハ郵便切手賣下免許證ハ所轄三等郵便電信局郵便局ヲ經テ之ヲ交付スヘシ

第三十六條 第三十三條及第三十四條ノ文書ハ無料郵便トシテ差出スコトヲ得

第三十七條 第三條乃至第五條ニ違反シタルモノハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 郵便切手賣下人此ノ規則ニ違背シタルトキハ郵便切手賣下免許ヲ取消スコトアルヘシ

第二十九條 郵便受取所及郵便切手賣下所ニ對シ一二等郵便電信局郵便局ノ有スル職務權限ハ在外郵便受取所及郵便切手賣下所ヲ所轄スル在外郵便電信局郵便局ニ準用ス

第四十條 郵便及電信局所内又ハ電話交換局内ニ設置ノ電話所ヲ除ク外電話所ニ於ケル郵便切手類ノ賣下ニ關シテハ總テ郵便受取所ニ於ケル郵便切手類ノ賣下ニ關スル規定ヲ準用ス

附則

第四十一條 此ノ規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

明治三十二年^三逓信省令第十一號郵便切手及收入印紙賣下規則並此ノ規則ニ牴觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

第四十二條 此ノ規則施行以前郵便切手賣下所ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ效力ヲ繼續ス

現在ノ郵便切手類買受組合總代人ハ此ノ規則施行ノ爲資格ヲ失フコトナク又其ノ任期ヲ中斷セラルルコトナシ但シ所轄一二等郵便電信局長郵便局長ニ於テ現在ノ組合區域ヲ變更スルトキハ此ノ限ニアラス

(第一號様式)

郵便切手類賣下免許申請書

本籍
現住所
職業

右ハ現住所又ハ何地若ハ所有船何丸ニ於テ郵便切手類賣下致度候間免許相成度此段申請候也
年 月 日 氏 名

何郵便電信局(郵便局)

御中

氏 名
名 印

(第二號樣式)

二 尺 五 寸

七 寸 五 分

口 郵 便 切 手 賣 下 所

(第三號樣式)

郵便切手類買受請求書

- 一 郵便切手何錢 此價格金何程 何 枚
- 一 郵便切手何十錢 此價格金何程 何 枚
- 一 郵便通常票何錢 此價格金何程 何 枚
- 一 郵便往復票何錢 此價格金何程 何 枚
- 一 長形郵便封皮何錢 此價格金何程 何 枚

此價格金何程

合計價格金何程

此割引金何程

但千分ノ五十又ハ三十五

差引買受代金何程

右請求候也

現住所

何郵便電信局長若ハ郵便局長
又ハ何郵便受取所取扱人若ハ
郵便切手賣下人

氏 名 印

年 月 日 何郵便電信局(郵便局) 御中

○内務省令第四十四號
娼妓取締規則左ノ通之ヲ定ム

明治三十三年十月二日

内務大臣侯爵西郷從道

娼妓取締規則

- 第一條 十八歳未満ノ者ハ娼妓タルコトヲ得ス
- 第二條 娼妓名簿ニ登録セラレサル者ハ娼妓ヲ爲スコトヲ得ス
娼妓名簿ハ娼妓所在地所轄警察官署ニ備フルモノトス
- 娼妓名簿ニ登録セラレタル者ハ取締上警察官署ノ監督ヲ受クルモノトス
- 第三條 娼妓名簿ノ登録ハ娼妓ヲラントスル者自ラ警察官署ニ出頭シ左ノ事項ヲ具シタル書面ヲ以テ之ヲ申請スヘシ
 - 一 娼妓下爲ルノ事由
 - 二 生年月
 - 三 同一戸籍内ニ在ル最近尊族親、尊族親ナキトキハ戸主ノ承諾ヲ得タルコト若シ承諾ヲ與フヘキ者ナキトキハ其ノ事實
 - 四 未成年者ニ在テハ前號ノ外實父、實父ナキトキハ實母、實父母ナキトキハ實祖父、實父母實祖父ナキトキハ實祖母ノ承諾ヲ得タルコト
 - 五 娼妓ヲ爲スヘキ場所
 - 六 娼妓名簿登録後ニ於ケル住居
 - 七 現在ノ生業但シ他人ニ依リテ生計ヲ營ム者ハ其ノ事實

八 娼妓タリシ事實ノ有無竝ニ嘗テ娼妓タリシ者ハ其ノ稼業ノ開始廢止ノ年月日、場所、娼妓タリシトキノ住居及稼業廢止ノ事由

九 前各號ノ外廳府縣令ヲ以テ定メタル事項
前項ノ申請ニハ戶籍吏ノ作リタル戶籍謄本、前項第二號第四號ノ承諾書及市區町村長ノ作リタル承諾書印鑑證明書ヲ添付スヘシ

娼妓名簿登錄申請者ハ登錄前廳府縣令ノ規定ニ從ヒ健康診斷ヲ受クヘキモノトス

第四條 娼妓稼ヲ禁止セラレタル者ハ娼妓名簿ヨリ削除セラル、モノトス

前項ノ外娼妓名簿ノ削除ハ娼妓ヨリ之ヲ申請スルモノトス但シ未成年者ニ在テハ前條第一項第三號及第四號ニ掲グル者ヨリモ之ヲ申請スルコトヲ得

第五條 娼妓名簿削除ノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テスヘシ
前項ノ申請ハ自ラ警察官署ニ出頭シテ之ヲ爲スニ非サレハ受理セサルモノトス但シ申請書ヲ郵送シ又ハ他人ニ托シテ之ヲ差出ス場合ニ於テ警察官署カ申請者自ラ出頭スルコト能ハサル事由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

警察官署ニ於テ娼妓名簿削除申請ヲ受理シタルトキハ直ニ名簿ヲ削除スルモノトス

第六條 娼妓名簿削除申請ニ關シテハ何人ト雖妨害ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 娼妓ハ廳府縣令ヲ以テ指定シタル地域外ニ住居スルコトヲ得ス
娼妓ハ法令ノ規定若ハ官廳ノ命令ニ依リ又ハ警察官署ニ出頭スルカ爲外出スル場合ノ外警察官署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ外出スルコトヲ得ス但シ廳府縣令ノ規定ニ依リ一定ノ地域内ニ於テ外出ヲ許ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 娼妓稼ハ官廳ノ許可シタル貸座敷内ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 娼妓ハ廳府縣令ノ規定ニ從ヒ健康診斷ヲ受クヘシ

第十條 警察官署ノ指定シタル醫師又ハ病院ニ於テ疾病ニ罹リ稼業ニ堪ヘサル者又ハ傳染性疾患アル者ト診斷シタル娼妓ハ治療ノ上健康診斷ヲ受クルニ非サレハ稼業ニ就クコトヲ得ス

第十一條 警察官署ハ娼妓名簿ノ登錄ヲ拒ムコトヲ得
廳府縣長官ハ娼妓稼業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトヲ得

第十二條 何人ト雖娼妓ノ通信、面接、文書ノ閱讀、物件ノ所持、購買其ノ他ノ自由ヲ妨害スルコトヲ得ス

第十三條 左ノ事項ニ該當スル者ハ二十五圓以下ノ罰金又ハ二十五日以下ノ重禁錮ニ處ス

一 虛偽ノ事項ヲ具シ娼妓名簿登錄ヲ申請シタル者

二 第六條第七條第九條第十二條ニ違背シタル者

三 第八條ニ違背シタル者及官廳ノ許可シタル貸座敷外ニ於テ娼妓稼ヲ爲サシメタル者

四 第十條ニ違背シタル者及第十條ニ依リ稼業ニ就クコトヲ得サル者ヲシテ強テ稼業ニ就カシメタル者

五 第十一條ノ停止命令ニ違背シタル者及稼業停止中ノ娼妓ヲシテ強テ稼業ニ就カシメタル者

六 本人ノ意ニ反シテ強テ娼妓名簿ノ登錄申請又ハ登錄削除申請ヲ爲サシメタル者

第十四條 本令ノ外必要ナル事項ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 本令施行ノ際現ニ娼妓タル者ハ申請ヲ待タズシテ娼妓名簿ニ登錄セラル、モノトス

○內務省令第四十五號

明治三十一年內務省令第五號北海道廳鐵道書記試驗規則中左ノ通改正ス

明治三十三年十月十三日

內務大臣 侯爵西鄉從道

北海道廳鐵道書記試驗規則

第七條「シ」ヲ「ス」トシ其字以下删除ス

〔參照〕

內務省令第五號北海道廳鐵道書記試驗規則(明治三十一年五月十八日)抄錄

第七條 試驗合格者ニハ合格證書ヲ附與シ其ノ有効期限ヲ一箇年トス

○內務省令第四十六號

明治三十三年四月內務省令第十五號牛乳營業取締規則第五條第二號牛乳中ニ移行スヘキ毒藥劇藥處方ニ關スル件左ノ通定ム

明治三十三年十月二十日

內務大臣 文學博士 男爵末松謙澄

第二條 牛乳中ニ移行スヘキ毒藥劇藥品目左ノ如シ

- 石炭酸
- 安知母紐鹽類
- 砒素及其ノ化合物
- 銅鹽類
- 越礬利涅、斯篤利幾尼涅其ノ他「アルカロイ」及其ノ鹽類
- 菲沃斯草
- 別刺敦那草

- 水銀鹽類
- 沃度加留謀
- 阿片
- 鉛鹽類
- 藜蘆根
- 番木鱈子
- 亞鉛鹽類

以上ノ藥品ヲ含有スル諸製劑

第二條 獸醫前條ノ毒藥劇藥ヲ處方シタルトキハ其ノ旨ヲ牛乳營業者ニ告知スヘシ

第三條 獸醫前條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○內務省令第四十七號

治安警察法第十八條ニ依リ武器其ノ他ノ物件攜帶禁止ノ件左ノ通之ヲ定ム

明治三十三年十月二十五日

內務大臣 文學博士 男爵末松謙澄

土方稼八、炭坑稼八、仲仕稼八、川邊稼八、ハ佐賀縣小城市、島郡西松浦郡、東松浦郡ニ於テ武器爆發物又ハ武器ヲ仕込ミタル物件ヲ攜帶スルコトヲ得ス但シ職業ノ爲メ監督者ノ指揮ニ依リ爆發物ヲ攜帶スルハ此ノ限りニ在ラス

○大藏省令第三十二號

臨時稅關工專部ニ要スル汽機汽罐供給ノ競争ニ加ハラントスル者ハ會計規則第六十九條ニ定メタル資格ノ外尙ホ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

明治三十三年十月三十一日

大藏大臣 子爵渡邊國武

第一 二箇年以來引續キ原動力ヲ使用シ且ツ之ニ相當スル機械ノ設備ヲ有シ汽機汽罐類ヲ製造シタル經驗アルコト

第二 帝國大學ニ於テ機械學科ヲ卒業シタル者若クハ之ト同等以上ノ學識ヲ有スル技術者ヲシテ二箇年以上引續キ其業務ヲ擔當セシメ居ルコト

○陸軍省令第二十九號

陸軍召募規則中左ノ通改正ス

明治三十三年十月六日

陸軍大臣 子爵桂 太郎

第五條中「諸工長候補生」ノ下ニ「縫靴工長候補生」ヲ加ヘ「軍醫學校生徒」ノ次ニ「縫靴工長候補生」（陸軍部採用者ハ六月一日及十二月一日ヲ加フ）

第二十三條第一項中「同條第三ニ該ル者」ハ學校長ノ學力證明書（第五號）ヲ削ル

第二十五條第一項中但書ヲ削ル

第二十六條第一項中「移スヘシ」ヲ「差出スヘシ」ニ改ム

第二十七條中「七月二十日」ヲ「七月十日」ニ改ム

第二十八條中「七月三十一日」ヲ「七月二十日」ニ「送付スヘシ」ヲ「差出スヘシ」ニ改ム

第二十九條中「送付スヘシ」ヲ「差出スヘシ」ニ改ム

第三十條中「送付スヘシ」ヲ「差出スヘシ」ニ改ム

第三十一條中「送付スヘシ」ヲ「差出スヘシ」ニ改ム

第三十二條第二項中「送付スルトキ」ヲ「差出ストキ」ニ「通報スヘシ」ヲ「報告スヘシ」ニ改ム

第三十三條中「送付セル」ヲ「受領スル所」ニ改ム

第三十七條中「送付スヘシ」ヲ「差出スヘシ」ニ改ム

第三十八條中「通知ニ依リ」ヲ「達ニ依リ」ニ改ム

第三十九條中「習字」ヲ「楷行」ヲ削ル

第四十六條第一項ヲ左ノ如ク改ム

地方幼年學校長ハ前條ノ書類ヲ審査シ検査場毎ニ區分シタル志願者八名書ヲ製シ二月二十日迄ニ教育總監ニ差出スヘシ但該人名書ニハ族籍、年齡、居住地及戰死並ニ戰傷ニ依リ死歿シ又ハ戰役中危難ヲ冒シタルニ起因シテ死歿シタル陸海軍將校同相當官及高等文官ノ孤兒ニ在テハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第九十六條中「陸軍大臣」ノ下ニ「及教育總監」ヲ加フ

第八條 現役縫工、靴工ノ初年兵ヨリ志願ノ者ハ第八條ニ定ムル願書ヲ六月入校セントスル者ハ三月二十日、十一月入校セントスル者ハ九月二十日迄ニ隊長ニ差出シ隊長ハ其ノ人員ヲ同月三十日迄ニ經理學校長ニ通知スヘシ

第九條 陸軍部外ヨリ志願ノ者ハ第八條ニ定ムル願書其ノ他ノ書類ヲ二月二十八日迄ニ居住地ノ市町村長ニ差出シ市町村長ハ之ヲ調査シ與書證印シテ三月二十日迄ニ聯隊區司令官（市町村長ハ之ヲ送付スヘシ）

第十條 聯隊區司令官ハ前條ノ書類ヲ調査シ志願者ノ人員ヲ三月三十一日迄ニ經理學校長ニ通知スヘシ

第十一條 經理學校長ハ學科試験問題、試験期日及試験施行ノ方法ヲ定メ祕封シテ六月入校者ニ付テハ四月十日、十一月入校者ニ付テハ十月十日迄ニ隊長及聯隊區司令官ニ送付シ同時ニ陸軍部外ノ志願者身體検査ノ爲メ聯隊區司令官ヘ軍醫ノ派遣ヲ師團長ニ請求シ師團長ハ軍醫ヲ派遣シ聯隊區司令官ノ指示ヲ受ケシムヘシ

第十二條 兵卒ノ學科試験ハ所屬隊ニ於テ該隊長、陸軍部外志願者ノ検査ハ聯隊區内便宜ノ地ニ於テ該司令官之ヲ行フ

第十三條 各隊長及聯隊區司令官、試験終レハ其ノ答解書ヲ祕封シ之ニ志願者ヨリ差出シタル書類及志願者連名簿（第七號）ヲ添ヘ六月入校者ニ付テハ五月五日、十一月入校者ニ付テハ十一月五日迄ニ經理學校長ニ送付スヘシ但隊長ハ採否ノ參考トナルヘキ事項（技術又ハ特）ヲ各自ノ答解書ニ附記スヘシ

第十四條 經理學校長ハ前條ノ書類ヲ審査シ其ノ成績ニ依リ採用スヘキ者ト否トヲ定メ隊長若

ヲハ聯隊區司令官、郡市長及町村長ヲ經テ之ヲ本人ニ通達シ其採用スヘキ者ニハ繼、靴工長候補生及入校ヲ命スヘシ

第百十五條 陸軍部外ノ志願者ニシテ入校ヲ命セラレタル者ノ旅費ハ本人居住地所管師團監督部ヨリ支給ス

第百十條ヲ第百十六條ニ改メ以下第百十三條迄逐條繰下ク

第百十四條ヲ第百二十條ニ改メ同條中「但」ノ下ニ「第一師管ニ在テハ二」試験場ヲ設ケ又ヲ加フ

第百十五條ヲ第百二十一條ニ改メ同條第二項中「照會スヘシ」ヲ「達スヘシ」ニ改ム

第百十六條ヲ第百二十二條ニ改メ「第百十七條」ヲ「第百二十三條」ニ改ム

第百十八條ヲ第百二十四條ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

當分ノ内第一、第二及第八師管在籍者ニシテ第七師管ニ寄留シ第七師團ノ各兵科下士候補生、蹄鐵工長候補生及衛生部下士候補生ヲラント欲スル者ハ其ノ寄留地ニ於テ召募ニ應スルコトヲ得

其ノ取扱ハ第七師管在籍ノ者ニ同シ

第百十九條ヲ第百二十五條ニ改メ「第百二十條」ヲ「第百二十六條」ニ改ム

第二號書式ノ「中」(學力證明書)ヲ削ル

同書式ノ六中「戸籍明細書」ヲ「戸籍ノ謄本」ニ改メ「追テ東京(大阪)ニ於テ受檢冀望致候也」ヲ削ル

第三號書式ノ末尾ニ左ノ一項ヲ加フ

他家ノ補助ニ依リ修學スル等ノ者ニ在テハ本書相當ノ區畫ニ親族何某ノ補助ヲ受ケ修學ス等其ノ事實ヲ詳記スヘシ

本年陸軍省告示第十一號ニ依リ續、靴工長候補生志願者ニ係ル召募ノ手續ハ従前ノ規定ニ依ル第四號書式(用紙美濃紙)

保證書

府縣族籍
日主レハ生コアラナ

氏名
年月日生

何師團長氏名殿

何中學校長 氏名印

本證書ハ親族封書ト爲スヘキモノトス

何某卒業試験(進級試験)成績表

科目	何	何	何	何	何	何	何	何	何	合計平均	列	序	
	85	90	76	80	84	95	75	85	82	88	84.0	54/100	6/48

本例ニ於テハ試験科目數ヲ十箇トシ其ノ定點ヲ百點トシテ製表ノ例ヲ示スト雖其ノ區畫ハ科目數ニ應シテ之ヲ設ケ其ノ定點ハ各學校ノ規定ニ依ルヘキモノトス

成績ヲ現ハスニ評點ヲ以テセス評點ヲ以テスル學校ニ在テハ本表ノ點數ヲ評點ヲ以テ現ハスコトヲ得

本例中各科目ノ平均點ニ於テ $\frac{64}{100}$ ト記シタルハ平均得點八十四點ニシテ其ノ定點百點タルヲ表シ列序ニ於テ $\frac{6}{48}$ ト記シタルハ卒業若クハ第五學年ニ進級セシ人員四十八人ニ對スル第六番ノ列次タルコトヲ表スモノトス

第五號書式 削除

〔參照〕

陸軍省令第三十四號陸軍召集規則(明治三十二年十一月十五日)抄錄

- 第五條 入隊又ハ入校期日左ノ如シ
 - 士官候補生 十二月一日
 - 各兵科下士候補生 十二月一日
 - 諸工長候補生 十二月一日
 - 衛生部下士候補生 十二月一日
 - 軍樂學校生徒 九月一日
 - 地方幼年學校生徒 六月一日
 - 軍醫學校生徒 六月一日
- 第二十三條 陸軍部外ノ志願者ハ第八條ニ定ムル種類ノ外陸軍補充條例第七條第二ニ該ル者ハ學校長ノ保護書(第四條同條)第三ニ該ル者ハ學校長ノ學力證明書(第五條)及各自ノ入隊スヘキ隊長ノ承認書(第六條)ヲ願書ニ添附シ檢査ヲ受クヘキ前年ノ十一月三十日迄ニ居住地ノ市町村長ニ差出シ町村長ハ之ヲ郡長ニ差出スヘシ但願書ニ冀望ノ兵種及隊號ヲ記載スヘシ
- 第二十五條 陸軍部内ノ志願者ハ第二十三條ノ例ニ依リ其ノ願書ヲ部隊長ニ差出シ部隊長ハ其ノ身分財產等ヲ調査シ身元(明細書)ヲ願書ニ添付シ兵籍簿及考課表(高年者ハ)ハハト共ニ願書ニ添付シテ十一月十日迄ニ所管師團長ニ差出スヘシ但一年志願兵ニシテ陸軍補充條例第七條第三ニ該ル者ハ學校長ノ學力證明書(第五條)ヲ要セス
- 第二十六條 前二條ノ身元明細書調製後第三十八條ノ通過アル迄ニ其ノ記載ノ事項ニ異動ヲ生シタル者アルトキハ郡市長又ハ部隊長ヨリ連ニ之ヲ師團長ニ報告シ師團長ハ之ヲ教育總監ニ移スヘシ但採用ノ通過ヲ受ケタル者ニ付テハ入隊迄本文ノ取扱ヲ爲スヘシ
- 第二十七條 中學全科卒業ニ至ラズト雖入隊スヘキ年ノ七月二十日迄ニ卒業スヘキ者ハ陸軍補充條例第七條第二ニ該ル者ニ準シ願出ルコトヲ得
- 第二十八條 前條ノ志願者中學全科卒業試驗ヲ終ルトキハ學校長ヨリ其ノ成績ニ對シテ(附)同學生徒ノ籍員及之ヲ師團長ニ報告シ師團長ハ七月三十一日迄ニ之ヲ教育總監ニ送付スヘシ
- 第二十九條 地方幼年學校生徒召集ノ試驗格左ノ如シ但試驗ノ程度ハ中學第一年度級終業ノ學力ニ比準ス
- 第三十條 地方幼年學校長ハ前條ノ書類ヲ審查シ檢査場毎ニ區分シタル志願者人名簿ニ通テ製シ二月二十日迄ニ其ノ一級シ又ハ戰役中危難ヲ冒シタルニ起因シテ死歿シタル陸海軍將校同相當官及高等文官ノ孤兒ハ其ノ旨ヲ記入スヘシ
- 第九十六條 各師團長ハ下士候補生ヲ採用シタル後ハ速ニ召集結果表(第九條)ヲ作り陸軍大臣ニ報告スヘシ

○陸軍省令第三十號

徵兵事務條例施行細則中北海道沖繩縣及東京府管下大島八丈島小笠原島ノ各徵募區ニ施行シ難キ諸件ハ當分左ノ諸條ニ依ル

- 明治三十三年十月十三日 陸軍大臣子爵桂 太郎
- 第一條 明治二十八年勅令第二百二十六號第三條第一項ニ當ル者ハ徵兵事務條例施行細則第二條ニ依ラス壯丁名簿ヲ作ルヘシ
- 第二條 明治三十年勅令第二百五十八號第二項ニ依リ徵集免除ニ屬スル者及同第三項ニ依リ徵集猶豫ニ屬スル者ハ身體檢査ヲ行ハス
- 第三條 明治二十八年勅令第二百二十六號第三條第一項及明治三十年勅令第二百五十八號ニ依リ徵集免除徵集猶豫ニ屬スル者ニハ徵兵事務條例施行細則第九條ノ例ニ依リ徵集猶豫證書ヲ付與シ又ハ徵集免除ノコトヲ達スヘシ
- 其ノ徵集免除又ハ徵集猶豫願ヲ許可セサル者ニハ徵兵事務條例施行細則第十條ノ例ニ依リ裁決

書ヲ付與スヘシ

第四條 明治二十八年勅令第二百六號第三條第二項ノ資格ヲ失ヒタル者アルトキハ該隊長又ハ後備兵村監視ヨリ本籍地ノ市町村長ニ通知スヘシ但シ其ノ資格ヲ失ヒタル者ノ内屯田下士兵卒ノ戸籍内ニ在ルモ兵村ノ業務ニ從事セサル者ニ付テハ其ノ事由ヲ詳記スヘシ

第五條 前條ノ通知ヲ受ケタル市町村長ハ異動壯丁名簿ヲ作り之ニ通知書ヲ添附シ町村長ハ其ノ年ノ壯丁名簿ト共ニ島司郡長ニ差出シ島司郡市長ハ聯隊區徵兵署ニ提出スヘシ但シ町村長前條ノ通知ヲ受ケタルトキ壯丁名簿進達後抽籤前ニ在テハ直ニ抽籤後ニ在テハ翌年ノ壯丁名簿ト共ニ差出スヘシ

第六條 明治二十八年勅令第二百六號第二條及明治二十年勅令第二百五十八號第三項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ町村長ニ於テ其ノ處分ヲ受ケタル翌年ヨリ徵集猶豫期限滿ツル迄毎年其ノ生業ノ狀況ヲ調査シ徵兵署開設ニ聯隊區徵兵官ニ報告スヘシ

第七條 沖繩警備隊區ニ於テ要員ヲ充スコト能ハサルトキハ警備隊區司令官ヨリ第六師團長ニ第六師團長ヨリハ之ヲ陸軍大臣ニ具狀スヘシ

第八條 徵兵事務條例第九條第二項ニ依リ補缺ヲ要スルトキハ該隊長又ハ海兵團長ヨリ之ヲ師團長ニ申請シ師團長ハ師管内該兵科第一補充兵ノ總員ヲ調査シ聯隊區ニ配賦シ聯隊區司令官ハ聯隊區内該兵科第一補充兵ノ總員ヲ調査シ之ヲ徵募區ニ配賦スヘシ

第九條 徵兵事務條例施行細則第二十五條ニ依ル第六師管徵兵表其一中沖繩警備隊區ヨリ第十二師團ニ徵集スル現役兵ノ人員ハ之ヲ朱書シ第六師團ニ徵集スル者ト區分スヘシ

第十條 沖繩縣ノ島司郡區長ハ現役兵第一補充兵及現役兵ニ繰上ケタル海軍補充兵ノ戸籍寫ヲ警

備隊區司令官ニ送附シ警備隊區司令官ハ第一補充兵ニシテ現役兵ニ繰上ケサル者ヲ除ク外之ヲ各隊長又ハ海兵團長ニ送附スヘシ

第十一條 徵兵事務條例第十一條ノ引率吏員ハ現役兵交付ノ際徵兵事務條例第十四條ノ入營延期願濟ノ者其ノ他事故不參ノ者ヲ八名及事由ヲ各隊長若シ海兵團長ニ通知シ又引率ノ際永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認ムル者アルトキハ其ノ診斷證書ヲ添ヘ警備隊區司令官ニ通報スヘシ

第十二條 徵兵事務條例施行細則中警備隊區司令官ノ職務ハ沖繩警備隊區ニ在テハ警備隊區司令官郡長郡書記ノ職務ハ北海道ニ在テハ北海道廳支廳長同支廳ノ屬市市長市書記ノ職務ハ北海道及沖繩縣ニ在テハ區長區書記町村長ノ職務ハ北海道沖繩縣及大島八丈島小笠原島ニ在テハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ

附則

明治三十一年陸軍省令第三號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十一年三月十日 陸軍省令第三號ハ徵兵事務條例施行細則中北海道及沖繩縣並小笠原島ニ施行シ雖キ附件取扱方ノ件ナリ

○陸軍省令第三十一號

明治三十年陸軍省令第二十二號陸軍埋葬規則中左ノ通改正ス

明治三十三年十月二十六日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第六條第三項中「ト雖モ以下ヲ」ハ其墓標ハ第八條ニ據リ建設シ其墳墓ノ坪敷ハ第七條但書ニ據ラサルコトヲ得ニ改ム

一ノ宮 相模	高座郡ノ内
	粟川村 茅ヶ崎村 鶴嶺村 御所見村 松林村大字
	小出村大字 下谷尾

○司法省令第四十號
 横濱地方裁判所管内横濱區裁判所一ノ宮出張所管轄相模國高座郡小出村大字下寺尾行谷ニ屬スル商業登記ノ事務ハ同區裁判所藤澤出張所ニ於テ之ヲ取扱フ

明治三十三年十月二十七日
 司法大臣男爵金子堅太郎

○文部省令第十七號

明治十九年文部省令第二十號中廳府縣令ノ下ニ訓令ヲ加フ
 明治三十三年十月三日
 文部大臣伯爵樺山資紀

〔參照〕

文部省令第二十號(明治十九年十一月十一日)
 學事ニ關スル廳府縣令ハ其公布ノ都度文部省ニ申報スヘシ
 但豫メ或申シタル件ハ此限ニアラス

○農商務省令第十九號

外國保險會社ニ關スル件左ノ通相定ム
 明治三十三年十月一日
 農商務大臣曾禰荒助

第一條 外國保險會社ノ保險事業ノ免許ノ申請ハ代表者ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

申請書ニハ明治三十三年勅令第三百八十號第三條ニ掲ケタル書類ノ外本店又ハ主タル事務所ノ存在ヲ認ムルニ足ル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第二條 外國會社カ明治三十三年勅令第三百八十號第三條第一項第一號乃至第四號及ヒ第六號ニ掲ケタル書類ノ變更ノ認可申請ヲ爲スニハ申請書ニ理由書ヲ添附スルコトヲ要ス

第三條 外國會社カ商法又ハ明治三十三年勅令第三百八十號ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク登記シタル事項及ヒ其登記ノ年月日ヲ農商務大臣ニ届出ツルコトヲ要ス但社員名簿ニ爲シタル記載ハ此限ニ在ラス

第四條 外國會社カ解散、合併又ハ組織變更ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク其旨ヲ農商務大臣ニ届出ツルコトヲ要ス

第五條 明治三十三年農商務省令第十五號第六條乃至第八條、第十條及ヒ第十四條乃至第二十一條ノ規定ハ外國會社ノ日本ニ於ケル事業ニ之ヲ準用ス

第六條 明治三十三年農商務省令第十五號第二十四條乃至第二十六條ノ規定ハ外國會社ニ之ヲ準用ス

第七條 前五條ノ規定ハ本令施行前ニ免許ヲ受ケタル外國會社ニ之ヲ準用ス但本令施行ノ日ヨリ一年間ハ明治三十三年農商務省令第十五號第八條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

附則

第八條 本令ハ明治三十三年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

○農商務省令第二十號

明治三十三年九月勅令第三百八十八號清國駐在製鐵所職員月手當金給與規則左ノ通相定ム

明治三十三年十月二十七日

農商務大臣林 有造

清國駐在製鐵所職員月手當金給與規則

- 第一條 鐵礦購入ノ爲メ清國ニ駐在シタル製鐵所職員ノ月手當金ハ駐在地著翌日ヨリ歸朝等ノ爲メ其地ヲ出發スル前日マテ之ヲ支給ス
 - 第二條 月手當金ハ駐在地ニ於テ新ニ任用セラレタル者ニハ命令ノ翌日ヨリ、他屬へ出向ヲ命セラレタル者ニハ職務ヲ離ル、日マテ、又轉任退官若クハ休職ヲ命セラレタル者ニハ命令到達ノ日マテ支給スルモノトス但退官若クハ休職者ニシテ特ニ事務引繼ヲ命セラレタル場合ニ於テハ其結了ノ日マテ之ヲ支給ス
 - 第三條 歸省轉地療養其他私事ノ爲メ旅行スルトキハ其間月手當金ヲ支給セズ
 - 第四條 増俸若シクハ轉官等ノ爲メ月手當金ノ増減ハ命令到達ノ翌日ヨリ計算ス
 - 第五條 駐在中死亡シタル場合ニ於テ死亡當月分ノ手當金ハ其全額ヲ支給ス
 - 第六條 月手當金ハ毎月文官俸給支給日ニ於テ支給スルモノトス但轉任退官休職又ハ死亡ノトキハ其際之ヲ支給ス
- 日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依ルヘシ

○逓信省令第七十六號

明治三十年月十二 逓信省令第三十二號電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通追加ス

一 桑名四日市間ノ次ニ左ノ一項

赤間 關門 司間 一金 二十錢 一金 十錢

逓信大臣子爵芳川顯正

一 赤間關福間ノ次ニ左ノ一項

門司 福間 一金 二十五錢 一金 十五錢

○逓信省令第七十七號

電信法ハ第二條第三條第二十八條及第四十三條ヲ除クノ外之ヲ無線電信ニ準用ス

明治三十三年十月十日

逓信大臣子爵芳川顯正

○逓信省令第七十八號

明治三十三年十月十五日

逓信大臣子爵芳川顯正

第四十九條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

外國ニ於テ手数料ヲ納付スヘキトキハ其額ハ左ノ規定ニ依ル

- 一 報告書ノ認證 一通ニ付 二圓
- 二 船長就職又ハ退職ノ認證 一件ニ付 四十錢
- 三 公認 但船員法第三十五條ノ場合ニ於テハ 被雇者一人ニ付 二十錢
- 四 公認ノ認證 被雇者一人ニ付 十錢
- 第四十九條第二項中「前項」トアルヲ「前二項」ト改ム 一件ニ付 十錢

○逓信省令第七十九號

明治三十三年十月二十六日

逓信大臣星 亨

明治三十三年十月 省令 逓信省第七十七號 第七十八號 第七十九號

〔参照〕

明治三十二年 六月十日 逓信省令第二十六號ハ船員法第七十九條ノ規定ニ依リ市町村長月長及之ニ準スヘキ者ヲシテ管海官
關ノ事務ヲ行ハシムル件ナリ

○内務省令第四十八號

明治二十四年五月當省第五號改正日本藥局方別冊ノ通追加明治三十四年三月一日ヨリ施行ス

明治三十三年十一月十九日

内務大臣文學博士男齋末松謙澄

(別冊)

沒食子酸

Acidum gallicum.

沒食子酸ハ絹絲様ノ光澤アル白色或ハ帶褐白色ノ鍼狀結晶ニシテ酸性ノ反應ヲ微シ臭氣ナク味澁
ク微ニ酸味ヲ帶フ百分ノ水三分ノ沸湯五分ノ酒精五分ノ依的兒及十二分ノ佩里設林ニ溶解ス
本品ノ水溶液ハ硝酸銀ヲ還元シ稀薄ノ過格魯兒鐵溶液ニ由テ藍黑色ノ沈澱ヲ生ス
本品ヲ白金板上ニ熱灼スレハ固性物ヲ殘留セシテ燃化スヘシ
本品ノ水溶液(H₂O)ハ硝酸拔留誤、膠或ハ蛋白ノ溶液ニ由テ沈澱ヲ生ス可カラズ
本品ハ百度ニ於テ乾燥シ復タ重量ヲ變セサルニ至ルニ其減失百分ニ付キ十分ニ過ク可カラズ
壺中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ貯フヘシ

乳酸

Acidum lacticum.

乳酸ハ澄明無色或ハ弱類黃色無臭舍利別稠ノ液ニシテ純酸味ヲ有シ水、酒精及依的兒ニハ隨意ノ
比例ニ於テ澄明ニ混和ス比重一・一二乃至一・二ナリ
本品ニ大約半容量ノ硫酸ヲ和シテ温ムレハ「アルデヒッド」ノ臭氣ヲ放ツ
本品ヲ弱ク温ムルモ脂肪酸ノ臭氣ヲ放タヌ又之ヲ熱灼スルニ固性物ヲ殘留セシテ燃化スヘシ又